



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5

始



森博士述

(非賣品)

保
險
學
完

昭和二年度東大講義

(行印社信文)

14-777



森
敏
俊
速
(非賣品)

險

學
完



昭
和
二
年
度
東
大
講
義

保險學目次

第一章	總論	一
第二章	保險之性質	一
第三章	保險之他類	二
第四章	保險之可能範圍	四
第五章	保險事業之起源	四
第六章	保險者	四
第七章	被保險者	五
第八章	保險事業之經營	五
第九章	保險業之分類	六
第十章	保險料	六
第十一章	還款	八
第十二章	保險之效果	九

一
 一〇
 〇三
 〇三
 〇九
 〇六
 〇五
 〇五
 〇四
 〇四
 〇二
 〇一
 〇一

目次終

第三章	海上保險	一八二
第一章	沿革	一八二

一八二

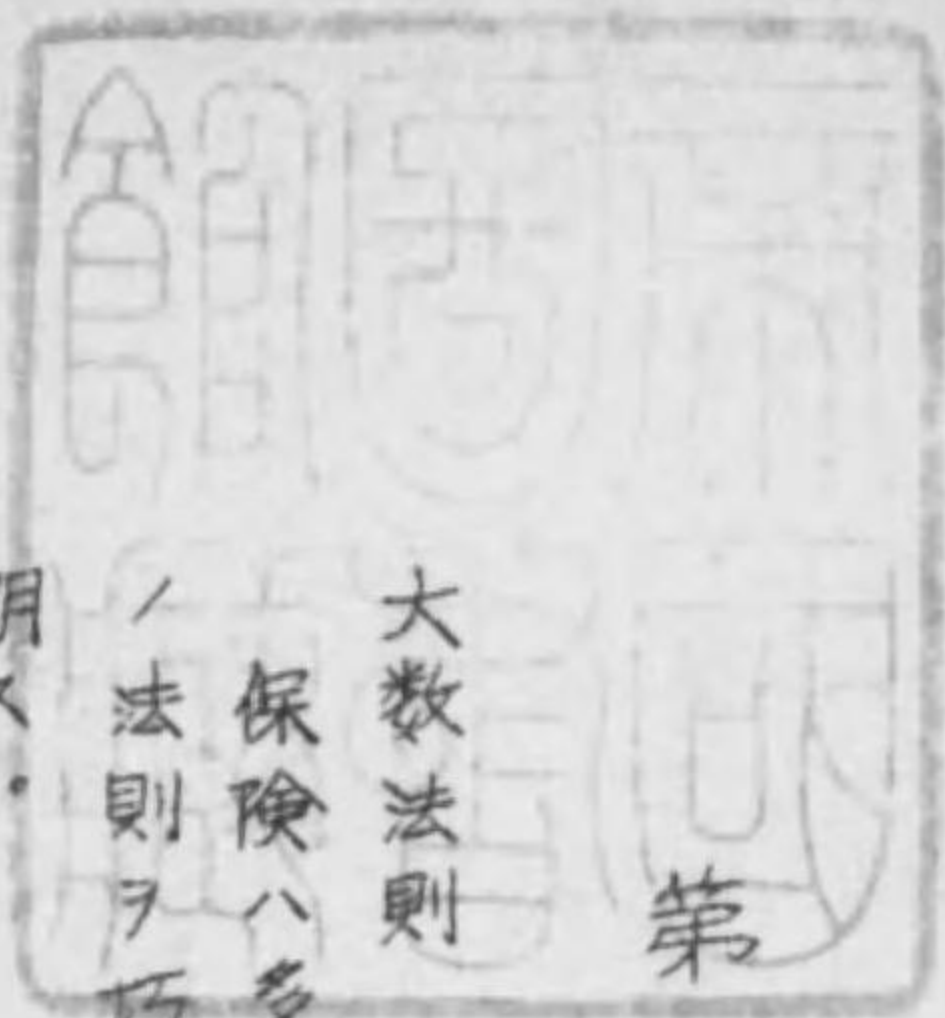
第二編

第十三章	人為的危險	一〇三
第十四章	私營保險業ノ監督	一〇七
第十五章	保險会社ノ計算	一一〇
第一部	〇生命保險	一三〇
第一章	生命表(死亡表又ハ死亡生成表)	一三〇
第二章	保險料ノ計算	一三八
第三章	〇保險積立金	一五三
第四章	其他ノ問題	一五九
第二部	〇火災保險	一六二
第一章	序言	一六二
第二章	危險ノ測定	一六四
第三章	危險ノ分散	一六九
第四章	〇火災保險約款	一七五

一〇三
一〇七
一一〇
一三〇
一三八
一五三
一五九
一六二
一六二
一六四
一六九
一七五

保 險 學

森 教 授 述



第一章 總論

大數法則

保險ハ多數ノ者ニ就テ平均ヲ求ムルコトヲ成立ノ基礎トス 即チ大數ノ法則ヲ巧ミニ利用スルコトニヨリテ成立スルモノナル故ニ先ツ之ヲ説明ス

自然現象又ハ社會現象ヲ研究スルニ當リ個別觀察又ハ小數觀察ニヨリテハ其ノ真相ヲ捕ヘ得ナイコト少カラス 然ルニ大數觀察ヲ行ヒソノ結果ヲ適當ニ整理スレハ複雑ナル現象ノ内ニモ一定ノ法則ノ存在ヲ見出シ

得ルコト多イ

此ノ如クシテ見出サレタル法則ヲ大数ノ法則トイフ。即チ大数ノ法則トハ大数観察ノ結果ヲ整理スルニヨリテ見出サレタル法則ヲ云フナリ。之ヲ整理スルニ當リテ普通ニ用ヒラレル方法ハ分類、比較、平均ノ三トスル。是等ノ理論的研究ハ統計学ニ讓ル。コ、ニハ一ニノ实例ヲ示スコトニ止マル。例ヘハ徴兵検査ニ於ケル身長ヲ一寸毎ニ分類スレハ左ノ如キ結果ヲ得シレル。

身長	人数	比例
四、八未満	七五七〇	一五〇
四、八—四、九	一四二五二	二八三
四、九—五、〇	三三四三四	六六三
五、〇—五、一	六〇四三一	一三一八
五、一—五、二	九五八七七	一九〇一
五、二—五、三	一〇六五一	二一一

五三—四 八六、八四〇 一七、二二
 五四—五五 五四、三三一 一〇、七八
 五五—五六 二五、九三五 五、一五
 五六以上 一三、〇二三 二、二八

是ニヨリテ我青年ノ身長ニ関スル概念カ得ラレル。此ノ如ク分類トイフ方法ニヨリテ得ラレタル大数ノ法則ヲ特ニ分類ノ法則ト名付ルコトモ出来ル。

次ニ我國ニ於ケル産業組合ノ發達ノ状況左ノ如シ

年	有限責任	無限責任	保証責任
三九	一〇、二一(四二、〇)	一、三七七(五、六四)	三九(一、六)
四四	五、二三五(六〇、八)	三、一八六(三、七〇)	一九三(三、二)
五六	八、三九三(六九、八)	三、三七六(三、八二)	二五六(八、三一)

此レニヨレハ産業組合ニ対スル我國民ノ思想ノ變遷ヲ知レコトカ出来ル。即チソノ組合ノ本旨ニ従フテ初メハ無限責任多カリシニ反シ世人ノ

要求ハ次第ニ有限責任ニ移リソノ責任ノ軽減スレコトヲ欲スルニ至リシ
 状況明カナリ。此ノ如ク比較ニヨリテ得ラレタル大数ノ法則ヲ特ニ比較
 ノ法則ト名付ケルコトカ出來ル。此ノ場合ニ参考ノタメニ速ヘテ置カネ
 ハナラヌコトハ分類又ハ比較ヲナスニ當リ実数(絶対数)ノ外ニ比例ヲ
 トルコトヲナセハ事物相互ノ關係ニハ一層明カニ知ルコトヲ得ル。之ハ
 既ニ上掲ノ例ニヨリテモ知ルコトヲ得ル。單ニ実数ヲ比較スルトキハソ
 ノ最初ノ目的タル事件ノ絶対的重要ノ程度ヲ知ル。然ルニ比例ヲトルト
 其ノ間ノ事物相互間ノ相互的重要ノ程度ヲ知レ。從ツテ一種異リタル方
 面カラソノ關係ヲ明カニ知ルコトヲ得。比例數ノ増減ハ實數ノ増減トハ
 必スシモ相伴フモノテナイコトハ上例ニテモ明カテアル。
 米國労働者ノ數ヲ見ルニ

	男子	女子
一八八〇	一四〇〇万人	八〇%
一九〇〇	二一〇〇万人	七七%
		二〇〇
		一三%
		五〇〇
		一六%

之ニヨリテ實數ノ増加ハ必スシモ比例ノ増加 件ハ又
 又小學校ノ兒童ノ身長及ヒ體重ヲ測定シテ其ノ結果ヲ平均シテ左ノ統
 計ヲ得タリトセヨ

年齢	身長平均	體重ノ平均
七	三五三 尺	四六九 三 匁
八	三六八	五一四 四
九	三八三	五六五 〇

コレニヨリテ小児ノ成長ニ一定ノ秩序ノ存在スルコトヲ知リ得ヘク同
 時ニソノ最モ代表的即チ標準的ノモノヲ知ルコトヲ得。斯クノ如ク平均
 數ヲ求ムルコトニヨリテ察見セラレタル大數ノ法則ヲ特ニ平均ノ法則ト
 名付ケルコトカ出來ル。平均數ヲトルニ當リ右ノ如ク單純平均數ヲトル
 コトモアルカ時トシテハ加重平均數ヲトルコトヲ適當トスルコトカアル
 例ヘハ生計費問題ヲ研究スルニ當リ米ノ價一割ノ騰貴、塩價一割ノ騰貴
 トヲ同視スルノカ不適當テアル。例ヘハ塩ノ價一ニ對シテ米ノ價一〇ノ

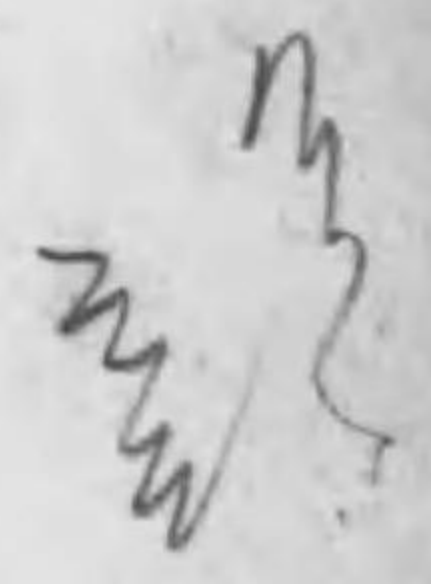
割合ヲ加重スルカ如シ。他ノ例ヲ以テイハ一万円ノ保険金支拂ノ三点ト一〇。万円保険金ノ支拂ノ一点トニ付テ單ニ之ヲ三対一ト考フルコトカ不適當ノ如シ。平均數ノ價值ノ大小ハ其ノ材料トナツタ多數ノ數字カソノ平均數ヲ離レル程度即チ偏差ノ大小ト反比例スル。從ツテ成ルヘク近似セル多數ノ數字ニツイテ平均ヲ求メタ時ニソノ平均數ノ價值カ最も大

個別觀察又ハ少數觀察ニヨリテハ容易ニ發見シ得ナイ法則カ何故ニ大數觀察ニヨリテ見出し得ルカトイフニ凡ソ一ツノ現象ニ對シテ影響ヲ及ホス多クノ原因中ニハ正常的ナモノト例外的ナモノトカアル。而シテ小數觀察ニアリテハ偶然トイフ要素ノ影響ヲ受ケルカラ。ソノ中何レカ正常的ナリヤ例外的ナリヤヲ知ルヲ得ナイケレトモ大數觀察ニヨレハ例外的ノモノハ互ニ相殺シテ其ノ姿ヲ隱シ從ツテ偶然トイフ要素ノ影響ヲ受ケルコト少ナク正常的ナルモノカ其ノ姿ヲ著シク著ハシテ來ル。コレニヨリテ初メテ複雑ナル現象中カラ一定ノ法則秩序ヲ見出し得ルニ至ル

大數法則ハ大數觀察ニヨリテ發見セラレルモノテアルカラ成ルヘク多クノ事物ヲナルヘク正確ニ觀察スレハソノ結果ハソレタケ真理ニ近イノテアル。

保險トイフ所ノ經濟制度ハ大數ノ法則特ニ平均ノ法則ヲ應用スルモノテアル。例ハハ生命保險ニ於ケル死亡率、火災保險ニ於ケル火災率ヲ計算スルカ如キハ多數ノ事物ノ觀察又ハ多年ノ經驗ニヨリテ得タル結果ヲ平均スルノテアツテ之ヲ基礎トシテ事業ヲ営ムカ故ニ保險事業カ學問的ニ行ハレ得ルノテアル。又海上保險ノ如ク危險率ヲ數學的ニ研究スルコトノ困難ナモノ又ハ火災保險ノ如クソノ平均數カ平均數トシテノ價值ノ少ナイモノニアリテハ危險ノ細分ソノ他ノ經濟上ノ技術ヲ用ヒテ巧ミニ平均ノ法則ヲ活用セシメ以テソノ保險業ヲ健全ニ營ミ得ルノテアル。大數ノ法則中テ最も應用ノ廣イノハ平均ノ法則テアル。從ツテ學者或ハ此ノニツノ言葉ヲ同シ意味ニ用ヒ大數法則即チ平均ノ法則トイフ人カアル。然シ大數ノ法則ハ平均ノ方法ニヨリテ發見セラレタルノミナラス比較又

ハ分類ニヨリテモ之ヲ発見シ得ルノテアル。故ニ此ノニツノ言葉ヲ同意
味ニ用フルコトハ多クノ場合ニハ妨ケハナイカ必スシモ正確テナイト考
フ。



第二章 保険ノ性質

保険ハ偶然ナル事故ノ發生ニヨル損害ヲ有償的ニ他人ニ轉嫁シ以テ我
々ノ經濟生活ヲ確實ナラシメル制度ナアル。ソレカ如何ナル場合ニ行ハ
レルカトイヘハ偶然ナル事故ノ發生ニヨリテ損害ノ生スル悉レノアル場
合ニ行ハレルモノテアル。換言スレハ保險事故ハ偶然ニ發生スル事故テ
アル。又保險カ如何ナル方法テ行ハレルカト云ヘハ有償的ナル損害轉嫁
ノ方法ニヨリテ行ハレルノテアル。又保險ニヨリテ達セントスル目的ハ
十ニカトイヘハ經濟生活ノ安定テアル。
我々ノ經濟生活ニハ例ヘハ病氣ニヨル所得ノ減少 火災ニヨル財産ノ

破壊ノ如ク種々ノ事故カ生シテコレヲ不安ナラシメルモノテアル。我々
ハ之等ノ事故ノ發生ヲ豫防シ又ハコレヲ鎮壓スルコトニ力ヲ盡スケレト
モ到底之ヲ未嘗ニ防クコトハ出來ヌ。従ツテ我々ハ何等カノ方法ニヨツ
テソノ損害發生ノ經濟的結果ニ具ヘルコトヲ要ス。コレカ為メニ取ラレ
ル第一ノ方法ハ貯蓄テアル。茲ニ貯蓄トイフノハ現在ノ剰余ヲ節約シテ
他日ノ必要ニ當テル凡テノ方法ヲ指スノテアル。コレカ銀行預金タル
ト有價証券又ハ不動産ノ買入レタルト問ハス。貯蓄ハ收支ノ平均ヲ保
タシメレタメニ現在ノ剰余ヲサイテ將來ノ必要ニ具ヘルモノテアルカ未
タ此ノ方法ニヨツテハ凡テノ場合ニソノ必要ヲ確カニ充タシ得ナイ缺點
カアル。凡ソ事故ニハ其ノ發生ノ確定セルモノカアル。例ヘハ十年後ニ
一万円ヲ必要トスルカ如シ。此ノ場合ニハ貯蓄ニ依リテ適當ノ具ヲナス
コトカ出來ル。シカシ事故ノ發生カ偶然ノコトカアル。火災ノ如キハ全
ク不明テアル。又人ノ死亡ノ如キハ其ノ發生ハ確實テアルカンノ時期カ
不明テアル。斯カル場合ニ貯蓄ニヨリテ充サレル需要ハ各人ノ蓄積シタ

ル金額ヲ限度トスル故ニ必スシモ常ニ確實ニソノ需要ヲ充スコト出来ヌ
即チ我々ノ経済生活ハ尚不安テアル、コヽニ於テ言ハハ貯蓄ヲ補フモノ
又ハ之ニ代ヘテ他ノ方法ヲ取ル必要カナル、偶然ニ生スル事故ハコレヲ
各個ニツイテ見レハ何等ノ秩序ナキカ如クナレトモ大数觀察ニヨレハ大
数ノ法則カ働クカラ、此ノ事故發生ノ *Probability* 確率(蓋然率)
ヲ測定シ得ルコトカ多イ、此ノ場合ニハ其ノ事故ノ發生ハ偶然性ヲ失ツ
テ確實性ヲ帯ヒルコトニナリ此ニ対スル豫備ノ方法ヲ最モ経済的且最モ
確實ニナスコトカ出来ル、之レ保險制度ノ存在スル所以テアル
保險ハ多年ノ經驗又ハ大数觀察ノ結果ヲ基礎トシテ多数ノ人又ハ物ニ
付テ損害ノ平均ニ基キ以テ偶然ナル事故ヲシテソノ偶然性ヲ失ハンメ恰
モ其ノ發生ノ確實ナル事故ニ於ケルト同シクコレニヨレ経済上ノ需要ヲ
常ニ確實ニ充スコトヲ得シメルモノテアル、
保險事業ニハ保險者ト被保險者トカアル、今ソノ間ノ關係ヲ社會經濟
ノ見地カラ見ルトキハ保險者ハ大数觀察ニ基イテ計算シター一定ノ保險料

ヲ多数ノ被保險者ヨリ徴收シテ一種ノ共同基金ヲ作成シ偶然ナル事故ノ
發生ニヨリテ金錢ヲ必要トスル人々ニ此ノ基金ヲ分配スルモノト見ルコ
トカ出来ル、即チ保險者ハ少数者ニ生シタル損害ヲ多数者ニ分配スルモ
ノテアル、ソノ点カラ見テ保險ハ損害分配ノ制度トイフコトカ出来ル、
同一ノ状況ヲ言葉ヲ換ヘテ言ハハ保險者ハ多数ノ被保險者ノ間ニ其ノ損
害ヲ平均サセルモノテアルカラ保險ハ損害平均ノ制度ナリト考ヘルコト
モ出来ル、又此ノ状態ヲ被保險者相互ノ關係ヨリ見ルトキハ彼等ハ共同
ニ出資スルコトニヨリテ其ノ損害ヲ分擔スルモノテアル、即チ少数ノ人
ノ蒙リタル損害ヲ多数ノ人カ分擔スルモノト考ヘラレ、此ノ方面ヨリ
定義スレハ保險ハ損害分擔ノ制度ナリトイフコトカ出来、之ニ反シテ
個人經濟ノ立場カラ見ルトキハ被保險者ハ一定ノ保險料ノ支拂ニヨリテ
其ノ事故ノ發生ニヨル、經濟上ノ結果ニ免レ、恰モ損害ノ生セザリント
同一ナル經濟状態ヲ恢復シ得ルモノテアル、即チ被保險者ハ其ノ損害ヲ
保險者ニ轉嫁スルコトニヨリテ經濟生活ノ不安ヲ免レ得ルノテアル、余

ハ保險ヲ定義シテ損害轉嫁ノ制度ナリト云ヒタルハ此ノ方面ヨリ見タノ
 テアル 又此ノ状態ヲ保險者ノ方面ヨリ見ルトキハ保險者ハ一定ノ保險
 料ヲ受取リテ他人ノ損害ヲ引受ケルモノテアル 故ニ保險ハ損害引受ノ
 制度ナリト言フコトカ出テ凡ソ事物ノ性質ヲ研究シテ其ノ定義ヲ固
 メルニアタリテ、種々ノ方面カラ見ルコトヲ得 又如何ナル方面ヨリ見
 ルモノ々ノ自由テアル ケレトモ他ノ類似ノモノト比較シテ保險ノ特質
 ヲ明カニスルタメニ便宜テアルカラ余ハ右ノ定義ヲ取ツタ

経済学特ニ保險学ニ於テハ危險トイフ言葉ハ色々ノ意味ニ用ヒラレテ
 平ル 此ノ主ナルモノヲ述ヘルト
 ノ 火災 沈没 死亡ノ如キ偶然ナル事故ヲ指シテ危險トイフコトカア
 ル 例ハハ商法四〇〇條

2 危險率即チ偶然ナル事故ノ生スル割合又ハ程度ヲ指シテ危險トイフ
 コトカアル 危險ノ増減トイフカ如キハ此ノ意義テアル 例ハハ商法
 四一〇條

3 保險ノ対象 Object 例ハハ家屋 船舶 健康等ヲ指シテ危險ト

イフコトカアル 例ハハ此ノ *risks* ハ被保險物トシテ適當ナリトイ
 フカ如キ場合ニハ其ノ目的物ヲ指シテイフノテアル

4 偶然ナル事故ノ發生ニヨル損害ノ意味ニ危險トイフ文字ヲ用フルコ
 トカアル 従ツテ保險ヲ定義シテ危險分擔又ハ危險轉嫁ナト、イフノ
 テアル

保險ハ有償的ニ行ハレル、即チ被保險者ハ一定ノ保險料ヲ負擔スルコ
 トヲ要ス 保險ニ似タモノト雖モ無償ノモノハ保險テハナイ 又保險ハ
 有償的ニ行ハレル結果トシテ被保險者カ保險金(慶ク言ハハ保險給付)
 ヲ受ケルコトハソノ權利テアル 但シ受益者ノ權利行為ト雖モ無償ノモ
 ノナラハソレハ保險テハナイ 茲ニ於テ問題トナルノハ社會保險カ保險
 ナリヤ否ヤノ点テアル 概シテ云ハハ社會保險ニ於テハ被保險者以外ニ
 國家又ハ雇主ナトカ多少ノ負擔ヲスルコトニナツテ平ル 従ツテ一部分
 ハ保險ノ性質ヲ有シ一部分ハ慈善又ハ救済ノ性質ヲ有ス 然シ現代ノ一

改ノ確信ニ於テコレヲ保險ト考ヘテキルノテアルカラ。今日テハ保險ノ領域カ擴張セラレタモノト考ヘルノカ適當テアル。但シ如何ナル場合ニモ全ク無償テアルナレハソレヲ救済ト名付クヘキテアツテ保險ト區別スルコトカ適當ト思フ。

第三章 保險ト他ノ類似ノモノトノ區別

保險ニ似タル性質ノモノト保險トノ差異ヲ明カニスルコトハ保險ノ性質ヲ明カニスルニ有益テアル。

ノ 保險ト賭博

保險ト賭博トハ小額ノ支出ニヨリテ或ハ多額ノ支給ヲ受ケ或ハソノ提供セシ金額ヲ全ク失フコトアル点ニ於テ共通ノ点アリ。然カソ保險ハ偶然ナル事故ノ發生ニヨリ損害ヲ備ヘルモノニシテ倫理的動機ヲ行ハレル賭博ハ單純ナル射倖心ニヨリ、冒險的ニ行ハレ決シテ生活ノ安定又ハ未來

ノ準備ノ如キ倫理的要素ヲ含マナイ。故ニ射倖ノ程度カ餘リ甚ダシケレハ法律ハ之ヲ禁止スル。然ラハ斯クノ如キ意思ノ有無ヲ判定スル客觀的標準ハ何ナリヤ。凡ソ事故ノ發生ニヨリテ損害ヲ受クヘキ經濟的利益ヲ有スルモノハ之ニ備ヘタルタメニ保險ヲ利用スルナリ。例ヘハ家屋所有者カソノ所有權即チソノ財産ヲ保全スル為メニ火災保險ヲ契約スルカ如シ。

故ニカクノ如キ被保險利益アル場合ノ保險契約ハ正當ナリ(商法三ハ五條)。然ルニ賭博ニ於テハ斯カル利益即チ一定ノ事故ノ為メニ損害ヲ蒙ルヘキ恐アル經濟上ノ利益カ存在シナイノテアル。今若シ斯クノ如キ利害關係ナキモノカ保險契約ヲナスナラハ全ク賭博トナル。

例ヘハ余カ此ノ大学ノ教室焼ケタレハ金何円ヲ受ケルトイフ契約ヲスルナラハ賭博テアル。(民法九〇條)

又同一ノ理由ニヨリ夜令家屋所有者ト雖モソノ實價以上ノ保險契約ヲナスナラハソノ實價ヲ超ユル部分ハ無効トナル(商三八六條)

然ルニ生命保険契約ノ如キモノニアリテハ一定ノ条件ノ下ニ一定額ヲ授受スルモノニシテ(商法四二七條)カクノ如キ被保険利益ノ觀念ヲ嚴格ニ認ムル能ハス

固ヨリ生命保険ニ於テモ一定ノ費用ヲアテルタメニ契約ヲナシオクモノナレハ被保険利益ノ觀念カ全ク無キニ非レト然ラサル場合ノ契約テモ合法的ノモノトセラル。從ツテ斯カレ契約ハ契約者カ之ヲ濫用スルカ又ハ真ノ精神ヲ理解セサル場合ニハ賭事トナル悉アリ。之ヲシテ賭事ニ至ラシメナイタメニハ契約ノ金額其他ノ條件カ周圍ノ状況ニ照シテ相當ノ程度ヲ超ヘサルコトニ注意スル外ナシ

時トシテハ数学上ノ基礎ノ有無ニヨリテ區別セントスル人モアリ。賭車ハ斯様ニ基礎ナクシテ行ハレルコト多シ。但シ富籤或ハ割増金附債券ナトニアリテハ一定ノ数学上ノ計算ニ基クモノテアル。例ハハ壹千万円ノ債券ヲ募集シ之ニ六分ノ利子ヲ付ケル代リニ先ツ四分タケノ利子ヲ全体ニ支拂ヒ。残リニ分ノ利子ニ相當スル金額二十万円タケヲ抽籤ヲ以テ

少数ノモノニ分配スルモノテアル。又他方ニハ保険ハ数学上ノ基礎ニ基クモノナリト云ハレテ居レト莫ニ確實ナル数学的計算ニ出ツルモノハ生命・疾病・傷害等ノ保険ニスキス。火災海上ノ他多クノ保険ニ在リテハ末ダ斯ノ如キ科学的ノモノテハナイ。唯多数ノ契約ニツイテ平均ヲ求めル方法ニヨリテ行ハレルニ止マル。サレハ保険ト賭事トヲ数学上ノ基礎ノ有無ニヨリテ區別スルコトハ凡テノ場合ニナシ得ルモノテナイ

2. 保険ト保證

債務ノ保證又ハ人ノ身元保證等ノ行為カ無償ヲ行ハレルナラハ此ノ点ニ於テ保険ト區別サレル。然ルニ之カ有償ニ行ハレルト保證ニナルコトカアル。例ハ我國ニ於テ行ハレテキル信用保險(Fidelity Insurance)

Maintenance

誠實保險トモイフヘキモノ)ハ使用人ノ不正行為

ノタメニ傭主カ蒙ルヘキ損害ヲ保險會社カ引受ケルモノテアル。又外國ニ行ハレテキル債權保證(Credit Insurance)ハ實際家カ信用取引ヲナスニ當リ債務者カ支拂不能トナリ。貸倒レトナルコトヲ恐レテ

之ニ備ヘルタメノ保險テ從來カラ外國貿易ニ對シテ最モ廣ク需要サレテ
中夕、最近ニ至リ独英ノ政府ハ外國貿易ノ振興從ツテ内國ノ産業ノ發達
失業問題ノ解決ニ資スルタメニ國家的援助ノ下ニ之ヲ行ツテモノカ
アル。

其他之ニ似タ性質ノモノカ少クナイ。之等ヲ總稱シテ保証保險
guarantee insurance ト云フ。尚信託法第五條一項ニ信
託會社ノ兼行業務トシテ債務ノ保證カ掲ケラレテキル。コレモ有償的ニ
一ツノ營利事業トシテ行ハレルノテアルカラソノ實質ハ保險テアル。之
等ノ点カラ考ヘルト斯カル種類ノ契約カ個々ニ單独ノ行為トシテ行ハレ
ルトキハ保險トシテハ取扱ハレナイケレトモ組織的ニ不定多数ノ人ニ對
シテ行ハレル時ハ保險トシテ取扱ハレルモノト云ハナレハナラヌ。故
ニ保險ハソノ性質上多数ノ人ニ組織的ニ同種ノ行為カ繰返シテ行ハレル
コトヲ條件トシテ初メテ成立スルモノト考ヘネハナラヌ。同様ノ關係ハ
民法六八九條ニ云フ所ノ終身定期金契約ト年金保險トノ關係ノ如シ。又

反對ニ火災保險ト同様ノ行為カ單ニ二人ノ間ニ行ハレル時ハ一ツノ無名
ノ社的契約ニ過キナイノテアル。
3. 保險ト貯蓄

將來生スルコトアルヘキ金銭ノ必要ニ與ヘルタメニ現在ノ剩余ヲ積立
テル点ニ於テニツノモノカ似テ中ル。然シ貯蓄ハ一人ノ計算ニ於テ行ハ
レルカラ個人的又ハ單独的準備テアル。之ニ依リテ充シ得ル需要ハ既ニ
積立テラレタル金額ヲ限度トスル保險ハ多数ノ經濟主体(人)ニ付イテ
共同計算ヲナスカ故ニ團體的又ハ社會的準備ト見ルコトカ出來ル。即チ
保險者ハ多数ノ被保險者カラ得タ保險料ヲ以テ一ツノ共同基金ヲ作リソ
ノ中カラ損害ヲ填補スルタメニ必要ナル金額ヲ一定ノ計畫ニ基イテ支出
スルモノテアルカラ一定ノ需要カ必ス充サレ得ルノテアル。
保險力共同の準備テアル結果トシテ貯蓄ニ比ヘテ大イニ經濟的テアル
若シ人々カ個々ニ將來ノ需要ニ與ヘントスルナラハ各人ノ積立ツヘキ金
額ハ將來生スルコトアルヘキ損害ノ額ノ最大限ヲ目標トシテ積立テルコ

トヲ要スル。然ルニ保険ハ大数ノ法則ノ教ニ従ッテ一定ノ危険率ニ應スル備ヲナスヲ以テ足ル。即チ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ效果ヲ現ハシ得ルノテアル。之レ保険ハ科学的ナル貯蓄ナルト稱セラレル所以テアル。貯蓄ニハ時間ヲ要スル。未ダ充分ナル時間ノ経過セサルトキニ事故カ生スレハ需要ヲ充分ニ充スコトカ出来ヌ。又ソノ事故カ偶^ホ的ニアルナラハ貯蓄ノ標準ヲ其ヘルコトモ出来ヌ。之ニ反シテ保険ニハ時間ヲ要シナイ。一度保険関係カ成立スレハ何時ニテモ充分ニ需要カ充タサレル。時トシテハ大ナル汽船會社。大貿易商等カ一定ノ保険率ヲ測定シコレニ應スル積立金ヲナシ大数ノ法則ヲ利用シテ恰モ保険ヲ付シタルト同シ結果ヲ收メルコトカアル。之ヲ自己保険 *self-insurance* ト云フ。此ノ場合ニハ時トシテハ却ツテ少ナイ費用ヲ以テ堪ヘルコトカアル。而シテソノ被保險物カ多数存在スルナラハソノ目的ヲ果スコトモ出来ル。但シ自己一人ノ計算ヲ行フノテアル。危険ヲ他人ニ轉嫁セサルカ故ニソノ名称如何ニ拘ハラズ貯蓄テアツテ保険テハナイ。但シソノ行為カ保險

的思想ニ基イテキルコトハ疑ハナイ。

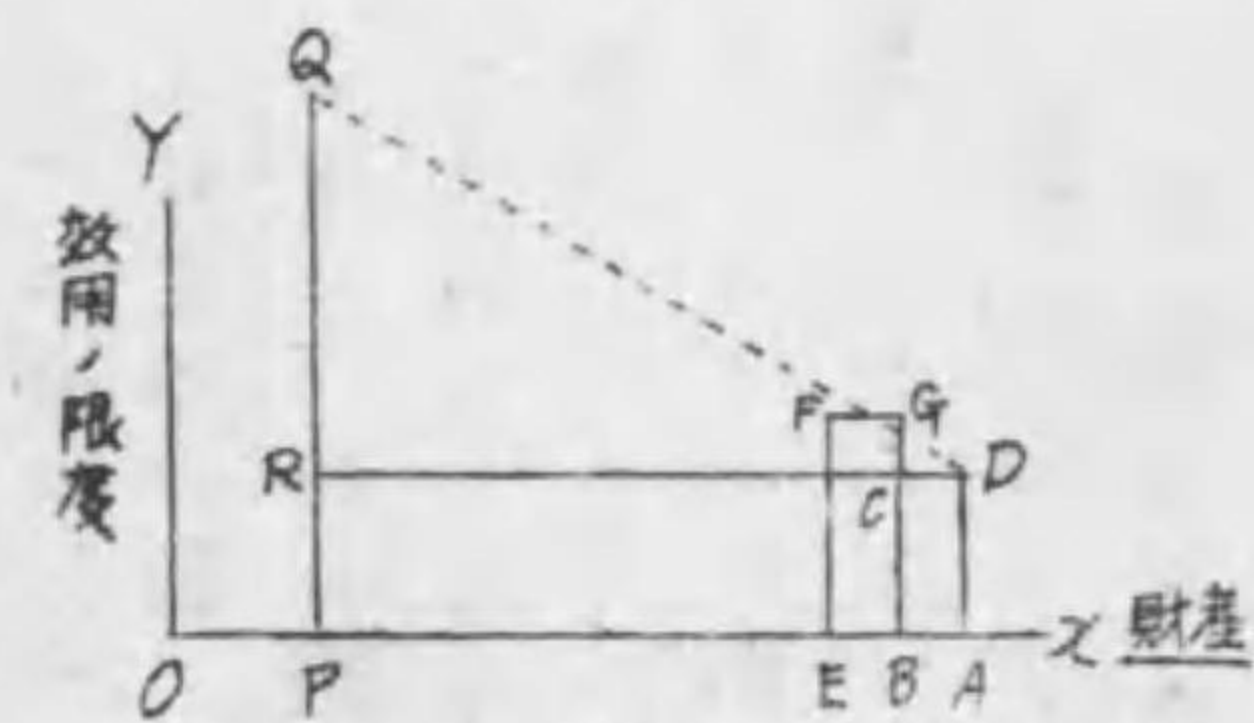
4 保險ト救済

保險ハ常ニ有償的ニ行ハレ^{自カ}ニヨリテ將來ニ準備ヲナスモノテアレ。保險給付ノ請求ハ被保險者ノ權利テアル。然ルニ救済ハ常ニ無償テアリ。他人ノ恩惠ニ依頼スルモノテ受益者ニ權利カナイ。近年ニ至リ社會政策カ高唱セラレ社會連帶ノ思想カ發達シ人格尊重ノ觀念カ強クナツ。従来ハ救済トシテ行ハレテキタモノノ性質ヲアラタメ國家カ國民ニ對シテ生活資料請求權即チ生存權ヲ認ムルニ至ツタ例カアル。英國ノ養老年金。米國ノ母親年金(兒童扶助法)。白耳義ノ失業救済ノ如キハ其ノ一二ノ例テアル。斯クノ如キモノニ對シテハ社會的扶助ノ名カ與ヘラレテモ依令受益者ニ權利カアルニモセヨ保險トハ區別サレテキル。保險カ自助ノ精神ヲ養フモノテアツテ人格ノ尊嚴ヲ維持シ人類ノ道德的向上ヲ助ケルモノテアルコトハ救済ニ比ヘテソノ特色トシテ誇ル所テアル。尙社會保險ニ於テ國家又ハ產主カ保險料ノ一部ヲ負擔スルニモ拘ハラズ尙之ヲ

保険ト見ル所以ハ前ニ述ヘタ通りテアル。

危険分散主義ハ經濟生活ニ於ケル避害針ノ如ク以テ經濟生活ヲ安定セシ
メルモノトイハレテホル。今之ヲ詳シク分析スルト危険分散トハ危険ノ
細分ト危険ノ散布ヲ總稱スルモノ、如シ。此ノニツノ方法ハ幾分カ方法
ヲ異ニスルケレトモ其ノ間ニ明カナル區別ヲナシ難ク見方ニヨリテハ
同一ニ歸スルコトカアル。又之ニ依リテ生スル結果ハ常ニ同一テアルカ
ラ尚危険分散ハ時ノ上ニ行ハル、コトモアリ所ノ上ニ行ハル、コトモア
ル例ハ一時ニ數千圓ノ支出ヲナスコトハ其負擔ニ耐ヘナイテアロウ少ク
トモ甚シイ苦痛ヲ感スルテアラウ然シソレヲ數千年ニ涉リテ毎年少シ宛
出スモノトセハ其負擔ハ輕ク感セラレルテアラウ、又一人カ多クノ負擔
ヲナストキニ感スル苦痛ハ大テアルケレトモ數人カ之ヲ分擔スレハ其苦
痛ノ合計ハ少クナルテアラウンノ理由ハ限界效用説（價值説）ニ依リテ
説明スルコトカ出來ル今假リニ凡テノ事情ヲ全ク等シトスルモノカ十人
アルト假定スルト

0ノ財産ヲ有スル者カABタケノ財産ヲ失ヒ其財産カOBトナリタルトキハ其失ハレタル價值ハABCDトスル更ニBEクケ矢ヘハBEFGヲ失フニ違ヒナイタカラシテAPタケ失フトスレハ其失フタ價値カAPDDトナル若シ十人カ分擔スレハ(APヲABノ十倍トスル)十人ノ分擔スル價值ノ合計ハAPRDトアル即チ圖ノ如クニ



$$ABCD \times 10 = APRD$$

$$APRD > APRD$$

$$APRD = APRD + DRQ$$

右ノ如キ理論ヲ實地ニ應用シタモノ、一ツカ保險テアル假令、一萬圓ノ家屋ノ所有者カ一度ニ一萬圓ノ雨築費ヲ出スコトハ甚タ苦痛テアル反之火災保險契約アルトキハ毎年ノ保險料トシテ出スモノハ僅カニ三十圓トカ五十圓トカノ少額ニ過キナイノテアツテ其負擔カ容易テアル此契約カアルカ為メニ其保險金ニヨリテ家屋ヲ雨築スルコトハ確實ニ保護サレテ并

ル此場合ニ保險料トシテ支出スルモノ例ハ毎年五十圓ノ金額ハ被保險者ニトリテハ言ハ、一種ノ損害テアルサレトモ彼ハ其ノ負擔スルコトアルヘキ損害ヲ細分シテ毎年五十圓宛ノ損害ヲ蒙ルコトニヨリテ一度ニ一萬圓ノ損害ヲ蒙ルコトヲ免ルノテアル斯ノ如ク危険細分ノ結果トシテ此カ為メニ生スル損害ハ其度數ニ於テ増加スルケレトモ其程度ハ常ニ微弱テアル我々ハ日常ノ經驗ニ照シテ知ル如ク少額ノ損害カ屢々生スルコトハ比較的容易ニ耐ヘ得ルモノテアルカ多額ノ損害カ一度ニ生スルコトハ一層大ナル苦痛ヲ感スル甚シキニ至リテハ其經濟生活カ動搖又ハ破壊セラレルコトカナキニ非ス然ルニ危険ノ細分ハ此憂ヲ除クモノテアルコトハ前述ノ如シ又損害ヲ多數ノ人カ分擔スルノカ保險ノ本質テアルト考ヘテモ同様ノ説明カナシ得ラレルノテアル之上ニ記シタ圖解ニ依リテ明ラカナラン、更ニ一步ヲ進メテ論スレハ斯ノ如ク細分セラレタル損害即チ保險料金額ハ一定セルカ故ニ(例ヘ一定セサル場合ニモ殆ント確定ニ近イ一定額ナルカ故ニ)被保險者ハ之ヲ、實業經濟(私經濟)又ハ其家庭經濟

ニ於ケル一ノ支出項目トシテ之ヲ豫算ニ計上スルコトヲ得ヘク之ニ依リテ偶然的費用ヲ確定的費用トナシ以テ其經濟生活ヲ安全ナル基礎ノ上ニ立タシメ得ルノテアル更ニ危險ノ散布ニ付テ速ヘルト例ヘハ數十個ノ家屋ヲ有スル家主ク之ニ一所ニ持ツテオレハ一度ノ火災ニ全部ヲ失フコトカアリ得ルカ之ヲ市内ノ數個所ニ散在セシメテ置クナラハ一戸又ハ數戸宛焼ケルコトハ屢々アルニモセヨ一時ニ全部カ焼ケルコトハ通例ハナイ又一ノ銀行カ其資産ノ大部分ヲ一ノ會社ノ事業ニシテ投資スレハ其事業ノ盛衰ニ從フテ其ノ銀行ノ營業成績ノ著シク影響ヲ受クルカ故ニ銀行ノ基礎ハ強固テハナイ一銀行カ一會社トソノ運命ヲ共ニシタル例ハ屢々アル之ニ反シテ若シ其ノ資産ヲ多方面ニ投資シテオケハ例ビ一方面ニ損害カ生シテモ之カ爲メニ受ケル打撃ノ程度ハ少イノテアル此レト同時ニ他ノ方面ニ於テ利得スルコトモアリテ其損益ハ互ニ平均セラレ大數ノ法則ノ支配ヲ受ケル斯ク特ニ大利益カナイ代リニ持ニ大損害ヲ受ケルコトモナク其ノ成績ハ常ニ着實テアルコトノ事ハ家變經濟ニ於テモ同様テアル

此ノ理由ニヨリ保險業法施行規則第十六條ニハ保險會社ノ投資ニ付テ此原則ニ依ルヘキコトヲ規定シテ其要スルニ危險ノ散布ハ危險ノ細分ト同一テアツテ平均ノ法則カ(大數ノ法則)活動シ之ニ依リテ事業ニ伴フ危險ヲシテ偶然性ヲ生ハシメ其ノ事業ヲ機械的ナラシメサルコトヲ得ルノテアル

斯ノ如ク危險ノ細分ハ之ニ依リテ生スル危險ノ負擔ヲ容易ナラシム危險ノ散布ハ之ニヨリテ生スル損害ヲシテ偶然性ヲ失ハシムサレハ危險分散主義ハ經濟生活ヲ脅カサントスル危險ヲ輕減シ經濟生活ヲ安全ナル基礎ノ上ニ立タシメル所ノ經濟^學上ノ重要ナル一原則テアル、而シテ保險ハ此ノ原則ニ基クモノナルコトハ前ノ説明ヲ明カテアル而シテ危險分散主義ハ上述ノ如ク大數ノ法則ノ活動ヲ助ケルモノテアルカラ成ル可ク危險ヲ微細ニ分チソノ目的物ノ數ヲ多カラシメ且ソノ各部分ヲ可成均等ナラシメ之ヲソノ平均數ニ接近セシメ其ノ平均數カラノ偏差ヲ少カラシメルトキハ此ノ效果ヲ最モヨク發揮セシメルモノテアル之前ニ大數ノ法則ニ

付テ逐ヘタ所ニ照シテ明ラカテアル
 保險ハ大數^則ノ一應用テアル例ヘハ死亡率ノ如キハ數學的計算ニヨリテ之
 ヲ求メ得ヘシ而シテ保險事業ハ之ヲ基礎トスルノミナラス尙具事業ヲ大
 量的ニ行フカ故ニ具ノ事業ハ學術的ニ行ハレ得ルモノテアル又危險率ノ
 測定ニ付テ平均數ヲ求メルコトノ困難ナモノハ(海上保險)或ソノ求メ
 得タル平均數カ平均數トシテ價值ノ乏シイモノ(火災保險)等ニアリテ
 ハ危險分散主義ヲ巧ミニ應用スルコトニ依リテ其事業ノ基礎ヲ強固ニシ
 且學術的ニナシ得ルモノテアル例ハ火災保險ニアリテハ其ノ被保險物ヲ
 一地方ニ密集セシメルトキハ一度ノ火災ノ爲メニ多クノ支拂ヲ要シ會社
 ハ其ノ負擔ニ堪ヘサルカ故ニ成ル可ク營業範圍ヲ全国又ハ全世界ニ廣メ
 其ノ契約ヲ地域的ニ分布セシメルトキハソノ危險ヲ免ルコトカ出來ル
 又一被保險物ニ付テ一保險者カ多數ノ契約ヲ引受ケルトキハソノ燒失ノ
 タメニ同シク困難ニ陥ルカラ一會社ハ一物件ニ付テ自己ノ責任額ヲ相
 當ノ程度ニ限定シ他ノ會社ト共同分擔スルコトニ依リテ此ノ困難ヲ避ケ

ル又已ムヲ得サル事情ノタメニ一地域又ハ一物件ニ付多額ノ保險ヲ引受
 ケタルトキハ其一部ヲ更ニ他ノ保險會社ニ再保險シテ自己ノ責任額ヲ相
 當ノ限度内ニ輕減シナケレハナラヌ但如何ナル限度ヲ以テ適當スルカハ
 ソノ保險者ノ資産、契約ノ總額等ヲ斟酌シテ決定スヘキテアツテ抽象的
 標準ヲ示シ得ルモノテハナイ。

第五章 保險ノ可能範圍

如何ナル範圍内ニ於テ保險ハ行ハレ得ルカ此ノ方面ノ研究ニハ先ツ理論
 上ノ可能範圍ト事業經營ノ實際上ノ可能範圍トニ區別シナケレハナラヌ
 後者ハ或保險業ヲ實地ニ行フタトキニ其事業カ健全ニ行ハレ得ルヤ否
 ヤノ問題テ即チ保險實行ノ難易ノ問題テアル前者ハ斯ル事業經營ノ立場
 カラ離レテ唯理論トシテ保險實行ノ可能性ヲ研究スルノテアル尙コトニ
 ノ問題ニ附加ヘテ被保險者及社會經濟ノ立場カラ如何ナル場合ニ保險ヲ

最モ必要トスルカノ問題即チ必要ノ程度ニ付テ研究セントスル
 理論上ノ可能範圍ヲ定メルタメニハ先ツ保險ノ性質ヲ研究セネハナラヌ
 保險ノ性質ニ付テハ種々ノ學說カアル、之ニ付テハ小島昌太郎氏著保險本
 質論(ソノ前身ハ保險ト經濟ヲ見ヨ然シ保險カ偶然ナル事故ノ発生ニヨ
 ル損害ニ備ヘ經濟上ノ制度テアルコトハ凡テノ人ノ一致スル所テアル又
 今日ノ我々ハ國家の生活ヲナシソノ活動ハ常ニ法律ノ支配ヲ受ケテ亦ル
 從テ保險可能範圍ヲ理論的ニ研究スル時ニモ國法ヲ度外セス其ノ範圍内
 ニ於テ保險カ可能テアルモノト考ヘナケレハナラヌ之ニ依テ見ルト保險
 ノ可能範圍ニハ四ツノ方面カラ制限カアル

一 事故ノ成立ニ依ル制限

保險事故ハ偶然ニ生スルモノテアルコトヲ特色トスル之レ前ニ保險ノ
 性質ニ付テ又保險ト貯蓄トノ比較ニ付テ述ヘタ通りテアル確定的ノ事
 故ニ對シテハ保險ノ必要ヲ認メナイ故ニ時トシテ保險ノ名ヲ以テ保險
 會社ニ於テ行ハル、モノト雖モ例ハハ減價償却保險ノ如キハ全ク措置

貯蓄テアツテ保險テハナイ又事故ノ偶然性ニモ程度カアルカラソノ確
 定的ニ近イモノニ對スル保險程保險タル特色カ薄イノテアル
 ニ經濟上ノ制限

保險ハ經濟上ノ制度テアルカラ財産上ノ損害ニ對シテノミ行ヒ得ルノ
 テアル精神上ノ損害例ヘハ名譽、愛情等ニ對シテハ保險ヲ行ヒ得ナイ
 例ヘハ火災保險ハ火災ニ依ル財産ノ損害ヲ填補スルケレトモ其ノ財産
 ノ親ノ遺物テアル場合ニ之ニ對スル愛情又ハソノ損失ニ依ル苦痛ヲ如
 何トモスルコトカ出來ヌ又健康保險ニハ醫藥及ヒ生活費ヲ給付スルケ
 レトモ之カタメ身体又ハ精神ノ受ケル苦痛ハ如何トモシ難イ故ニ商法
 第三八五條ノ如ク被保險利益ハ金錢ニ見積リ得ヘキ利益ニ限ルトイフ
 規定ハ当然ノコトヲ記シタニ過キナイ私ハ茲ニ財産上ノ損害トイフタ
 ノニ對シテ反對論カアルソレハ例ヘハ生余保險ニ於テ死亡又ハ生存ノ
 條件トシテ一定ノ金額カ授受セラレルモノニ於テハソノ死亡又ハ生存
 ヲ目シテ財産上ノ損害トイフハ不当テアル然シ之等ノ場合ニモ一定ノ

財産上ノ需要ヲ豫見シテ之ニ對スル備ヲナスノテアルカ宜シク財産
上ノ需要ニ備フルモノカ保険トイフヘキテアルト此ノ説ニ依レハ生命
保険、損害保険ニ通シテ同一ノ需要トイフ文字テ云ヒ表ハスコトカ出
來テ適當ノヤウニモ見ヘル然シ斯クノ如キハ單ニ文字ノ爭テアル損害
トイフトキニモソレハ財産ノ積極的喪失ノミナラス消極的ノ損失当然
期待シ得ヘキ利益ノ喪失等モ等シク損害テアル又病氣ノ時臨時ニ醫藥
ヲ要シ祝賀會ニ臨時ノ支出ヲ要スルカ如キモ等シク損害テアル損害ナ
ル文字ハ斯ノ如ク廣義ニ解スルノテアル況ンマ保険ノ中テモ其特色ヲ
最モヨク備ヘテアルモノハ損害保険テアル之ニ對シテハ損害トイフ文
字カ最モ適切ニアテハマルノテアル、而シテ保険ノ特色ヲ備ヘルコト
ノ效力薄イモノ例ハ生命保険ニ對シテハ損害トイフ文字ノ固有ノ意
義(狹義)ヲ稍々廣メテ之ヲ包含セシメルコトカ出來ルノテアル生命
保険ニ對シテハ或一部ニハ之ハ保険テナイ一定ノ條件附定額支給ノ射
得的契約ニ過キストイフ者カアル位テアル、然シ生命保険カ保険テア

ルコトニ付テハ通説ハ一致シテナル事情テアルカ故ニ需要説ハ角
ヲ矯メントシテ牛ヲ殺スニ等シイ説テ余リニ文字ノ末ニ拘泥シタ爲メ
ニ保険ノ中心觀念ヲ捕ヘス甚タシク抽象的ナ漠然トシタ定義ニナリ終
ツタ寧^私口損害トイフ保険ノ中心觀念ヲ捕ヘテ其ノ意味ヲ稍々廣義ニ解
シテ他ノモノヲ包含セシメルノハ適當ナリト信スルノテアルソノ文字
ノ爭ノ如何ニ拘ハラス生命保険ノ如キモノノ生存又ハ死亡ヲ機會トシ
テ金錢ヲ必要トスルコトヲ豫見シテ之ニ備ヘルタメニ保険カ存在スル
ノテアル決シテ金錢ヲ以テ悲又ハ喜ニ變ヘル意味テハナイ尤モ保険カ
副作用トシテ精神的效果ヲ生スルコトモアル例ハ火災保險ヲ附
ケテ置イタカテ安心シテ生活カ出來ルトカ又親ノ遺物ハ燒失シタケレ
トモ保險金ヲ得タコトニ依リテ幾分カ慰藉スルニ足ルトイフカ如キコ
トカ起ル然シ之ハ保險ノ副作用ニ過キス又之ヲ主タル目的トシテ保險
カ存在スルノテハナイ

三 技術上ノ制限

二四
保險ハ有價的ノ制度テアルカラ保險料ノ計算ヲ必要トスル故ニ保險料
カ經驗又ハ實驗ニ依リテ相当ノ程度ニ計算シ得ルモノテナケレハ保險
ハ不可能ナル但シ事故發生ノ度数及之ニ依ル損害ノ程度ニ關シテ必
スシモ正確ナル確率カ既ニ計算サレテキルコトヲ要シナイ大体ノ見込
ヲ以テスルノテアル多クノ缺欠ハ危險分散主義ノ應用ニ依テ之ヲ補フ
コトカ出來ル現ニ火災海上保險カ盛ニ行ハレテキルコトハ之ヲ証明ス
ル

四 法律上ノ制限

凡テ公序良俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効テアル(民法
九〇)故ニ例ハ脱稅竊盜賭博等ニ依テ受ケル利益ヲ保險スルコトカ出
來又我商法第三八五條カ被保險利益ノナイ損害保險契約ヲ無効トシ又
第三八六條カ超過保險契約ノ超過部分ヲ無効トシ、第四二八條カ他人
ノ死亡ニ依リテ保險金ヲ支拂フヘキ生命保險契約ニハソノ者(他人)
ノ同意ヲ要ストシテキルカ如キハ何レモ同一ノ精神カラ出タ法律上ノ

制限テアル、英國ノ例ニ附テイハ一七七四年ノ賭博的生命保險禁止
法、一九〇六年ノ海上保險法第四條、一九〇九年海上保險賭博証券禁
止法等ハ保險ノ可能範圍ニ對スル法律上ノ制限テアル、尙保險業法ヲ
見ルト政府ノ免許、保險者資格ニ關スル制限、兼業禁止ナトノ制限モ
加ヘラレテキル

此ノ如ク制限サレテキル範圍内ニ於テ保險業ヲ實行スルニ当リテハ難易
ハ種々ノ條件ニ依リテ支配サレル之ヲ一言ニ言盡セハ危險率及ヒ損害高
計算ノ難易テアル換言セハ統計ノ難易テアル即チ統計的基礎カ不充分ナ
レハ其ノ事業ハ救機のトナリ、科學的テナイカラ健實ニ行ハレ難イノテ
アル、凡ソ保險ハ平均ノ法則ノ一應用テアル從テ大數ノ法則特ニ平均ノ
法則ノ意義及之ニ關スル注意事項ヲ此テ追想スル必要カアル即チ

一、平均ノ法則トハ多數ノ場合ヲ觀察シテ初メテ得ラレル法則テアルコ
ト
二、其ノ材料カ多ケレハ多イ程、平均數ノ價值ノ多イコト

三 各ノ材料カ平均数カラ離レル偏差カ少ナクレハ少ナイ程平均数ノ價値カ大キイコト

四 觀察カ正確ラアレハアルニ從ツテソノ平均数ノ價値カ大キイコト等ヲ特ニ記憶シテオク必要カアル

扱テ如何ナル場合ニ統計カ困難ラアルカトイフニ事故発生ノ度数ノ少イモノ、ソノ発生カ一地方ニ限ラレテキルモノノ被保險物ノ少イモノ等ニ付テハ第二ノ理由ニヨリテ保險ノ實行カ困難ラアル事故発生ノ度数ノ不規則ナモノ之ニ依ル損害ノ大小ノ甚タシイモノ等ニ付テハ第三ノ理由ニ依リテ保險ノ實行カ困難ラアル事故発生ノ事實ノ確認シ難イモノノ損害額ノ決定シ難イモノノ事故発生カ人意ニ左右サレ易イモノノ反對選擇ノ行ハレ易イモノニ付テハ第四ノ理由ニ依リテ保險ノ實行カ困難ラアル
斯ノ如キ抽象的理論ヲ具體的事實ニアラハメルナラハ生命保險ノ如キハ之等ノ條件ニ照シテ實行ノ容易ナモノテアル唯反對選擇ト保險犯罪トニ注意スレハ足ル、海上保險ノ如キハ色々ノ條件ニ致ケテキル之ヲ補フ為

メニ種々ノ經濟上ノ工夫ヲ要ス、例ハハ再保險、共同保險等ハ保險ノ作用ヲ完全ナラシメル爲メノ補助手段テアル、失業保險又ハ疾病保險ハ事故発生ノ事實ノ確認シ難イモノテアル故ニ職業紹介所又ハ病院ノ如キ補助機關ヲ要ス

事故ノ発生カ專ラ又ハ主トシテ人ノ意思ニ基クモノハ危險率ヲ計算シ得ルヤ否ヤ即チ之ニ對シテ保險ヲ行ヒ得ルヤ否ヤノ問題カアル然シ人ノ意思ト雖モ必スシモ全ク氣紛レナモノテハナイ、之ヲ多数ノ人ニ付テ觀察スレハ大体ニ於テ一定ノ原因ノ下ニ一定ノ結果ヲ示ス秩序モ統一モアルカラ莫ノ數量的研究ハ可能テアル之レ信用保險ノ如キモノ、成立スル所以テアル唯意思活動ノ結果ハ幾分カ莫然トシテキルカラ保險ノ實行カ稍困難テアルコトハ疑ナイ

最後ニ被保險者及社會經濟ノ見地カラ如何ナル場合ニ保險ノ必要カ急迫テアルカラ研究スレハ

一 損害額ノ小サイ事故ニ對シテハ保險ノ需要カ少イ斯ル場合ニ複雑ナ

保險制度ニ依ラストモ人口カ之カ爲メニ受ケル經濟上ノ打撃ハ少イノ
 テアルカラ積立金又ハ財金ノ如ク一人ノ計算ヲ行フ方法ニ依リテ之ニ
 備ヘルコトカ出來ル之ニ反シテ事故ノ發生ニヨル損害額カ大ナレハ一
 人ノ力テハ堪ヘ難イカラ損害分擔又ハ、、、、轉嫁ヲ根本主義トスル
 保險ニ依ルコトヲ必要トスル其ノ損害額カ大キケレハ大キイ程保險ハ
 益々必要トセラレレ之レ海上保險又ハ火災保險ノ如キモノカ始ント例
 外ナク被保險者ニ依リテ利用サレテナル所以テアル但シ損害ノ大小即
 チ經濟上ノ打撃ノ大小ハ人々ノ財產ニヨルモノテアル即チ負擔能力ニ
 依ルモノテアル故ニ少額ノ保險ハ富者ニハ必要ハ少ナイケレトモ貧者
 ハ尚之カ爲メニ感スル苦痛ハ大キイカラ保險ヲ必要トスル少額保險カ
 中流以下ノモノ、タメニ必要テアリ時トシテハ法律上強制セラル、コ
 トサヘモアルノハ此ノ理由ニ依ル

ニ 事故發生ノ度救カ不規則テアレハアル程保險ノ必要ノ程度カ大キイ
 凡ソ保險カ偶発事故ニ依ル損害ニ對シテ行ハレルノテアルカラ確定的

ナ事故ニ對シテハ保險ノ理由ヲ有シナイ故ニ偶然的ナ事故ノ中テモ確
 定的ニ近イモノハ確定的事故ト殆ント同一ニ取扱ヒ得ル例ハ海上運
 送ニ於テ若干ノ小サイ損害ハ常ニアルカラ之ハ商品ノ賣買價格又ハ生
 產費ノ中ニ当然見込マレテ保險ヲ必要トシナイ(商法第六六八條)又
 生存保險ハ性質上餘リ財金ト區別スルコトハ出來ヌカラ必スシモ保險
 ニ依ルコトヲ必要トシナイ其ノ据置財金ニ依ツタノト保險ニ依ツタノ
 トヲ比較シテモ其ノ差ハ極メテ少イ之ニ反シテ事故ノ生スル度數ノ不
 規則ナルモノハ保險ノ實行ハ困難ナルカ之ヲ必要トスルコトハ最モ
 痛切ナル海上保險、火災保險、失業保險ノ如キハ此ノ種類ニ屬ス其
 ノ結果トシテ事故ノ發生カ不規則ヲ且ツ之ニ依ル損害ノ大キクナル恐
 ノアルモノ程保險ヲ痛切ニ必要トスルシカルニ斯ノ如キモノハ保險ノ
 實行ハ最モ困難ナモノテアル、即チコ、ニ一ツノデレンマカアル然シ
 斯ル場合ニハ国家カ干涉スヘキ領域テアル国家ハ国民ノ生活ノ安定ヲ
 計ルヘキ任務ヲ有シテ居ル又國家ノ財政ハ多數國民ニヨリテ支ヘラレ

テキルカラ無限ノ財カヲ有ス、故ニ国家ハ国民カ保險ヲ最モ必要ト感
シツ、然モソノ実行ヲ困難トシテキルニ際シテ傍觀スヘキテハナイ必
ズ損益ノ計算ヲ超越シ自ラソノ事業ヲ營ムカ然ラサレハ民營ノ事業ニ
対シテ適當ノ保護獎勵ヲ加フヘキテアル我政府カ改米諸國ノ政府ト同
シク歐洲大戦中ニ戰時海上保險事業ヲ行ヒ通商航海ノ発達ヲ圖リ延ヒ
テハ国家各種ノ産業ノ発達ヲ圖リタルカ如キ又最近ニ英獨ノ政府カ輸出
信用保險ヲ營ンテ貿易ノ発達即チ国内産業ノ発達及失業問題ノ解決ヲ
圖リタルカ如キ又明治十年代ニ船舶保險ノ創始ニ際シテ東京海上保險
會社ヲ我政府カ援助シタルカ如キハ此ノ实例テアル尚現ニ我國ニ於ケ
ル問題トシテモ地震保險、森林火災保險、家畜生命保險等ノ如キカ問
題トナツテキルカ之等ニ対シテモ家ハ国民ノ利益ノタメ又産業ノ発達
ノタメ相當ノ干涉ヲナスヘキモノト信スル

第六章 保險事業ノ淵源

保險ノ淵源ニニツアル

一 相互救済ノ精神ニ基イテ多数ノ人カ因結シテ共同計算ヲナシ以テ損
害ヲ分擔スル制度テアル此ノ精神ハ自然ニ人類ニ存在シテキルカラ極
メテ古イ時代カラ此ノ精神ニ基ツク經濟上ノ施設ニ残ツテキル既ニ古
代ノ三侯諸國例ヘハバビロニアノ記録ニモ或種ノ相互救済制度カ見エ
テキル、然シ正史カ相當ノ確實性ヲ以テ保存サレテ以來最モ古ク現ハ
レテキルモノハ羅馬時代ノ (Collegia (College)) テアル、之
ハ僧侶又ハ職人又ハ單純ナル隣人ノ因結テアツテ常ニ宗教的色彩ヲ帶
ヒテキル団体人ノ醵金ニ依リテ困難ヲ救済シアツテキル中世ニ於テハ
思想カ *guild* ニ依リテアラハレテキル之ハ營業上ノ利益ノ保護ヲ主
タル目的トシテキルモノカ多クツタカ中ニハ單純ナ社交上ノモノモア
ツタ、何レノ場合ニ於テモ宗教的色彩ヲ帶ヒ組合員ハ疾病火災死亡等

ノ不幸ノ場合ニハ救済シアツテキタ、之ハ既ニ第八世紀ニ存在シテキ
タコトカ記録サレテキルカ最モ発達シタモノハ十三四世紀ノコトテア
ル近世ニ於テハ自由思想カ人心ヲ支配スルコトニナリ都市ニ於テハ營
業ノ自由カ認めラレ農村ノ民ハ農奴ノ地位カラ解放サレ居住移轉ノ自
由カ認めラレ而シテ當時ギルドカ甚タシク圧制的ニ流レテキタモノテ
アルカラ自然ノ勢トシテギルドハ滅ホサレ同時ニソノ相互救済ノ制度
モ亡ビタノテアル遂ニ産業革命カ行ハレテ經濟界カ著シク発達シタノ
ニ伴フテ労働者ノ数カ著シク増加シソノ生活カ不定定ニナツテ來タカ
ラ今日各地ニ見ルカ如キ共済組合カ生レタ、尚此ノ外ニ注意スヘキコ
トハ石ノ如ク労働者階級ノ間ニ斯ル保險制度カ存在スルノミナラス實
業家カ具ノ實業ノ安定ヲ計ル上カラ同一ノ思想ニ基ツイテ國結シテキ
ルモノカアル例ヘハ家畜業者ノ保險組合、森林業者ノ森林火災保險組
合、船主ノ海上保險組合ノ如キ之レナリ、斯ノ如クニシテ相互救済ノ
思想カラ生シタ保險制度カ一方ニ存在スル

第二ノ源泉ハ損害ノ引受又ハ危險ノ轉嫁ヲ營業的ニ行フタモノテアル
之ハ主トシテ海上保險ニ源ヲ究シテキル古代ハ造船術航海術カ幼稚ノ
タメニ海上貿易ハ甚タ冒險的テアツタカラ地中海沿岸テ貿易カ盛ンニ
行ハル、ニ當ツテ一定ノ對價ヲ授受シテ危險ヲ引受ケルコトカ盛ンニ
行ハレタノテアル、斯クノ如キ營利主義ニ基付ク保險事業ハスシキ間
海上保險ニ限ラレテアツタカラ十八世ノ末ニ至ルマテハ單ニ保險トイ
ヘハ海上保險ノミヲ意味スルノガ普通テアツタ、然ルニ近世ノ殆メ又
ハ中世ノ終リニ於テ此ノ方面ヲ火災保險、生命保險等ニ應用スルモノ
カ出來テソノ營業者カ次第ニ多クナリ保險事業ノ種類及範圍カ甚タ廣
クナリ而シテ今日最モ普通ニ行ハレテキルモノハ此ノ方法ニ依テキル
ノテアル

斯ノ如ク保險ノ源カニツアルコトハ注意スヘキコトテアル、今日テハ保
險事業ノ經營方法ニ殆ント同一視スルコトノ出來ナイ程異ツタニ方法カ
アル故ニ保險ノ性質ヲ迷ヘルニ付テモ第一ノ源カラ出テキルモノヲ損害

分担ノ制度ト考ヘ第二ノ源カラ出テキルモノヲ損害ノ引受又ハ危険ノ賣
買ト考ヘ此ノニツノモノヲ同時ニ見ルコトニ依リテ保険ノ性質カヨク理
解サレ得ルト思フ、二者共ニ損害ヲ他人ニ轉嫁スルト云フ莫ニ於テハ同
一テアルカ轉嫁ノ方法カ透ツテキレ、後ニ説明スル如ク保險業ノ經營方
法ニ相互主義ト受取主義(定額主義)トニツアルカ此ノ事ハ保險ノ淵源
ノ二元論ニ依テ容易ニ理解サレ得ルノテアル
最後ニ附加ヘルコトハ公營保險テアル、国家又ハ地方自治体ハ国民又ハ
住民ノ生命及財産ヲ保護スル任務ヲ有ス然レニ從來遠ヘ来リシ如ク極度
ノ危険ハソノ生命財産ヲ脅カスモノテアルカラ国家ノ力ニ依リテ之ヲ保
護スル必要カアル殊ニ家屋ノ火災ニヨル損害ノ如キハ最も重大テアルカ
ラ既ニ十八世紀ノ中頃ニ於テ独乙系統ノ各地ニ於テ公營火災保險ノ制度
カ設ケラレ今日マテ繼續シテキル尚之等ノ保險所ノ中ニハ森林保險、農
業保險、家畜保險等ヲモ營ムモノカアル、此ノ外種々ノ理由ニ依リテ國營
又ハ公營ノ保險カ存在スル例ハ、*New Zealand* 政府ノ生命保險ハ

同地ニ未ダ適當ノ保險会社ナカリシカ故ニ此ノ缺陷ヲ充タスタメニ行ハ
レ始メタノテアル又同地公立火災保險ハ民間諸会社ハ料率協定ヲ行フテ
保險料ヲ不当ニ高メタカラ之ヲ抑制スルタメニ行ハレ始メタ伊太利政府
カ一般ノ生命保險ヲ國營独占トナシタルハ其ノ收益ヲ以テ社会政策的施
設ノ財源トナサント欲シタノテアツタ(但シ近年ニ至リ独占ノ條項ヲ除
イタ)又十九世紀ノ中頃以來佛国英国伊太利白耳義其他多クノ國ニ於テ
社会政策ノ目的ヲ以テ国立ノ保險事業カ次第ニ行ハレテ来タ、殊ニ八十
年代以後ニ於テハ各種ノ労働保險ヲ國營トナスニ至リタルカ故ニ此ノ方
面ニ於ケル國家ノ活動力甚タ盛ントナツタ今ヤ自由放任ノ政策ハ次第ニ
棄テラレントトシ一方ニハ國家主義カ強調セラレ又他方ニハ社会主義ノ思
想カ次第ニ強クナリ、二者共ニ營利主義及個人主義ニ反対スルモノテア
ル然ラハ皆テ重商主義ノ下ニ於テ独乙地方ニ於テ公營保險カ行ハレタル
ト同シク今ヤ再ヒ保險公營ノ思想カ次第ニ擡頭シツ、アルコトハ当然ノ
帰結テアル、

第七章 保險者

歐洲ニ於ケル保險事業ノ沿革ヲタスネルニ海上保險ハ始メ個人ノ營利的
企業トシテ行ハレ後ニ会社組織ノモノカ起ツタ、生命保險ハ始メハギル
財共済組合ニヨリテ行ハレ後ニ海上保險ノ影響ヲ受ケテ個人企業者ヲ
生シタカ更ニ進ンテ會社組織ヲ営ム者カ多クナツタ、火災保險モ生命保
險ト其ノ經路ヲ同シクシテ平ル、尚此ノ外ニ産業獎勵、公益ノ増進、公
安維持等ノ目的ヲ以テ國家其他ノ公法人カ此ノ事業ヲ營ミタルコトハ前
述ノ如シ

凡ソ保險業ハ大規模ノ組織ニ依リ多數ノ被保險者ヲ相手トシテ而モ多數
ノ金額ヲ取扱フモノテアルカラ其ノ事業ノ經營ノ良否ハ公益ニ關係スル
故ニ其ノ事業ノ主体即チ保險者ニハ確實ナル財政上ノ基礎ト永續スヘキ
企業組織トヲ必要トスル故ニ我保險業法ハ營利保險業監督 法ノ第二條

ハ株式会社ト相互^{会社}トニ限り保險業ヲ營ミ得ルコトヲ定メテキル、此ノ外
我國ニ於テ保險業ノ經營者カ三ツアル(一)ハ國家及ヒ地方自治體、(二)共済
組織、(三)外國保險業者テアル、國家其他ノ公法人カ其ノ行政事務ノ一部
トシテ之ヲ営ムコトハ保險業ノ公共的性質ニ反セサルノミナラス却而保
險業カ如何ニ公共的性質ヲ有スルモノナルカラ裏書スルモノテアル、我
國ニ於テハ大正六年法律第ニ〇號戰時海上再保險法ニ基ツキ農商務省カ
戰時海上再保險ヲ營ンタコトカアルカ今テハ此ノ事業ハ廃止サレテキル
大正五年ノ法律第四ニ鴉簡易生命保險法及大正十五年法律第三九號郵便
保險法ニ依リテ遞信省カ生命保險業ヲ現ニ行フテキル、大正十一年法律
第七十號健康保險法ニ依リテ内務省カ明年一月ヨリ疾病保險ヲ營ム豫定
テアル又本年ノ始メ以來神戸及大阪市ニ於テ労働者ノ爲メニスル疾病保
險、失業保險、信用保險等ヲ行ヒ始メタノテアル、但シ之等ハ法律ノ基
礎ニ基ツイテキナイカラ保險業法トノ關係ニ付テ多少ノ疑問カアル次ニ
一定ノ限局セラレフ範圍ノモノカ相互會社タル法定ノ條件ヲ備ヘスシテ

共済組合ヲ作り保險事業ヲ行ヘルコトハ今日普通ニ見ル所ナルカソノ
中ニハ例ヘハ鐵道省共済組合ノ如ク官業ニ附屬シテ設ケラレタルモノハ
夫々特別ノ勅令ニ基ツイテ設ケラレテ平ル但シ其ノ根據ハ勅令テアルカ
ラ法律タル保險業法ニ對スル關係ニ於テ疑問カ残ル多クノ民業ニ於テ設
ケラル、共済組合ニ付テハ全ク法令ノ根據ハナイ但シ之等ノモノハ實際
上有益テアルカ故ニ特定ノ範圍内ノモノヲ集メテツノ保險團體ヲ作レ
ルコトハ保險ノ實質ヲ補スルモノニモセヨ之ヲ事業ト称スヘキニ非スト
イオ辭款ニ基ツイテソノ存在カ默認サレテキル、然シ作ラ一般公衆ヲ相
手トシテカ、ル事業ヲ作りタルトキハ之ヲ類似保險業ト名付ケテ禁止セ
ラレルノテアル時トシテハ此ノ法律問題ノ整關ヲ避ケルタメニ他ノ法令
ニ於テ共済トイフ文字ヲ用ヒテ共済ト保險トハ異ルトイフ形式的論理ニ
依リテ此ノ問題ノ解決ヲ計ツテキルコトカアル例ヘハ高產組合法ニ於ケ
ルカ如シ共済組合ノ中テ工場及鉦山ニ關係シ健康保險法ノ適用ヲ受ケル
所ニアリテハ其ノ組合ヲ改造シテ之ヲ健康保險組合トナシ健康保險法上

ノ一機關トナスコト、定メラレタ(健康保險法ニニ条以下)外國ニ於テ
ハ今日尙個人企業、合名會社其他種々ノ組織ヲ以テ保險業ヲ營ンテキル
モノカアル殊ニ英國ノ *Shoyals* 二萬セル保險業者ハ個人企業者ノ最
モ著シイモノテアル故ニ之等ノモノカ我國ニ支店又ハ代理店ナトヲ設ケ
テ保險業ヲ營ムトキハ特ニ許可セラレルコトカアル之實際上ノ必要ニ出
タモノテアル(明治三十三年勅令第三八〇、外國保險會社ニ關スル件第
一條)株式會社カ保險業ヲ營ムコトハ他ノ事業ニ於ケルト異ナルコトナ
シ從テコ、ニハ其說明ヲ畧シ唯保險業法ニ規定セル特別ノ点ニ付テ要件
タケヲ記ス

A、保險業ニハ多クノ營業資金ヲ要シナイ却テ多額ノ保險料ヲ受取ツテ
之ヲ投資スルコトカ重要ナル業務ノ規則テアル故ニ保險會社ノ資本金
ハ營業資金ノ用ヲナサスシテ寧ロ被保險者ニ對スル責任ヲ果スタメノ
担保資金ノ性質ヲ有ス故ニ法律ハ保險株式會社ニ付テハ株金ノ全額拂
込以前ニ於テモ増資ヲ許ス(業法二〇、商法二一〇)

保險会社ハ事業開始ノ始メニ多クノ費用ヲ要スルヲ以テ設立費用及最初
五年度ノ營業費ハ十年以内ニ漸次之ヲ償却スルコトヲ許ス(業法一四條
ニ第一九、五八)且シ設立費用及營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非サレ
ハ株主ニ利益配当ヲナスヲ得ス

C 保險株式会社ハ其ノ保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ保險株式会社ニ
移転スルコトヲ得(業法二〇ノ二乃至二〇ノ一ニ)之ハ生命保險ノ如
キ長期契約ニソノ利益ヲ見ルコトニシテ一方ニハ会社カ事業ヲ廢止セ
ントスルトキニ被保險ヲシテ他ノ会社ト契約ヲ継続スルコトヲ可能ナ
ラシメル又他方ニハ事業ヲ廢止セントスル会社ヲシテ清算ニ付債權ナ
ル手續ヲ免レシムルタメノ便法ヲアル

相互会社

ハ保險業ニ特有ナモノテ保險業法ニ詳細ナ規定カアル之ハ大体ニ於テ
産業組合等ト同シク協働主義ノ精神ニ基ク社員ノ相互保險ヲ行ヒ共同
ノ利益ヲ目的トスル社団法人テアル、其ノ目的タル事業ハ社員ノ相互

保險ヲ營利事業ニ非サルカ故ニ業法九〇條ハ相互会社ノ投資ニ付テハ
營利ヲ目的トセサル社団法人ト同一ノ登録税ヲ納ムヘキモノトシ又業
法九一條ハ相互会社ニハ營業税ヲ課セサルモノトセリ又營利事業ニ非
ル結果トシテ株或会社ニ於ケル利益金又ハ損失金ナル文字ノ代リニ相
互会社ニテハ剩餘金又ハ不足金トイフ文字ヲ用ヒテアル但シ便利上カ
ラ商人及ヒ会社ニ關スル商法ノ規定ヲ準用スルコトニナツテアル(業
法第三五)而シテ相互会社ハ生命保險及損害保險ニ付共ニ之ヲ設立シ
得ル筈ナルカ現ニ我國テハ生命保險ニ付七個ヲ數フルニ反シ損害保
險ハ一ツモナイ曾テ一ノ相互会社カ火災保險ニ付テ設ケラレタカ程ナ
ク解散シタ此ノ事實ニ照シテ考ヘルト生命保險ノ如キ若實ナル事業ト
損害保險ノ如キ冒險的ナル事業トニ於テ事業ノ組織及ヒ經營ニ付テソ
ノ趣ノ異ニスル所ナルハ勿論テアツテ從テ相互扶助又ハ協働主義ヲ
精神トスル相互会社ハ前者ニハ適スルケレ共後者ニハ適セサル所アル
モノ、如シ

相互会社ノ特色ヲ示スタメニハ株式会社ト比較スルコトカ便宜ナル
 A 株式会社ニアリテハ株主ト被保険者トハ異ルモノテアルカ相互会
 社ニアリテハ社員ト被保険者トハ必ス同一ナル、相互会社ノ被保
 険者ハ社員トシテハ恰モ株式会社ノ株主ノ如クニ会社ノ議決機關タ
 ル社員總會ニ出席シテ会社ノ事務ニ參與スル権利ヲ有ス、コレト同
 時ニソノ社員ハ被保険者タル資格ヲ有ス株式会社ノ被保険者ト同シ
 ク保険契約上ノ権利義務ヲ有ス、斯ノ如ク社員關係ト保険契約關
 係トカ必然的ニ結合シテナル

B. 株式会社ノ資本金ハ株主ノ出資ナルカ相互会社ノ基金ハ社員ノ
 出資シタモノテハナイ基金醸出者ナル者カ別ニアツテソノ者カ相互
 会社ニ対シテハ大体ニ於テ株式会社ノ社債権者ト同シタ單純ナル債
 権者ノ地位ニ立ツノテアル、從テ一定ノ利子ヲ受ケルノミテ会社ノ
 營業上ノ利益配当ヲサレ^受ル^ルノ原則トシ又社員ノ如ク会社ノ事務ニ參與
 スル権利ヲ有スルモノテハナイ而シ基金醸出者ノ債権ハ單純ナル金

錢貸借上ノ債権テハナイソノ基金ハ毎事業年度ノ剩餘金ヲ以テスル
 ニ非サレハ償却セラレ又ハ利子ヲ支拂ハル、ヲ得ス(業法五六)又
 清算ノ場合ニハ一般ノ債務ノ外ニ社員ノ保険金及ヒ社員ニ拂戻スヘ
 キ金額ヲ支拂ヒタル後ニアラサレハ返還ヲ受ケルコトナク又社員ハ
 保険料ノ外ニハ基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトナシ(業法七九)
 故ニ基金醸出者ハ保險業ノ經營ニツイテ恰モ株主ト同様ニ利害關係
 ヲ有シ企業ノ危険ヲ負担スルモノテアル故ニ基金醸出者ハ定額ヲ以
 テ会社ノ剩餘金ノ分配即チ利益配当ヲ受ケルノヲ通例トスル此ノ場
 合ニハ相互会社ト株式会社トノ間ニ殆ント差異ノナイモノニナル此
 ノ基金ハ毎事業年度ノ剩餘金ヲ以テ次第ニ償却セラルヘク(業法五
 六)而シテソノ償却セラルヘクニ從ヒ同額ノ獨立金ヲナシテ会社ノ担
 保資金ヲ減少セシメサルコトニシテアル(業法六〇)而シテ全ク基
 金カ償却セラレタル場合ハソノ会社ハ純然タル相互組織ノモノトナ
 リ最早基金醸出者即チ株式類似ノモノカ存在セサルコトニアリソノ

会社ハ云ハ、社員全体ノ共有物ニナル

C 相互会社ノ債務ニ關スル社員即チ被保險者ノ責任ニ付テハ三種ノ

區別ヲ認ムルコト産業組合ニ於ケルカ如シ(業法三七)

1. 無限責任 社員ノ全員カ無限ノ責任ヲ負フモノ

2. 有限責任 社員ノ全員カ保險料ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ

3. 保證責任 社員ノ全員カ保險料ノ外ニ一定ノ金額(例ハ保險料

ノ二倍迄)ヲ限度トシテ責任ヲ負フモノ之レナリ

凡ソ相互保險ニアリテハ無限責任カ其ノ本質ニ適スルモノテアルケレ共斯クノ如キハ狭イ範圍ニ於テ互ニ熟知セル人々ノ間ニアラサレハ實行不可能ナル極ク一般世人ヲ相手トシテ行フカ爲メニハ株式会社ニ類似シタル方法ヲトリテ社員ノ責任ヲ輕クスル必要カアル故ニ我國現存ノ七ツノ相互会社ハ何レモ有限責任ノモノ、ミテアル此ノ事ハ第一章ニ掲ケタ産業組合ニ關スル統計ト對照シテ人心ノ赴ク所ヲ了解スルコトカ出來ヤウ、基金醸出者ニ利益配當ヲナシ社員ノ責任ヲ有限トス

ル以上ハ相互会社ト株式会社トノ區別ハ殆ント其ノ實質ヲ失ヒタ、社員即チ被保險者カ会社事務ニ參與有ストイフ空名ニ止マル而シテ多数ノ社員ハ實際ニハ社員總會ニ出席スルモノニ非サルカ故ニ相互会社ノ實質ヲ失ヘルモノカ少クナイ尤モ基金カ悉ク償却セラレタル後ハ株主類似ノモノカナクテ純粹ニ社員ノ共有者トナル誤テアルカ此ノ場合ニ於テモ社員相互ノ利益ノタメニ行ハル、ヤ或ハ事業經營者ノ利益ノタメニ行ハル、ヤハ經營者ノ人物ニ依ル問題テアル

D 相互会社ノ計算ニ付テハ設立費用及初メノ五年度ノ營業費ヲ十年以内ニ全部償却スルコトヲ得ル(五八条)此ノ金額ヲ全部償却シタル後ニ於テハ毎事業年度ノ剩餘金ノ中カラ法定準備金ノ積立ヲナシテ損失ノ填補ニ備ヘ(五七条)ソノ殘額ヲ以テ基金ヲ償却シ又ハ剩餘金ヲ社員ニ分配スルヲ得ル(五九条)基金ヲ償却スレハ其レト同額ヲ別ニ積立ツルヲ要ス(六〇)又各事業年度ノ剩餘金ハ定額ノ定ムル所ニ從ツテ社員ニ分配セラル、カ若シ何等ノ定メナキトキ八年度末ニ於ケル社員

ニ分配スヘキモノヲアル(一)
E 相互会社ハ其ノ保険契約ノ全部ヲ包括的ニ他ノ相互会社ニ移転スル
コトヲ得ル(二〇ノ二乃至二〇ノ一ニ)

第八章 被保険者

保険ハ危険転嫁ノ制度ヲアルカラ危険ヲ転嫁スル人ト之ヲ引受ケル者ト
カ相對立スル又保険ハ有價的ニ行ハル、カ故ニ給付ニ對スル反對給付ノ
關係カ存在スル要スルニ保險關係ニハ相對立スル兩當事者カ存在スルソ
ノ一方カ前ニ述ヘタ保險者ヲ保險料ヲ受取ル外ニ損害負担ノ責ニ任スル
モノヲアルソノ相手方ヲ被保險者ト称ス之ハ保險料ヲ支払フ代リニ保險
給付ヲ受ケル権利ヲ有スルモノヲアル然ルニ保險契約法例ヘハ商法ニ於
テハ其ノ契約關係ヲ規定スルニ當リ保險者ノ相手方タルヘキモノニ付種
種ノ資格ヲ區別シ其ノ資格ニ應ジテ其ノ權利義務ヲ明ラカニスル必要ア

ル故ニ上述ノ如キ廣義ノ被保險者ニ付テ更ニ左ノ如キ區別ヲ付ケテキル
但シ同一人ニ付テニ又ハ三ノ資格ヲ兼ネルヲ妨ケナイ

生命保險契約

(1) 保險契約者 保險契約ヲ締結シ

保險料支拂ノ責ニ任スル者

(2) 被保險者 シノ人ノ生死ニ關シ

テ保險契約ノ行ハル、所ノ人

損害保險契約

(1) 保險契約者 上ト同シ

(2) 被保險物 之ニ相当スル人ナシ但

シ保險ノ目的(商四〇四)即チ被

保險物件カ之ニ相当スル訳テアル

(3) 被保險者 之即チ受益者ナリ

(3) 保險金受取人 保險契約ニ基ツ

ク受益者ナリ

此ノ如ク被保險者トイフ文字ヲ限定シタ意味ニ用ヒタコト及ヒ同一ノ被
保險者トイフ文字カ損害保險ト生命保險者トニ於テ異ナル意味ニ用ヒラ
レテキルノハ我商法ニ於テ便宜上採用シタニ過キナイ而シテ後ニ述ヘル
如ク傷害保險ノ如キ第三種ノ保險ニアリテハ商法ニ直接ノ規定ヲ缺ケル

カ故ニ類推的ニソノ用法ヲ定メ傷害保險ニ於テハ被保險者トイフ文字ヲ生命保險ト同様ニ認メルコトカ出來ル然ルニ郵便年金法トイフ特別ノ契約法ニ於テハ被保險者及受益者ヲ常ニ同一人ニ限ルモノトナシ之ヲ年金収者ト名付ケテキル即チ郵便年金ハ生命保險ノ一種ヲアルニモ拘ハラスカ、ル特別ノ用語ヲ用ヒル之モ便宜上カラ出タノテアル健康保險法ノ如キ公法關係ノモノ及ヒ共済組合ノ如キ特別ナル組合關係ニ立テルモノニアリテハ商法ノ中ノ保險契約ニ規定スル上記ノ如キ資格ノ區別ヲ適用スルコトヲ得ス、從ツテ天々適當ナ用語ヲ使用シテキル經濟學上ノ研究ニ於テハ特ニ必要ノ場合ヲ除イテハカ、ル資格ノ區別ヲ一徹ニナス必要ハナイカラ被保險トイフ文字ヲ廣義ニ用ヒテ保險者ト対立スル相手方ヲ概括的ニ指入モノトシテ之ヲ用フルノヲ通例トスル

第九章 保險事業ノ經營

保險事業カ經營セラレテキル状態ヲ三臭カラ分類シテ説明スル

一、受員式保險（定額保險料式保險）

二、相互式保險

之ハ保險事業ノ經營ニヨル損害負担ノ狀況ヲ標準トスル區別ヲアル、相互式ノ經營トハ共通ノ危險ヲ感シテキル多数ノ人カ團結シテ相互ニソノ費用ヲ分担スルモノ即チ被保險者相互ノ計算ニ於テ事業ヲ営ムモノテアル所謂「一人カ萬人ノタメニ又萬人カ一人ノタメニ」トイフ所ノ相互主義ニ基ツイテ行ハレルモノテアル故ニ被保險者ハ相合シテ團體トシテハ保險者ノ地位ニ立ケ個人トシテ相分レテハ被保險者ノ地位ニ立ツモノトイフコトカ出來ル共済組合ヲ行フモノハ全ク此ノ方法ニ依ルモノテアル、相互保險会社ニ於ケルモノモ此ノ方法ニ依ルモノテアル、然シ第七章ニ於テ述ヘタル如ク實際ニハ幾分カ此ノ方法カラ離レテキルコトハ疑カナイ、此ノ種類ノ經營方法ニ依ルトキハ各人ノ負担スル保險料ハ理論上ハ一定額ヲハナイソノ保險料ノ賦出方法ニハ種

マアルカ其ノ純粹ノ形ニ於テハ先ツ一定額ヲ前納シ決算期ニ至リテ剩餘金カアレハ拂戻スカ又積立金トナシオク不足金カアレハ返徴スル但シ時トシテハ後納法等ニ依ルコトカアル此ノ方法ニモ色々アルカソノ純粹ナル形式ニ於テハ損害発生後ニソノ支出スヘキ金額ヲ団体員ニ割当ラ、徴收スルモノヲアルカクノ如クソノ必要トスル金額ヲ団体員ニ割当ラルモノヲ賦課式保険トイフ、此ノ如ク相互式ノ經營法ニアリテハ理論上ハ各人ノ負担ハ一定額ヲハナイカ實際ニ於テハ被保險者ハ多數アルカラ自ラ平均ノ法則カ働ク、又保険料ノ計算ノ基礎タル統計カ正確テアレハアル程毎年各人ノ負擔額ハ實際ニハ畧一定額ニ近イモノトナル、從ツテ保険ノ效果アル正確ナル安定ハ之カタメニ害セラル、コトハナイ

受負式又ハ定額保険料式ノ經營方法ハ例ヘハ株式会社ノ場合ノ如クニ企業者ノ地位ニ立ツ者カアツテ保険ト称スル無形ノ財貨ヲ一定ノ價格ヲ以テ売買シ事業經營ニ基ツク損害ヲ負擔シ一定ノ保険料ヲ徴收スルコトニ依リテ損害ヲ引受ケルコトヲ請負事業ノ如ク行フテキルモノヲイフ即チ企業者カ一定ノ保険料ヲ受取り之ニ対シテ一定ノ條件ノ下ニ保険金ノ支拂ヲ約シ保險事業ヲソノ危険ト計算トニ於テ行フモノテアル從ツテ被保險人カラ之ヲ見レハソノ負担カ確定シテオリ之レニ依リテ生活ノ安定カ得ラレルノテアル、此ノ場合ニ被保險者相互ノ間ニハ何等利害關係ニ基ク固結カアルノテハナイ單ニ一ツノ商品カ一定ノ價ヲ売買セラレテキルニ過キナイ唯客觀的ニ損害分擔ノ事實カアルト説明セラル、ニ過キナイ

国家又ハ地方自治団体カ保險者タル場合ニハ受負式テアル場合ト相互式テアル場合トアル例ヘハ国家カ之ニ依リテ生スル利益ヲ負擔シテ行フナラハ受負式テアルソノ例ハ郵便年金當ツテ行ハレタ戰時海上再保險ノ如キ之ナリ、サレトモ時トシテハ此ノ事業ヲ一ツノ特別會計トナシ剩餘金アレハ積立テ又ハ次年度以後ノ保険料軽減ニ充テ不足金カアレハ次年度以後ニ保険料ヲ増加シテ之ヲ填補シカクテ全費用ヲ全被保

險者ニ分担セシメル方法ヲ取ルトキハ相互式トナルソノ例ハ健康保險ニ於テ之ヲ見ル

六二

近年ニ至リ株式会社ニシテ被保險者ニ利益配当ヲナスモノカ生命保險ニ多ク生シタ斯ル經營ノ方法ヲ混合保險ト稱スルコトモアル之レ相互會社ノ事業ニ刺戟セラレ之レト競争スルタメノ政策トシテ起ツタコトヲアル抑モ相互會社ハソノ本質トシテハ剩餘金ハ返還シ不足金ハ徵收スル苦ノモノテアル然シ前者ハ易ク後者ハ難イ故ニ通例ハ保險料ヲ必要以上ニ高メテオク、必ス剩餘金ノ生スルコトヲ期シテキル、而シテ之ヲ剩餘金ノ分配トシテ恰モ會社カ非常ニ好成績ヲ示シタ如クニ裝フモノテアル世人ハ之ヲ知ラサルカタメニソノ分配金ヲ有利ナル投資ト考ヘルコト、ニ於テ受取主義ノ株式会社モ世人ノ歡心ヲ求メルタメニハ之レト同シ方法ヲ採ル必要カ生スル所ル必要ニ基ツイテ混合式ノ保險カ生シタ我爾易生命保險ハ受取式ヲ以テ初メタカ後ニ混合主義ニ移ツタ

營利主義ト被營利主義

營利事業トシテノ保險ハ株式会社（及ビ一般ニ資本主義的組織ノ下ニ）ノ行フ所ノモノデアル、但シ時ニハ國家カ財政上ノ理由ニ基キ收入ノ目的ヲ以テ之ヲ營ムコトガアル。當テ伊太利ノ生命保險カ財政的独占事業トシテ行ハレ、現在ハ独占ヲ止メタケレドモ尚財政的理由ニヨリテ之ヲ行フテキル例ガアル。同様ノ理由ニ基イテ保險ヲ國營トナサント云フ意見ハ屢々各國ニ於テ唱ヘラレテキル。

被營利事業トシテノ保險業ハ共済組合政府等ニ於テ之ヲ行ヘルコト多シ、殊ニ國民生活ノ安定、又ハ産業ノ發達等ヲ目的トシテ政府自ラ之ヲ行フコト近時益々多クナラントスル傾向ガアル。我政府カ健康保險事業ヲ行ヘルガ如ク、又現ニ森林火災保險、家畜生命保險ニ付キ調査セルガ如キハ其ノ实例デアル。我相互會社ハ被營利事業タルコトヲ本質トシテキルケレドモ實際ニハ營利的ノ色彩ヲ帯ビルモノガアルカモ

六三

シレ又。

抑々保険業ヲ営利事業タラシメル事ノ可否ヲ論ズルニアタリテハ保險ノ性質ヲ研究シナケレバナラス。而シテ保險ヲ以テ未來ノ準備ト考フルナラバ成可ク之ヲ非営利的組織ヲ以テ行フコトガ適當ト云ハナケレバナラス。今若シ純然タル社会主義ノ立場ヲトルナラバ其ノ結論ハ既ニ明白デアル。但シ資本主義經濟組織ノ下ニ於テ殊ニ營業自由ノ原則ヲ認メラレテキル今日ニ於テ之ヲ論ズルナラバ保險ノ種類ニヨリテ自ラ其ノ間ニ差別ヲタテルコトガ本末ル、即チ生産經濟、即チ實業經濟ニ伴フ保險ハ營利主義ニヨルコトヲ妨ゲナイデアロウ。例ヘバ海上保險、運送保險、火災保險ノ一部（工場ノ例）ノ如キ之デアル。然ルニ消費經濟又ハ家庭經濟ニ伴フ保險ノ如キ非営利的デアルコトヲ希望スル例ヘバ生命保險、労働保險、火災保險ノ一部（住宅ノ例）ノ如キモノハ之レナリ、又前ニ保險ノ可能範圍ニ付テ述ヘシ如クニ保險ノ必要ノ程度ノ大ナルニ拘ラス実行ノ困難ナルハ國營トシ非営利的ニ行ハ

レル事適當ナラント思フ、例ヘバ各種ノ農業保險ノ如キハ之ニ屬ス。

此ノ点ニ関シテ注意スベキ一問題ガアル、抑々營利事業ハ企業家ノ利ヲ目的トシテ行ハレルモノナル故理論上ハ被保險者ニトリテ不利ノ皆デアル。然シ株式会社ニ於ケルガ如ク純然タル私的企業者ノ利潤ノ為メニ行ハル、時ハ企業家ハ其ノ利害關係ニ刺戟セラレテ敏活ナル活動ヲスルカラ實際ニハ却ツテ優レタル成績ヲ挙げ被保險者ノ為メニ却ツテ利益デアル实例ガナキニ非ズ。

従来一般ニハ保險業ヲ分ツテ相互保險ト營利保險トス、是ハ保險業法ノ解説トシテ相互会社及ビ株式会社ヲ説明スルニ就テ採用スル事ヲ得ルモ廣ク保險學上ノ分類トナス能ハズ、例ヘバ郵便年金、戰時海上再保險ノ屬式ノ方法ニテ行ハル國營保險、例ヘバ郵便年金、戰時海上再保險ノ如キハ其ノ分類ノ何レニモ屬セザル事トナル、抑々其ノ分類ハ分類ノ標準ヲ取方ニ誤ガアル、即チ分類ニ交錯ガアル之ヲ避クル事ハ論理上必要デアル、故ニ正シキ分類法トシテハ、(一)營利ニ対シテハ非営利、

(二)相互ニ対シテハ請負式トナス事ヲ要スト思フ。但シ時トシテハ相互主義ト云フ文字ヲ非営利主義ト同ジ意味ニ用アルモノアリ。實ハ上述ノ如ク營利保險ト相互保險トヲ対立セシメル人々ハ悉ク此ノ意見ノ様デアル。然シ相互保險ハ常ニ非営利的デアルガ非営利保險ノ中ニハ相互式ト受負式トノ經營方法ガアル。故ニ此ノ通説ハ適當ト考ヘルコトハ出来ヌ。

相互 非営利

請負 非営利

三、任意保險ト強制保險

從來一級ニハ保險ヲ以テ國民ノ私生活ニ關係スルニ過ギナイモノト考ヘ之等任意ナル私法上ノ關係ニ置イタガ近時ニ至リ社会保險ノ如キハ之等公法關係ノモノトナシ之レヲ強制スルモノガ甚ダ多イ。但シ独乙系統ノ諸國ノ一部ニ於テハ公立ノ火災保險ヲ設ケテ、シカモ之ヲ

強制シタモノガ比較的早イ時代カラ存在シ引續キ今日ニ及ベル例ガアル。之ハ火災ノ為メニ被害者ガ困難ニ陥ル事ハ公安ニ害アルノミナラズ、又國民ノ生活ヲ不安ナラシメルモノデアルカラ國家ガ当然為スベキ行政事務ト考ヘタモノト思ハレル。然シ斯ノ如キハ罕口例外ト從來一級ニハ保險ヲ任意トシテ中タノデアル。今日或ル種類ノ保險特ニ労働保險ノ如キモノニツイテ之ヲ任意ナラシムベシト主張スルモノハ自由主義ノ道徳性ニ重キヲオモテ自發的ニ將來ノ準備ヲ為ス事ガ高尚ナル道徳デアル。之ヲ強制スルコトハ却ツテ此ノ道徳性ヲ亡ボスモノデアルト云フノデアル。強制主義者ハ之ニ反シテ經濟上ノ必要ニ重キヲオキ國民生活ノ安定ニ必要ナル保險ヲ普及セシメル為メニ強制ガ最良ノ手段デアル。而シテ任意論者ノ云フガ如キ道徳性モ實際ニハ發現スルコトガ少ナクシテ最多數ノモノハ無保險ノ状態ニアル。故ニ強制手段ニヨリテ初メテ此ノ道徳性ヲ發揮セシメ得ルノデアルトイフ。又任意論者ハ強制主義ハ國民ノ權利自由ヲ無視スル圧制政治デアルト称ス。

之ニ対シテ強制論者ハ国民ノ生活上必要ナルニモ拘ハラズ自由ニ放任スレバ充分ニ行ハレナイモノニアリテハ余儀ナク之ヲ強制シテ普及セシメナケレバナラナイ。例ヘバ保険ノ方法ニヨリテ自主独立ノ準備ヲナシ、他人又ハ社会ニ対シテ負担ヲ加ヘザルコトハ国民トシテ当然ノ義務ナル、保険ハ人々ガ社会的義務トシテ負フトコロノモノデア、之ニ対シテ法律上ノ強制ヲ加ヘル事ハ国家当然ノ任務ナル、其ノ理由ハ恰モ小学教育ノ強制、工場監督ノ強制ノ如キト同一ナル、斯ノ如キモノハ压制デハナイ、自由ト放縱トハ區別スル必要ガアル、放縱ハ法律ヲ以テ之ヲ抑制シナケレバ又、又自由ト云モ社会生活ニ於テハ一定ノ制限内ノ自由ガ認めラレルノデア、即チ強制保険ノ主義ハ立憲政治又ハ民本主義ノ政治ニ及スルモノデハナイト答ヘテキル。

任意主義ノ国营保険ハ種々アルガ其ノ中ノ或モノハ此ノニツノ思想ノ中間ニ位スルモノト考ヘルコトガ出来ル、即チ保険ノ必要ヲ認めタルガ故ニ特ニ之ヲ国营デ行フタノデア、ルガ未ダ之ヲ強制スルマデノ必要ヲ認めナイモノデア、例ヘバ我ガ簡易生命保険ノ如キ、独乙地、方ノ公営火災保険、公営家畜保険ノ如キ此ノ種類ニ属ス、但シ国庫ノ收入ヲ目的トスル財政的国营保険ハソノ思想ヲ異ニスル所ガアル。

第十章 保険業ノ分類（種類）

一 生命保険ト損害保険

我商法ハ保険契約ニ付テ生命保険ト損害保険 (Schadensversicherung) 英米ノ Property ins 大抵之ニ似テキル 独墺 瑞西 我國ニ於テ此ノ文字 (Schadensversicherung) ハ單純ナル法律語デア、トヲ區別シテキル、之ニヨレバ損害保険契約ハ (商法三八四条及六五三条) 實際ニ發生シタル損害ヲ填補スル契約デア、生命保険契約ハ (商法四二七条) ハ人ノ生死ニ関シテ一定ノ金額ヲ給與スル契約デア

ル、而シテ我保險業法四條ハ同一ノ会社ニシテ生命保險事業ト損害保
險事業トヲ兼営スルヲ得ズト規定ス、然ラバ此ノ二者ハ何ヲ標準トシ
テ區別シタモノデアルカ、凡ソ保險金支払ヒ、換言スレバ損害填補ノ
状態ニ二種アル

- (一) 一定ノ事故ガ生ズレバ必ず一定ノ金額ガ支払ハレルモノデアル、
生命保險ノ如キハ之ニ屬ス、斯ルモノヲ名付ケルコトガ出来ル。
- (二) 實際生ジタル損害額ヲ(保險金ヲ限度トシテ)填補スルニ止マル
モノデアル、火災保險、海上保險ノ如キモノ之ニ屬ス、斯ルモノヲ
名付ケルコトガ出来ル。

此ノ二種ノ契約ノ間ニハ色々ノ点ニ於テ其ノ法理ガ異なるノデアルガ
商法ノ如キ保險契約法ハ其ノ契約關係ノ差位ニ着眼シテ此ノ生命、損
害ノ區別ヲ爲シタルモノト思ハレル、又保險業ノ監督法タル保險業法
ハ商法ノ規定ノ承継シタノミナラス此ノ二種類ノ事業ノ性質カ甚シク
異なるガ故ニ殊ニ生命保險ノ被保險者ノ利益ヲ保護スルタメニ二種ノ

事業ノ兼営ヲ禁止シタ、故ニ此ノ区域ハ実ハ定額支払保險契約ト実害
填補保險契約トノ差位ニ從フテナサレタルモノト見ルコトガ出来ル、
而シテ立法當時ニ於テハ前者ノ主ナルモノハ生命保險ダケデアツタカ
ラ便宜上生命保險ニ付キテ規定シタルモノニ過ギズシテ生命保險以外
ニ同性質ノモノガナイト断言シタ意味デハナイ、又保險業法カラ見ル
トモハ長期契約ト短期契約トニ於テ並督ノ監視並ビニ監督ノ内容ニ區
別ガ必要デアルカラ二種ノ事業ノ兼営ヲ禁ジタノデアルカラ一方カラ
見レバ商法ト同一ノ理由デ此ノ區別ヲナシタトモ見ラレルカラ、又他
方ニハ短期、長期ノ區別ニ着眼シタトモ見ラレル、而シ生命保險以外
ニ長期契約ガナイト断言シテホルワケデハナイ、只立法當時ノ実情ニ
於テ長期契約ハ生命保險(又ハ少クトモ生命保險ガ主タルモノ)デア
ツタガ故ニ断ル規定ガ設ケラレタノデアルト思フ。

今若シ保險契約又ハ保險事業ヲ生命ト損害トニ分ツトキハ其ノ何レ
ニモ屬セザルモノ(二種ノ性質ヲ兼有スルモノ)ガアル、之ヲ如何

ニ分類スベキカハ困難デアル。例ハバ損害保険ニ於テ被保険者が死亡スレバ一定額ヲ給付スル点カラ見レバ生命保険又ハ定期支拂ノ保険ノ性質ヲ有スルガ尚之ニ併セテ買傷者が必要トスル医薬ノ費用ニ付ヤ実賞金積ヲナス條件ヲ加レバ寧ク損害保険ノ性質ヲ有スルコト、ナル斯ノ如キ第三種ノ保険ノ存在ハ實際ニ認めラレテキルコトデアツテ法律ニ規定ナキガ故ニ之ヲ否認スルコトハ不当デアル。此ノ如キ第三種ノ保険ハ例ハ徴兵保険、疾病保険等種々アル。之ニ対シテハ商法其他ノ保険契約法ノ規定ヲ類推的ニ適用スベキモノデアル。而シテ又之等モ等シク保険業法ノ適用ヲ受ケ其ノ中或ルモノハ生命保険会社ニ於テ又他ノモノハ損害保険会社ニ於テ之ヲ営ムコトヲ許サレテキル。

生命ト損害保険トノ兼営禁止ノ一ノ例外ハ生命保険ノ再保険契約デアル。凡ソ再保険契約ハ元受ケ被保険者が保険金ヲ支拂ヒタル場合ハ損害ヲ再保険者が元受ケ被保険者ニ填補スル所ノモノデアル。從ツテ其ノ内容ハ損害ヲ内容トスルモノデアツテ法律上ハ損害保険デアル。然レ

ドモ保険ノ技術反ビ經濟上ノ見地ニ於テハ再保険ハ元受保ノ一部デアルカラ生命保険ノ再保険ハ兩種ノ会社ニ於テ此レヲ営ミ得ルモノト定メラレテアル。(業法四條但書)

II. 人事 *persons* 保険、財産保険 *property insurance*

保険ノ種類ヲ事故ニヨリテ分ツ時ハ火災保険、疾病保険等ニナル。又被保険物即チ商法ノ所謂保険ノ目的物ニヨリテ分ツトキハ家屋保険、家畜保険、自動車保険等ニナル。又事故ノ生ズル場所ヲ標準トシテ海上保険ト陸上保険ニ分ツ事故ガ出来ル。然レドモ之等ノ分類ハ凡テノ保険事業ヲ通シテナシ得ルコトニ非ザルガ故ニ其ノ実益ガナイ。實際ニハ之等ノ種々ナル標準ヲ分テテ實際ニ便宜ナ名称ヲ採用シテキル。但シ学者ガ教科書ヲ著述スルニ當リテハ被保険物ニ関スル或ル標準ニ基ツイテ人事保険ト財産保険トニ分類スルコトが多い。人事保険トハ人ノ生命、身体又ハ人事關係ニツイテ保険スルモノデアル。但シ其ノ中

クラ特ニ労働者階級ニ対スルモノヲ分離シテ此ニ社会保険ノ名称ヲ與
 ヘルコトガ普通デアル、之レ恐ラク一般社会問題ノ研究ト密接ナル関
 係ノアルコト、及び之ヲ公法的ニ取扱フコトガ普通デアルカラ特ニ之
 ヲ區別スルモノト思ハレル、財産保険トハ財産ニ付テ保険ヲ行フモノ
 デアル故ニ、家屋ノ火災保険ノ如キモノガ之ニ属スルハ勿論家畜生命
 保険ノ如キモ財産保険ニ属スルモノト考ヘラレル。財産保険ノ中デ特
 ニ海上ニ於テ生ズル事故ヲ保険スルモノヲ海上保険ト名付ケ特ニ之ヲ
 分離スルノガ普通デアル、コレ海上保険ハ其ノ契約關係ガ他ノ財産保
 険ト異ナル法理ガ多キ故デアルノト思フ、但シ人車保険ト財産保険ト
 ノ分類モ幾分カ独断的タルコトヲ免レヌ、從ツテ分類ノ中間ニ属スル
 モノ所謂 *Border Case* ガアルヲ免レナイ、例ハ、借入保険
 (*Fidelity Ind.*) ノ如キハ人ノ行為ニ関スルモノト見レバ人車保険
 トナルガ、債権債務ニ関スルモノト見レバ財産保険トナルガ如シ、人
 車保険ノ主ナルモノ左ノ如シ。

一 生命保険、此ハ人ノ生存又ハ死亡ニ關聯シテ保険ヲスルモノデア
 ル、例ハ、バ老年者ノ保険 *Old age ins* 資金保険 *pure Endowment*
 例ハ、バ教育資金保険ノ如キ之ナリ、之ニ反シテ人ノ死亡ヲ條件トス
 ルモノヲ死亡保険トモ云フ、終身保険 *Whole life ins* 定期保険
Term ins ト云フ、此ノ二者ヲ結合シテ一定ノ期間生存シタ場合ニ
 モ、又其ノ期間内ニ死亡シタル場合ニモ、共ニ保険金ヲ支払フモノ
 ガアル。之ヲ生死混合保険 *Mixed ins* トイフ、養老保険
Endowment ins ノ如キハ之ニ属スル、養老保険ニ於テハ寧ろ
 死亡ガ重要ナル要素トナルカラ學術上ハ死亡保険ノ性質ヲ有スルモ
 ノト見ルヲ適當トスル。尚我國ニ於テ生存保険ニ属スルモノトシテ
 取扱ハレテキル各種ノ資金保険ノ中ニモ實ハ死亡ノ要素ヲ含マセテ
 之レノデアツテ純粹ノ生存保険ハ我國ニハ存在シナイ、簡易生命保
 険(大正五、一〇、一ヨリ始ム)又ハ小口生命保険ト云フモノハ
 (*Industrial life ins folks Versicheren*) 通常ノ生

命保険ト甚シク異ナル所ハナイガ小額ノ所得者ノ為メニ行フガ故ニ
 保険金ヲ小額トシ保険料ヲ週拂又ハ月拂トシテ分割シテ払込マシメ
 又経費節約ノ為メニ人身検査ヲ行ハザルコト反ビ(西洋ニ於テハ)
 保険料徴収ノ為メニ保金人(我國ニテハ如何ナル保険会社モ之ヲス
 ルカラ特色トナラス。是ヲ以テモ保険ニ関スル理解ノ点ニ於テ西洋
 ニ劣レ所アルヲ見ル。)ヲ派遺スルコト等ヲ特色トスル。年金保険又
 ハ生命年金 *Life annuity* ト称スルモノハ生命保険ト同一ノ性質ヲ有
 スルモノデアラクカラ。又被保険者ニ向ツテ払渡タサレル金額ガ一時
 金ニ非ズシテ定期金ノ形式ヲトルニ過ギナイ。而シテ其ノ保険料ニ
 相当スルモノヲ掛金又ハ年金資金ト云フガ之レハ一定額ヲ一時拂ト
 スル事モアリ。或ハ生命保険ノ保険料ト同ジク定期的ニ払込ムコト
 モアル。我政府ガ今年十月一日ヨリ行フニ至リシ郵便年金ハ即チ之
 ニ屬スル。

(二) 徴兵保険、之ハ生命保険ノ一種デアアルガ生存ト云フ條件以外ニ兵

徴ニ服スルコトヲモ條件トスルモノデアアル。兵徴ニ服スル為メ必要
 ナル費用ヲ充スコトヲ目的トスル。

(三) 疾病保険 *Diseases or Sick ins.* 之ハ病氣ノ治療費及ビ疾病
 ノ為メ失フ所得ヲ填補スルコトヲ目的トスル條件デアアル。時トシテ
 ハ之ヲ健康保険ト呼ブコトガアル。

(四) 傷害保険又ハ災害保険、之ハ外部の暴力 *External Violence* ヲヨリテ
 負傷シ又ハ死亡シタルトキニ医療ノ費用又ハ所得ノ減少又ハ消失ニ
 対シテ保険スルモノデアアル。之ハ大体ニ於テ二種ニ分レル。一ハ業
 務上ノ災害ニ対スルモノデアツテ此ノ場合ニハ労働者補償法

Workmen's Compensation Act. 結果トシテ雇主ニ補償ノ責任アリ
 トセラレ労働保険ノ一種ト見ラレテキル。ニハ業務外ノ災害デアツ
 テ之ハ普通ノ保険会社ニ於テ一般ノ人ノ為メニ行フテキル。時トシ
 テハ旅行ノ場合ニ生ジタル災害ノミヲ目的トスル契約ガアル之レヲ
 旅行傷害保険ト云フコトガアル。労働保険ノ中ニ付キテ見レバ業務

外ノ災害ハ疾病ト同一視サレテモル。

(四) 出産保険 *maternity ins* 之ハ出産ニ伴ヒテ生ズル医薬ノ費用
産前産後ノ休業中ニ於ケル所得ノ喪失等ニ具ヘルモノデアル。労働
保険トシテハ疾病保険ノ中ニ包含セラレテモル。其ノ理由ハ妊娠及
ビ出産ハ疾病ニ非ズシテ生理上ノ一状態デアルガ経済上ノ考察ニ於
キハ疾病ト同一視スベキモノトルガ故ナリ。

(六) 療疾保険 *Sun ability ins* 之ハ不具者又ハ長期ノ傷病者ニ対シ
テ生活費ヲ支給シ、且療養ノ給付ヲスルモノデアル。疾病保険ト療
疾保険トハ連続的關係ヲ有ス。其ノ分限線ハ六ヶ月トスルノヲ通例
デアル。

(七) 失業保険 *Unemp loy ment ins* 之ハ労働能力及ビ労働意思ヲ有スル
労働者ガ適當ノ職業ヲ得ラレズシテ所得ヲ失フ場合ニ其ノ損害ヲ充
ス保険デアル。

(八) 労働保険又ハ社会保険 小額所得者ノ生計ヲ脅マカス各種ノ危険

ニ対シテ備ヘル各種ノ保険ヲ總称スル(此ノ説明ハ略ス)

三、財産保険

此ノ主ナルモノ左ノ如シ。

(一) 火災保険 *fire ins* 火災ノ危険ニ対シテ財産ヲ保険スルモノデ
アル。其ノ中ニ工場、倉庫、家屋ノ如キモノヲ対象スルモノヲ不動
産保険ト云ヒ、商品、原料品、家具ノ如キモノヲ保険スルノヲ動産
保険ト曰フ。又山林ノ立木ヲ目的トスルモノヲ立木火災保険ト曰フ。
又火災ノ為メニ営業所又ハ工場等ガ直接家ツタ損害ノ外ニ尚ホ其ノ
移轉、新築其ノ他種マノ事情ノタメニ営業上蒙リシ間接ノ損害ヲ填
補スルモノヲ営業利益ノ火災保険ト曰フ。 *Consequential*

loss insurance of insurance against loss
of profits by fire 火災保険ニ付テ注意スベキ事ガアル。凡
ソ財産ノ火災ニヨル損害ヲ填補スルモノハ火災保険ノミデナクテ他

ノ保険ノ中ニモ包含セラレテキルモノモアル、例ヘバ船舶及ヒ積荷ノ火災ニヨル損害ハ海上保険ニヨリテ、自動車ニツイテハ自動車保険ヲ以テ其ノ損害ヲ填補スルコトガアル、尚之ト同様ノ關係ハ他ノ種類ノ危険ニツイテモ存在スル事デアル。

(二) 運送保険、之ハ運送中ニ生ズル種々ノ事故ニ対シテ財貨ヲ保険スルモノデアル、之ヲ陸上運送保険ト海上運送保険トニ區別スル、海上運送保険ハ單ニ海上保険ト称シ、船舶及ヒ積荷ヲ海難ニ対シテ保険スルモノデアル。陸上運送保険ハ單ニ運送保険ト称シ陸上運送中ニ於ケル財貨ノ損害ヲ保険スルモノデアル。

(三) 農業保險 *Agriculture ins* 廣義ノ農業保險ハ農業ニ關係ノアル種々ノ保險ヲ總稱スルモノデアル、其ノ中デ農作物ヲ管害ニ対シテ保險スルヲ管害保險 *Harvest loss ins* ト云ヒ霜害ニ対スルモノヲ霜害保險 *Frost ins* 一般ニ收穫ノ減少ニ対スルモノヲ狹義ノ農業保險スハ收穫保險 *Harvest ins (Crop ins)* ト云ヒ

家畜ノ損害ヲ保險スルモノヲ家畜保險 *live-stock ins or*

Cattle ins) ト曰フ。

(四) ガラス保險 *Plate glass insurance* 之ハ商店ノ飾窓ナドニ用ヒラレル等高級ナ硝子ノ破損ニ対スルモノデアル。

(五) 汽鐘保險 *Steam Boiler ins* 之ハ蒸気機関ノ破裂或ハ圧潰ニヨリテ生ズル損害ニ対スルモノデアル、此ノ場合ニハ会社ハ常ニ技師ヲ派遣シテ其ノ損所ヲ修繕シ或ハ損害ヲ豫防スルコトヲ主トシテ務ムルモノデアルカラ保險ガ從テ、機関ノ検査ガ主デアル。

(六) 自動車保險 *Motor car insurance* 自動車又ハ自動自動車ノ破損、火災、盜難等ニヨル損害并ニソレヲ運載スルコトニヨリテ生ズル各種ノ責任、例ヘバ損害賠償ニ対スル保險デアル。

(七) 信用保險 *Fidelity ins* 之ハ使用人ガ竊取、詐取、横領ノ如キ不正行為ニヨリテ雇主ニ與ヘタル損害ヲ填補スルモノデアル、其ノ中ニハ雇主ガ保險契約ヲシテ使用人ノ不正行為ニヨル損害ニ備ヘ

ルモノモアル。此が我國ニ現ニ行ハレテ其ル所ノモノデアル。時トシテハ被使用人ガ保險契約ヲシテ身元保証人ヲ立テルコト。又ハ身元保証金ヲ收メル事ニ代用スルモノモアル。

(ハ) 債権保險 *Credit insurance* 之ハ債権ヲ 確實ニスルモノデアツテ得意先ニ対シテ信用取引ヲ爲シタ際ニ貸倒レニ付ル危険ニ備ヘルモノデアル。換言スレバ得意先ノ資力ヲ保險スルモノデア
ルカラ一名之ヲ得意先保險ト云フ。主トシテ外國貿易ニ利用サレル
ノデ近年英独ニ於テハ政府ガ之ヲ外國貿易發展策トシテ援助シテ
ル。

(九) 盜難保險 *Burglary ins*
再保險 *Re-insurance*
Reiche-versicherung 之ハ如何ナル種類ノ保險タルヲ問ハズ保
險者ガ被保險者ニ対シテ有スル保險金支拂ノ責任ヲ再ビ他ノ保險者
ニ保險ビシメルノデアル。火災保險 海上保險ノ如キニ於テハ保險
金額が大デ一保險者ガノノ全額ヲ引受ケルナラバ冒險ニ失スル恐ガ

アル。斯ル場合ニ其ノ責任ノ一部ヲ自ラ保有シ他ノ一部ヲ同業者タ
ル他ノ保險者ニ移スモノデアル。

第十一章 保險料

Premiums Insurance
Premium

經濟學上廣ク保險料ト称セラレルモノハ危險転嫁ノ対價又ハ危險負担
ノ対價デアアル。例ヘバ担保金貸付ガ七分デアルトキ無担保貸付ノ利率ハ
九分デアルトキ其ノ差二分ハ支払不敵ノ危險ニ対スル保險料ナリト云フ
ガ如シ。又因價ノ利子ガ五分デアルトシ社債ノ利子ガ八分デアルトキ其
ノ差ノ三分ハ或ハ担保力ノ大小其他種々ノ事情ガ關係スルケレドモ、又
支払不敵ノ危險ニ対スル保險料ノ分子モ又其ノ中ニ包含セラレ、モノデア
ル。斯ノ如キ事ハ種々ノ方面ニ之ヲ見ル。例ヘバ甲職業ノ賃金ガ乙職業
ニ比バテ高イノハ熟練其ノ他種々ノ事情モ關係スルコトデアアルガ、傷害
又ハ失業ノ危險ノ大ナル職業ノ賃銀ガ然ラザルモノニ比シテ高イ筈デア

茲ニ即チ保險料ノ分子ヲ包含シテ居ルガ、純利潤 *net profit* 即チ企業家
 ガ損失ノ危險ヲ侵シテ企業ヲ遂行スルニ對シテ報酬ハ全ク保險料デアル。
 然シ保險學ニ於テハ之ヨリモ狭イ意味ニ用ヒラレ、被保險者又ハ被保險者
 ノ地位ニ立ツモノケ保險ノ費用ニ充テル爲メニ保險契約上又ハ保險法律
 上ノ義務トシテ保險者ニ提供スル金額ヲ保險料ト云フ。即チ被保險者ハ
 自己ノ負担スベキ危險ヲ保險者ニ轉嫁スルノデアルカラ通常ノ危險ニ於
 テハ保險契約ニヨリ又法律上強制保險トナレルモノニアリテハソノ保險
 法ノ規定ニヨリ危險轉嫁ノ對價トシテ危險率ニ相当スル金額ヲ保險者ニ
 與ヘナケレバナラヌ、之ヲ保險者ノ側カラ云フナラバ保險者ハ一定ノ場
 合ニ保險給付ヲナス義務即チ危險ヲ負担スルガ故ニ其ノ對價トシテ相当
 ノ金額ヲ被保險者カラ受取ラネバナラヌ、此ノ如キモノガ保險學上ノ保
 險料デアル、換言スレバ保險料トハ保險ト稱スル手形ノ財貨ノ売買價格
 ナリ。ト見ルコトガ出來ル、保險料ヲ支出スルモノハ被保險者デアルノ
 ヲ原則トスルガ社會保險ニアリテハ其他ニ雇主ヤ政府ガ其ノ一部ヲ負担

スル事ガアル、之レ上ニ述ベタ定義ニ於テ被保險者又ハ被保險者ノ地位ニ
 立ツモノト云フタ所以デアル。

保險料ハ種々ノ見地カラ分類スルコトガ出來ル。

一、直接保險料ト間接保險料。

保險料ガ被保險者ヨリ更ニ他人ニ轉嫁セラレルコトヲ豫期セラル、
 マ否マニヨリテ此ノ區別ヲスル之レ宛モ租税ヲ直接税ト間接税トニ區
 別スルノト同ジ思想ニ基ク、直接保險料ハ普通ノ場合ニ於ケル生命保
 險ノ如クソノ納付者ガ實際之ヲ負担スル事ヲ豫期セラル、モノデアル
 之ニ及シテ海上保險(商品ノ)ノ保險料ノ如キハ商品ノ代價ノ中ニ加
 ヘラレ、從ツテ其ノ納付者ハ商人デアルガ第二次ノ負担者ハ其ノ商品
 ノ購買者デアリ、其ノ最後ノ負担者ハ一畝消費者トナルデアラウ、斯
 ノ如ク納付者ガ其、保險料ヲ一時タケ代ヘルニ外ナラヌ、結局之ヲ他
 人ニ転嫁スルコトノ豫期セラレテナルモノヲ間接保險料ト云フ、今之
 ヲ火災保險ニ付テ見レバ工場、倉庫、營業所等ノ保險料ハ生産費ノ中

ニ加ハラレ、貸家ノ保険料ハ家賃ノ中ニ加ハラレテ他人ニ転嫁セラレ
 ルベキモノデアルガ自己ノ財債又ハ住宅ノ保険料ハ自己ノ負担トナル
 斯ル事情ニヨリテ考ヘルト保険ハ大体ニ於テ之ヲ生産経済即チ実業経
 済ノ保険ト、消費経済即チ家庭経済ノ保険トニ區別スルコトガ出来ル
 其ノ前者ノ利用者ハ主トシテ実業家デアツテ其ノ保険料ハ營業費又ハ
 生産費ノ一部トナツテ他人ニ転嫁セラレル、其ノ後者ノ利用者ハ一畝
 世人デ其ノ保険料ハ家庭経済ノ中ノ一ノ支出項目トナリテ自己ノ負担
 トナリ終ルノデアル。

保険料ノ實際ノ負担者ガ何人デアルカノ問題ハ普通ノ保険ニ付テハ
 明白ナ事案トシテ殆ンド論争セラレルコトハナイガ、社会保険或ハ勞
 働保険ニ於テ政府ト雇主ト労働者トノ負担スル部分ガ結局何人ノ負担
 ニ歸スルカニ付テハ社会問題ノ研究者ノ中ニ論争ガアル、思フニ労働
 者ノ負担ハ賃銀ノ一部トナリテ雇主ノ負担ニ歸スルノデアル、雇主ノ
 負担ハ生産費ノ一部トナリテ消費者ニ歸スルデアラウ。政府ノ負担ハ

租税等ノ形式ニ於テ国民一畝ノ負担ニ歸スルデアラウ、要スルニ労働
 保険ノ費用ハ一畝国民ノ負担トナリ之ニ依リテ社会連帯ノ思想ガ具體
 化セラレルモノト思フ。但シ此ノ保険制度アルガタメニ労働能率ガ増
 進スルデアラウ。然ラバ之ニヨリテ生スル利益ハ其ノ保険ノ費用ヲ相
 殺スルニ足り從ツテ結局何人ノ負担ニ歸セストモ考ハラレル。

ニ、等級保険料ト均一保険料

保険料ハ危険ノ率ニ應ジテ等級ヲ設ケテ課スルノヲ常トスル、之ヲ
 等級保険料ト云フ、例ハ火災保険ニ於テ石造ノ家ト木造ノ家トハ料
 率ヲ異ニシ生命保険ニ於テ年齢ニヨリテ之ヲ異ニスルガ如シ、然レド
 時トシテハ危険率ニ拘ラズ均一ノ保険料 *Uniform premium* 均一ノ
 保険料ヲトルノヲ便利トスルノガアル、例ハバー工場ニ屬スル労働者
 全体ヲ強制的ニ共済組合ニ加入セシメテ疾病保険ヲ行フ場合ノ如シ、
 疾病ノ率ハ年齢ニヨリテ異ルコト統計ノ示ス所デアルガ此ノ場合ニハ
 道徳上ハスハ国家的強制保険ニ於テ社会政策ノ一手段トシテ行フガ如

キ場合ニハ政治上ノ理由ニ基キテ斯ル方法ヲ取ラレタノチアル、從
ツテ其ノ負担ガ公平ナリヤ否ヤハ照視セラレタノチアル、尚此ノ方法
ハ手續ノ簡易ト云フ点ニ於テ一ツ長所ヲ有ス、又ソレガ強固保險デア
ル場合ニハ長年月ノ中ニハ自然ニ負担ノ公平ケ得ラレル結果トナル、
此ノ点ニ関シテハ若シ任意保險ノ方法ヲトレナラバ後ニ速ムル又對送
扱ガ行ハレルガ故ニ実行不能トナルコトヲ注意シナケレバナラヌ。

三、前納保險料ト後納保險

保險料ヲ納ルル時期ニヨリテ之ヲ區別スル、前納保險料トハ事故ノ
生ジナイ中ニ豫メ保險料ヲ納メルモノヲ云フ、之今日一般ニ採用セラ
レル所ノモノデアル、然レテ事故が生ジク後ニ其ノ保險金支払ノタメ必
要トスル金額ヲ其ノ団体員ニ割當テ、徴収スルコトガナキニ非ズ、之
ヲ後納保險料ト云フ、彼ノ賦課式保險料 *assessment insurance*
ト稱セラレルモノ、中ニハ其ノ保險料ノ賦課方法ガ種々アルガ後納式
ノ方法ヲ取ラレル事ガ寧ろ多イ。保險料ノ歴史ヲ廻リテ見ルニ其ノ基

礎タル統計ノ不備之テ又學理モ奔達セズ、其ノ代リ相互救済ノ思想ノ
強カリシ時代ニ於テハ彼ノ *guild* ノ非営利事業ニ於テ見タルガ如キ生
命保險、火災保險等ケ後納保險料ノ方法ニヨリテ主トシテ行ハレテキ
々、然シ海上保險ノ如ク純然タル營業トシテ行ハレシモノニアリテハ
当然ノ結果トシテ前納保險料ノ方法ガ取ラレテキタ、然シ今日ノ如ク
學理モ進歩シ統計モ完備シ、廣ク一般世人ヲ相手トスルニ及ンデハ前
納保險料ノ方法ニヨリ殊ニ受員方法ニヨリテ行ハル、單トナシテキル。

(四) 定額保險料ト不定額保險料

此レハ前ニ受員式保險及ビ相互式保險ニ付イテ參照セヨ。

(五) 自然保險料ト平準保險料 *level premium*

危險ニハ動的危險ト不動的危險トガアル、例ハ此ノ建物ガ火災ニ
罹ル危險ノ如キハ年々其ノ豫定危險率ニ差異ナキガ故ニ之ヲ不動的危
險ト稱スルコトガ出スル、之ニ反シテ人ノ死亡率、疾病率ノ如キハ年
齡ノ進ムニツレテ豫定危險料ハ変動スルカラ之ヲ動的危險率ト云フ。

例、バカノ如キモノガアル。

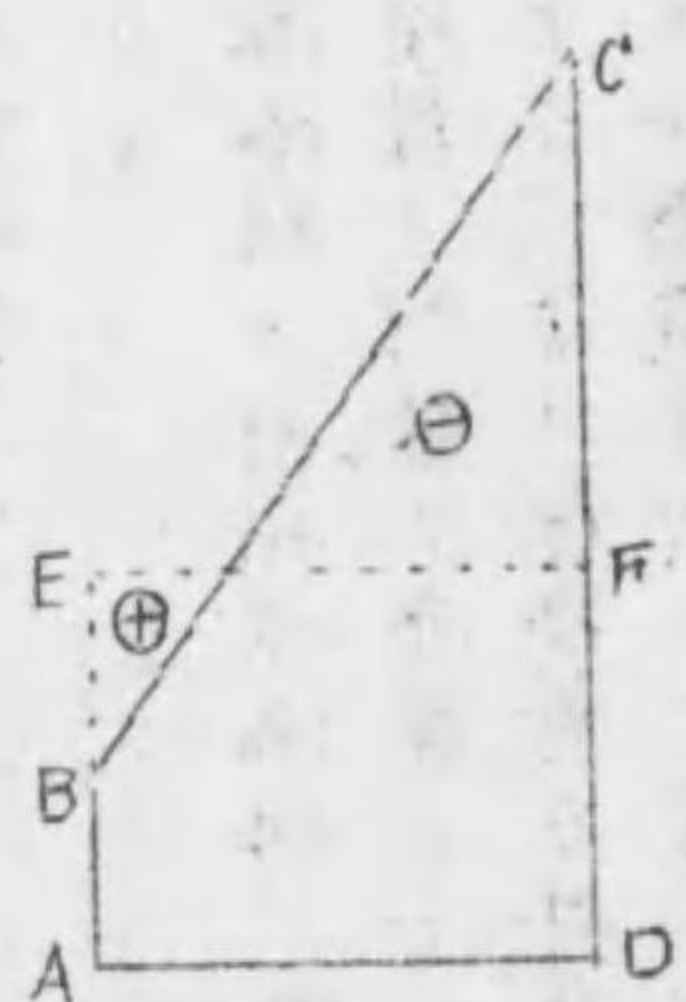
日本三会社表	死亡率
三〇	〇・〇〇七一八
五〇	〇・〇二〇二八
七〇	〇・〇八二八三
九〇	〇・三八九八三

疾病率(英国労働者)	疾病回数
二〇	六・三〇七
三〇	七・〇四九
四〇	一〇・四三
五〇	一六・六八八



不動的危険ニ対スル保険料ハ常ニ同額ヲ課スルモノデアル、之具ノ性頓上当然ノ事デアル、然ルニ動的危険ニ対スル保険料ノ定メ方ニハニツノ方法ガアル、一ツハ自然保険料ノ方法ニテ或ル危険ノ増減ニ應ジテ年々其ノ保険料ノ額ヲ異ニスルモノデアル、其ノ次ニハ平準保険料ニ於テ長期ニ於ケル保険料ノ額ノ平均ヲ求メテ毎年之ヲ徴收シ之ニ

ヨリテ年々ノ保険料ノ過剩又ハ不足ヲ長期ニワクリテ平均セシメル方法デアレ、図ヲ以テ示セバ左ノ如シ。



□ABCD = 自然保険料

□AEFD = 平均保険

△BEO = OCF

此ノ場合ニハ契約ノ初期ニ於テ剰余金ヲ生ズル、之ハ被保険者ノ叔利トシテ(即テ保険者ノ債務トシテ)保険会社ニ担保セラレ、之レ後述ノ保険料積立金デアル。

英国十七会社表 32歳 保険金1000円			
保険年数	標準保険料	自然保険料	差引
1年目	18.04円	8.41	+9.63円
2年目	...	8.58	+9.46
30年目	...	31.36	-13.32

2000p. } 純保険料 (Net p.)

附加保険料 (Loading p.)

(六) 純保険料ト附加保険料
 保険料ノ内容ヲ分拆スルトニツノ要素ニ分レル。其ノ一ツハ純保
 料デアル。之ハ、保険者ガ引受ケル危険ニ対シテ保険金ヲ支払ノ為メニ
 必要ナル金額ヲ云フ。即チ保険ノ償償デアツテ純然タル危険負担ノ対
 償デアル。他ノ一部ハ附加保険料デアル。之ハ、保険事業ヲ営ム為メニ
 純保険料ヲ附加シテ必要トスル金額デアル。例ハ、事務所ノ費用、代
 理店ノ手数料、租税、営業費等ニ当テタルモノデアル。廣義ニ於ケル

営業費デアル。被保険者ノ負担スル保険料ハ此ノ二者ヲ併セタモノデ
 之ヲ總保険料又ハ営業保険料 (Commercial p.) 又ハ表定保険料
 (Tariff p.) ト称ス。單ニ保険料ト称スル時ハ總保険料又ハ純保
 料ヲ指スモノニシテ其ノ就レヲ指スカハ前後ノ關係ニヨリテ判断スル
 事ヲ得。生命保険ノ如ク学理ノ進歩セルモノニアリテハ先ヅ純保険料
 ヲ計算シ之ニ適當ノ公式ニヨリテ多少ノ附加保険料ヲ加ヘ以テ總保
 料ヲ計算スルモノデアル。然レド海上火災等ニアリテハ只概括的ニ大
 体ヲ見積リテ直チニ總保険決定セラレテヤルノガ現状ナリ。

第十一章 選擇 Selection

経済活動が経済主義ニヨリテ支配セラレルモノトスレバ被保険者ハ成
 可ク少ナイ保険料ニヨリテ成可ク多クノ保険給付ヲ得ント欲スルハ当然
 デアル。即チ被保険者ハ自分ニトリテ最モ有利ナル條件ノ保険ヲ選択ス

ル、故ニ若シ任意保険制度ニ於テ均一保険料ノ方法ヲトルナラバ危険率ノ大ナルモノ即チ *Bad risk* 多ク此ノ保険ヲ利用スルコトニナリ保險者ノ財政上ノ基礎ヲ危クスルニ至ルハ明白デアル。故ニ危険率ニ應シテ等級ヲ設ケテ之ニ應ズル保険料ヲ取ルコトガ必要デアルケレトモ此場合ニモ尚ホ同様ノ現象ヲ見ル、即チ等級ヲ設ケルトハ云フモノ、其ノ等級タルマ無数ニアルニ非ズシテ只若干ノ階級ヲ定メルモノニ適ギズ、從ツテ同ジ等級ニ屬スル *Risk* ノ中ニモ尚其ノ間ニ多少ハ *Risk* 率ノ差異ガアル、例ヘバ三〇歳ノ男子ノ死亡率ガ何程ト云ヘバソレハ多數ノ人ノ平均ヲ見タノデアツテ其ノ中ニハ強イモノアリ、弱イモノアリ、頻死者モアル、故ニ若シ被保險者ノ自由ニ放任セバ *Bad Risk* ハ其ノ保險ヲ特ニ多ク利用スルコトニナル、即チ被保險者ハ自己ノ為メニ最モ有效ナ種類又ハ條件ノ保險ヲ選択スル、之ヲ自己選択 *Self-selection* ト云フ此ノ被保險者ノナス選択ハ保險者ノ為メニハ不利ニナルモノデアルカラ之ヲ反対選択又ハ逆選ト云フコトモアル。(Anti-Self-selection)

反対選択ノ例ヲ生命保険ニ付イテ見レバ生存保険ト死亡保険トニッリテ死亡率ヲ異ニスル、之レ自分ゲ自分ノ自體ノ強弱ヲ判断スルニヨリテ生ズルモノデアル、生命年金保有者ハ概シテ長命ナルヲ常トスル。

左表ヲ見ヨ。

年齢	A F 表(死亡保険) 一八九五年	R F 表(年金保険) 一八九五年
五〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
七〇	六二八、七二七	六四八、八二五
九〇	三一、二九九	三八、九一九
九〇	八、八四一	二〇、七九一

A ハ保險ノ意
F ハ France

保險者ハ自衛ノ為メニ *Bad-Risk* ヲ排斥シ、成別ク *good-Risk* ヲ得ントシテ選択ヲ行フ、即チ保險者モ又自分ノ利益ノ為メニ *Risk* ノ選択ヲスル、斯ノ如ク保險者ノ為メニ選択ヲ單ニ選択ト云フ、其ノ一例ヲ生命保険ニ付テ云ヘバ國民表ト經驗表トヲ比較スレバ經驗表ガヨキ死亡率ヲ表ハシテキル、即チ死亡率ガ低イノデアル。(左表ヲ見ヨ)

Population Table - 国民表
Experience Table - 経験表

年齢	A F表(死亡保険)	国民表(一九〇三) (一九〇一-一九〇三) (至ル材料)
〇	一〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇
五〇	六二八・七二七	五三八・一八〇
七〇	三一二・二九九	二七四・六五〇
八〇	一〇七・三五四	八七・七四〇

又例へバ送扱表 Select Table ヲ見ル時ハ保険契約者ニ付テ身体検査ノ後数年間ハ死亡率ガ甚ダ少ナイ。此レ身体検査ノ影響ヲ示スモノデ保険者ノ爲メ送扱ノ一例デアル。(左表ヲ見ヨ)

契約後ノ経過年数	二〇歳ノ人ニ付テ見ル	五ノ人ニ付テ見ル
〇	〇	〇
一	〇	〇
二	〇	〇
三	〇	〇
四	〇	〇
五	〇	〇
六	〇	〇
七	〇	〇
八	〇	〇
九	〇	〇

(死亡率ノ基礎トナルモノ故重要ナルモノデアル)

反対送扱ニ付テハ身体検査ヲ行ヒテ弱体者ヲ除キ、又火災保険ニアリテハ目的物ノ調査ヲ慎重ニシテ適当ノ料率ヲ定ムルノミナラズ餘リ危険率ノ高イモノニ対シテハ契約ヲ拒絶スルコトサヘアル。又例へハ生命保険ニ於テハ反対送扱ノアル事ヲ豫想シテ之ニ應ズル保険料ヲ取ル率ガアル。我ガ簡

易生命保険ハ身体検査ヲナサザルガタメ我カ国民表ニニ割ダケ死亡率ヲ
 増加シテキル。又保険者ハ生存保険ト死亡保険トニ於テ異ナル生命表（
 死亡表）ヲ採用スルコトモアル。我カ保険会社ニ於テモ此ノ方法ニヨル
 モノガ小ナクナイ。或ハ一死ノ待期（Waiting Time）又負担割合ヲ
 誤ケテ其ノ期間ハ保険金ヲ支拂ハザルカ又ハ保険金ヲ削減スル事ガアル
 我簡易生命保険ハ契約後一年内ノ死亡ニ対シテハ拂込マレタ保険料ダケ
 ヲ拂戻シ、一年乃至二年ノ死亡ニハ保険金ノ半額ヲ支払ヒ、滿二年ヲ過
 ギタル後ノ死亡ニ対シテハ金額ヲ支払フコト、定メテキル。但シ不昧ハ
 災厄又ハ傳染病ニヨル死亡ハ及対送戻ト関係ナヤガ故ニソレニ対シテハ
 任意ノ制限ヲ設ケナイ。又我郵便年金ニ於テハ男子ノ年金権者ニ対スル
 掛金（保険金）ハ内閣統計局第二表ノ男子表ヨリニ割ダケ死亡率ヲ減ジ
 女子ニ対シテハ同ジク女子表ヨリ死亡率ヲ三割ダケ減少シテキル。
 及対送戻ハ解約ノ場合ニモ之ヲ見ルト唱ヘル人ガアル。即テ弱者ハ好
 シテ保険ヲ継続スルガ強者ハ其ノ必要ヲ見ザルガ故ニ多ク解約スル傾向

アリト云フノデアル。之ヲ他ノ方面ヨリ見レバ被保険者ヲ以テ組織セラ
 ル、一ツノ危険団體ガ死亡ニ対スル抵抗力ヲ弱メルコトニナル。即チ抗
 死力が減退スルト云フノデアル。但シ此ノ問題ハ常識的ニ推測スル事ガ
 出来ルガ統計上ノ立証ハ未ダナイ。

以上ハ任意保険ニ付テ速ヘタ、強制保険ニアリテハ及対送戻ノ行ハレ
 必範圍ガ極メテ少ナイカ又ハ絶無デアル。從ツテ保険者ニ於テモ送戻ヲ
 行フ必要ガ少ナキカ又ハ絶無デアル。送戻及ビ及対送戻ニ関スル実証的
 又ハ統計的研究ハ生命保険ニ関シテ多ク行ハレテキルカラ以上ノ説明ニ
 於テモ主トシテ此ノ方面カラ材料ヲ取ツタ。他種ノ保険ニ付テモ同様ノ
 事情ガアルベキ事ハ推測スルニ難カラズト金モ未ダ充分ナル統計的研究
 ニ乏シイ。

健康保険法十四條及二十二條ニ多少ノ制限的ナ規定ノアルノハ及対
 送戻ヲサケル為メデアルト云フ。

十四條 任意契約

第十三章 保險ノ效果

經濟生活ヲ不安ナラシメル種々ノ危険ニ対シテハ豫防又ハ鎮圧ノ方法ニヨリテ損害ヲ減少シナケレバナラヌ、又既ニ生シタル損害ハ貯蓄又ハ保險ノ方法ニヨリテ之ヲ補充スル事ガ必要デアル、保險ハ危険ノ転嫁又ハ分担ノ方法ニヨリテ經濟生活ヲ安定セシメル效果ノアル事ハ云フヲ待タナイ、斯ノ如キ根本的ナ效果ノ外ニ尚次ニ述ヘル如キ附隨的ナ效果ガアル、而シテ保險ノ種類ニヨリテハ此ノ第二次的ナ效果ノ方ガ寧口主トセラレル事サヘアル。

一、財貨ノ担保力ヲ創造又ハ増加シ以テ金融ノ便ヲ得セシメルコト、例ヘバ火災保險ノナイ建物又ハ海上保險ノナイ船舶ヲ担保トシテ貸付ケヲナスガ如キハ甚ダ不安デアルカラ、保險付ノ物ニ限リ之ヲ担保トス

ルコトガ一般ニ行ハレテキル、日本勸業銀行法、及び農工銀行法、如キハ此ノ事ヲ明記シテキル。此ノ如キ事情ニ基付キテ地方ニ於テハ銀行ガ火災保險、海上保險ノ代理店ヲ兼ねテキルコトガ屢マアル、現ニ我政府ガ森林火災保險事業ニ付テ調査シテキルガ、夫レハ一方ニハ林業ノ発達ヲ望ムト同時ニ他方ニハ林業金融ノ便ヲ計ル為デアル。

二、金融市場ニ大ナル資本ヲ供給スルコト、保險者ハ多クノ契約者カラ比較的少額ゾツノ保険料集メテ来ルカラ其ノ保險者ノ有スル資産ハ大キイモノニナル、殊ニ生命保險ノ如キ長期契約ニ於テハ責任準備金ノ關係カラ巨額ノ資金ガ貯ヘラレル、之ヲ金融市場ニ投スル事恰モ銀行ニ同ジ、斯ノ如ク資本トシテ價值ノナイ金ヲ集メテ大ナル資本ヲ構成シ之ニヨリテ經濟界ノ発達ニ貢獻スルノデアアル。

三、各種ノ事業ヲ起サシメル事、前述ノ投資ニヨリテ事業ノ発達ヲ助ケル以外ニ保險ハ各種ノ事業ヲ確実ナル基礎ノ上ニ立タシメ企業ニ伴フ危険ヲ軽減スルコトニヨリテ各種ノ事業ヲ起サシメルモノデアアル、例

ハバ海上保険ノ如キモノガ海運及ビ貿易ト相並ンデ發達シタルガ如キ
 ハ此ノ關係ヲ示スモノデアル。保險アルニヨリテ貿易ガ安全ニ行ハレ
 得タノデアル。之ニ反シテ例ハバ戰時ニ於ケル戰爭危險ノ保險ガナイ
 場合ニ通商航海ガ杜絶スル事ハ近年ニ於テモ其ノ例ヲ見タノデアル。
 之レ歐洲大戦中ニ於テ各國ノ政府ガ食糧品、原料品、軍需品ノ供給ヲ
 確實ニスルタメニ戰時海上保險ヲ營ミタル所以デアツテ、又大戦ニ先
 ダツ數年前ニ英國ノ内務會議ニ於テ上述ノ目的ヲ以テスル戰時海上保
 險ノ必要ヲ調査スルニ至ツタ所以デアアル。又例ハバ牧畜業、森林業ヲ
 起スガ為メニ家畜保險、森林火災保險ガ必要デアアル。之レ現ニ我政府
 ガ此調査ヲシテキル所以デアアル。

四、事故ノ豫防スハ、鑛庄ヲ助ケル事、保險ハ元来損害ノ生シタル結果ニ
 対スル設備デアツテ消極的効果ヲ有スルモノデアアルケレドモ保險者ハ
 損害ノ減少ニ利害ヲ有スルガ故ニ其ノ豫防的即テ積極的方面ニモ力ヲ
 ソンブモノデアアル。例ハバ生命保險会社ガ契約者ノ為メニ病院ヲ設ク

ルガ如キ *Steam Boilers* ノ保險ニアリテハ技師ヲ派遣シテ被保險物
 ヲ觀察セシメ修繕、検査等ヲ行フガ如キ、又火災保險ニツイテ契約者
 ニ防火設備ノ注意ヲ喚ヘルガ如キ或ハ、健康保險法ニ二三條ノ保險者
 ガ被保險者ノ健康保全ノ為メ必要ナル施設ヲナスガ如キ、或ハ労働者
 ノ災害保險ニツレテ安全第一運動ガ盛ンニ起リシガ如キハ其ノ例デア
 ル。

五、社会問題ノ解決ヲ助ケル事、社会問題ノ根柢ニハ經濟問題ガ横ハツ
 テキル、其ノ安定ヲ得ル事、社会問題解決ノ根本策デアアルカラ各國ニ
 於テハ盛ンニ労働保險、社会保険ヲ行フキル。

第十四章 人為的危險 (道德的)

Moral Risk

保險ハ被保險者ヲシテ被保險物ニ対スル注意ヲ怠ラシメ却ツテ事故ノ
 發生ヲ増加セシメル恐れガアル。例ハバ火災保險ノ被保險者ガ警火スハ

鐘火ノ注意ヲ怠リ或ハ失火ノ時ニ家財ノ運出等ヲ怠ルガ如キ或ハ盜難保
 險ノ被保險者ガ盜難豫防ノ注意ヲ怠ルガ如キ之デアル。更ニ進ンデ保險
 ガ犯罪ノ誘因トナル事スラアル。最モ多キハ詐欺ナリ例ヘバ生命保險ノ
 申込者ガ他人ヲ身体検査ニ代用シ。又ハ既往症ヲ隠蔽スルガ如キ。或ハ
 失火保險ノ被保險者ガ被害高ヲ過大ニ報告スルガ如キ。或ハ疾病保險ニ
 付イテ癩病ヲ装フガ如キ之ナリ。詐欺以外ニ於テモ或ハ保險ヲ乱用シテ
 賭博ヲ行フ事モアリ。或ハ保險金ヲ得ル為メニ放火又ハ殺人ヲ行フ者モ
 生ズルノデアル。

保險業ヲ営ムニ當リテハ危險率ヲ測定スルヲ要ス。其ノ危險ノ中ニハ
 自然的ノ原因ニヨルモノト人為的原因ニヨルモノトノ區別ガアル。前者
 ヲ自然的又ハ有形的又ハ客觀的又ハ實體的危險トイフ。即チ *Physical*
Risk ト稱シ。後者ヲ無形的・道徳的・主觀的又ハ人為的危險 *Moral*
Risk ト稱ス。 *Moral Risk* ノ範圍ハ明カニ説明シテキル人ハナイ。
 例ヘバ反対送扱ヲ此ノ中ニ含マシメルカ。或ハ犯罪ニ至ラザル程度ノ怠

慢等ヲ指スモノデアルカ。或ハ保險犯罪ヲモ包含セシメルノデアルカハ
 明ラカデナイ。

其ノ危險ノ發生ガ主トシテ自然力ニヨルモノ例ヘバ農業保險ノ如キニ
 付テハ比較的ニ實體的危險ト人為的危險トヲ區別スル事ガ容易デアルガ
 信用保險ノ如キハ其ノ危險ノ發生ガ專ラ人為ニヨルノデアツテ實體的危
 險ナルモノヲ殆ンド認メ得ナイノデアル。要スルニ *moral Risk* ト云
 フ凶類ガ保險業ノ経営ニ注意ヲ要スルモノデアル事ハ明ラカデアルガ其
 ノ範圍ヲ決定スル事ハ困難デアル。

保險者ハ人為的危險ニ具ヘルタメニ種々ノ注意ヲ加ヘル。例ヘバ身体
 検査又ハ危險規定ヲ嚴重ニ行ヒテ詐欺ヲ防グガ如キ。或ハ其ノ保險業ト
 關係深イ他ノ機関ト連絡ヲ取ルコトモアル。例ヘバ疾病保險ニ付テハ医
 者ノ診断表ヲ要シ。失業保險ニ就テ職業紹介所ト連絡シ。信用保險ニ就
 テ與信所ノ如キ之デアル。又生命保險ノ如ク損害額ヲ測定シ得ナイモノ
 ニアリテハ過大ナル保險金ノ契約ヲサケルガ如キモノノ注意事項デアル。

人為的危險ヲ防クタメニ法律上採用セラレテアル事實カ種々アル。私
 法關係ニ付テ云ヘハ民法九〇條、九六條ノ外ニ損害保險ニアリテハ保險
 險利益ノナイ契約ヲ禁止シ（商法三八五條）他人ノ死亡ニヨリテ保險益
 ヲ支拂フヘキ生命保險契約ニハ此ノ人ノ同意ヲ要スル（商法四二八條）
 損害保險ニアリテハ超過保險ノ超過部分ヲ無効トシ（商法三八六條）、
 保險契約ヲ最善意ノ契約トナシテ被保險者ニ告知義務ヲ負ハシメル（商
 法三九九條ノ二及四二九條）、一定ノ場合ニハ保險者ヲシテ契約ノ解除
 ヲ為スヲ得シメ（商法四一一條）自殺又ハ殺人ノ場合ニハ保險金ヲ支拂
 ハサルモノト為ス（商法四三一條）此ノ如キ種々ノ規定カアル、但シ之
 等ノ中ニハ任意規定ト強制規定トカアルコトヲ注意スヘシ、幼兒ノ死亡
 保險ハ嬰兒殺 *Infanticide* ヲ誘フ恐アリト考ヘテ年齢又ハ年額ニ制
 限ヲ加ヘテ立法例カアル、金額ノ制限ハ葬式費用ヲ限度トシタモノト考
 ヘラレル、但シ養育費用ヲ考慮シテ其填補ヲ得シメントスル立法例モア
 ルモノ、如シ。

次ニ刑法上ノ關係ヲ見ルニ詐欺、賭博、殺人、放火等ノ如キ一般ニ公
 安ヲ害スル犯罪ニ内シテハ刑罰ヲ課シテキルガ、殊ニ刑法一一五條ニハ
 保險犯罪ニ付キ刑ヲ重クスル一規定ガアル。

第十五章 私營保險業ノ監督

經濟活動ニ関スル國家ノ無能カ又ハ不干渉ヲ主張シタル自由放任主義
 ハ既ニ歴史的事實ニ屬シ、今日ニ於テハ國家ハ公共ノ利益ヲ保全スルニ
 ハ種々ノ經濟活動ニ干渉シテ居ル、更ニ進ンデハ國家自ラ經濟的事業ヲ
 行フコトヲヘモ正當トセラレテ居ル。故ニ例ヘバ電氣事業、取引所、鉄
 道業等ノ如ク公共的性質ノ濃イモノニツイテハ最も嚴重ナ監督ガ加ヘラ
 レテ居ル。保險事業ニツイテモ同様ヲ管ツテハ一般ニ自由放任ノ政策ガ
 トラレテキタガ、今日ノ文明國ハ殆ンド例外ナク私營保險業ノ監督法ヲ
 設ケテ多少ノ程度ニ於テ監督ヲ加ヘテ居ル。此レ保險業ガ大イニ公共的

性質ヲ有シ、若シ事業者が其経営ヲ誤マルナラバ甚シイ害毒ヲ社会ニ流
スカラデアル。

一〇八
保險事業ノ監督方法ニ就イテモ一般商事会社ニ對スル場合ト同ジク、
形式主義ト實質主義トガアル。形式主義ノ監督方法ニ二種アル。(一) 公
示主義デアル。國家ガ保險業者ニ對シテ一定ノ時期ニ其事業ノ状態ヲ報
告セシメ、此レニ依リテ利害關係者ヲシテ自ラノ事業ノ成績ヲ判断ス
ルニ便宜ヲ与ヘルニ止マルモノニシテ英國ハ今尙此ノ方法ヲトツテキル
(二) 準則主義デアツテ事業ノ開始ニ付イテ事業者ノ守ルベキ一定ノ條件
ヲ定メ、其條件ヲ充シテ居ルモノハ自由ニ事業ヲ営ミ得バク、又事業開
始後ハ公示主義ニヨルモノデアル。形式主義ノ根本思想ハ保險業ノ監督
者ハ國家ニ非ズシテ利害關係人デアル。國家ハ唯報告書ノ呈出ナドノ方
法ニヨリテ事業ノ状態ヲ公表セシメ利害關係人ニ自ラ監督スル便宜ヲ与
フヲ以ツテ足ル。トイフ自由主義ノ思想デアル。サレド被保險者並ラビ
ニ一般ノ利害關係人ハカ、ル知識及ビ餘暇ヲ有スルモノニ非ザルヲ以テ

實際其目的ヲ達シ得ザルコトハ勿論デアル。故ニ現在ノ多数ノ國ハ實質
主義ノ監督ヲ加ヘ公益ノタメニ勉メテ居ル。實質主義トハ國家カ事業ノ
開始並ビニ經營ニ就イテ、其内容ニマデ立チ入りテ監督ヲ加ヘルモノデ
アル。即チ事業ノ開始ニ當リテハ先ヅ免許ヲ受ケシメ、又事業經營ノ向
ニモ種々ノ制限ヲ加ヘ必要アラバ事業ノ廢止ヤヘモ命ジ得ル。

我國ニ於テハ今ヨリ五十年前(東京海上、明治十二年、明治生命、
四十四年)ニ保險会社ガ初メテ設ケラレルマ、会社ニ關スル規則モ保險
業ニ關スル規則モ未ダ存在セズ。當時会社設立ニ關シ認可權ヲ有セル地
方長官ハ此ノ設立願ニ對シ「人民ノ相對ニ任セ候事」ト指令ヲ与ヘタノ
デアツテ自ラ自由放任ノ政策ガ取ラレテ居タ。其後次第ニ程々ノ法令ガ
定メラレタガ遂ニ三十三年ノ法律六九号保險業法及ビ農商務省令一五号
保險業法施行規則ガ定メラレルニ及ンデ實質主義ノ監督ガ加ヘラルハコ
ト、ナリ、從來ノ弊害ヲ一掃スルコトヲ得タ。後明治四十五年保險業法
ガ改正セラレ從ツテソノ施行規則モ大正元年ニ改正セラレ以テ今日ニ及

一。一。
シテ居ル。我業法ハ凡テノ種類ノ保険業ニ実質的監督ヲ加ヘテ居ル。一
業法一條、九條、一ナレド是果シテ必要ナリヤ否ヤ。凡ソ私營保險ヲ監
督スルノハ被保險者ガ自ラ保險会社ノ事務ヲ監督スルノ餘暇ト能クキ
ガ故ニ政府ガ代リテ此レヲ行フノデアアル。然ルニ海上保險ノ如キハ被保
險者ガ概シテ經濟事情ニ通ジテ居ルモノデアリ、契約モ一般ニ短期デア
ル、火災保險ノ如キハ保險会社ハ相互間ニナスモノデアアル。故ニ是等ノ
事情ニ対シテ政府ノ監督ガアマリ必要デハナイ。サレド生命保險ノ如キ
ハ經濟的事情ニ通ゼサル一般人ヲ相手トスルノミナラズ契約長期ニ互リ
且多額ノ準備金ヲ蓄積セラレルノデアアル。此レニ対シテハ政府ハ嚴重ナ
ル監督ヲ行ヒテ被保險者ノ利益ヲ保護スル必要ガアル。此レ佛國ノ如ク
生命 險会社ノミニ監督スル所以デアアル。

我保險業法ノ大意左ノ如シ。

ル。政府ノ免許(一條、五乃至八條、九七條)

凡テノ保險業ハ政府ノ免許ヲ要ス、保險会社ノ發起人が免許ヲ申請ス

ルニハ一定ノ書類ヲ提出スルヲ要ス。免許ナクシテ營業ヲ爲ス者ハ罰金
ニ處セラレ。此ノ如ク免許ヲ必要トスルノハ会社ノ濫設ヲ防ギ、事業ノ
基礎ヲ確實ナラシムルモノデアアル

長。保險者ノ資格(二)

保險者ハ株式会社又ハ相互会社ニ非レバ營業ヲ爲スヲ得ズ、向題トナ
ルハ共済組合デアアル。一定ノ範圍内ニ於ケル人々が互助的の事業ヲ行フコ
トハ一般ニ対スル公衆的の事業トハ異ルトイフ理由デソノ存在ガ承認セラ
レテ居ル。独乙ノ保險業法ニハ相互組合ニ大組織ノモノト小組織ノモノ
トヲ認メ、前者ハ我國ノ相互会社ニ相当シ後者ハ特定ノ範圍ニ限ラレタ
ル組合ヲ指スノデ我國ノ共済組合ニ相当シ、之レニ對シテハ簡單ナル手
続ニヨリテ組織スルコトヲ認メラキル。佛國ニハ特別法アリテ相互組織
ノ小組合ガ簡單ニ作リ得ラレルノミナラズ、或ル種ノモノニハ補助金ヲ
次附スルガ如キ獎勵法ナヘモアル。英國ニハ業法ノ外ニ共済組合法アリ
テ、其組織及監督ヲ規定シテキル。

C. 資本金 (一六、二八)

会社ノ財政上ノ基礎ヲ鞏固ニスルガ爲メ株式会社、資本及び相互会社ノ基金八十萬円以上ヲ必要トス。但シ政府ハ内規ヲ以ツテ更ニ高イ制限ヲ定メテキル。問題トナルノハ保險ノ種類ニヨリテ資本金ニ區別スル必要アリヤ否デアアル。例ヘバ統計材料ガ完備シヌソノ取扱フ金額モ餘リ多額ニ上ラナイ契約(生命保險)ニアリテハ少キ資本ヲ以テ定ルノデアアル又統計的基礎ハ弱イニセヨ保險金額ノ小サイモノ(硝子、自動車保險)ニツキテモ同様ナラン。之ニ反シテ危險率モ正確ニ計ラレズ、又保險金モ多額ニ上ルモノニ在リテハ(海上、火災保險)多額ノ資本金ヲ担保資金融トシテ必要トスルモノトイハナケレバナラス。故ニ *New York* 州ノ業法ノ如キハ火災及び海上ノ会社ノ資金融ハ他ヨリモ多額ヲ必要トシテ居ル。次ニ問題トアルハ保險者ノ組織ニ志シテ資本金ニ區別ヲナス必要ナキヤ否デアアル。株式会社ハ營利ヲ目的トシ廣イ範圍ニ互リテ事業ヲ営ムモノナル故多クノ資本金ヲ必要トスルナラン。サレドモ相互会社持

ニ小規模ノモノニアリテハ小額ヲ以ツテ足レノデアアル。故ニ佛國ニ於テハ株式会社ト相互会社トヲ此ノ点ニツイテ區別シテキル。

d. 供託金 (四條ノ二)

保險会社が免許ヲ申請シタルトキ政府ハ必要ト認ムレバ相当ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得ル。元來保險業ハ多クノ資金融ヲ要シナイ。従テソノ資本金ハ担保資金融タル性質ヲ有スルモノデアルカラ不誠実ナル企業家ガ確實ニ拂込ミヲ爲サズシテ会社ヲ濫設スル恐アリ故ニ政府ハ此ノ供託金ニヨリテ被保險者ノ利益ヲ保護スルト共ニ、其資本金ガ確實ニ拂込マレルコトヲ間接ニ強制シテキルモノデアアル。

e. 兼業ノ禁止 (三條)

保險会社が他ノ事業ヲ兼ネタルガ故ニソノ影響ヲ蒙リテ保險事業モ不確實トナリ、従テ被保險者ノ利益ヲ害スルニ至ルコトヲ恐レル。故ニ保險会社ハ他ノ事業ヲ兼ネ得ナイモノトセラレル。此レニ就キテハ種々ノ問題ガアル。第一ニハ他ノ事業ヲ営ムル株式会社が若シ政府ノ免許ヲ得

となラバ保險業ヲ兼スルヤ否ヤ。立法ノ精神ヨリ推シテ此レヲ否定シテ
 ケレバナラス。第二ノ問題ハ保險会社ガ其保險業ト密接ナル關係アリシ
 モ之レヲ兼ヘルニ依リテ保險業堅実ナルガ如キ業務ヲ兼ネ得ルヤ否ヤ。
 例ヘバ生命保險ガ病院ヲ兼営スルガ如キ、火災保險会社ガ防火設備ノ設
 計ヲ兼トスルガ如キ、海上保險会社ガ船舶検査又ハ海難救助業、被保
 險会社ガ被保ノ検査、修繕ヲ爲ス如キ場合ハ如何。法律ノ解釈トシテハ
 禁止セラルトモノト云ハナケレバナラス。然シ此レガ爲メ会社ノ財政ニ
 悪影響ヲ及ボスコトモナク、却ツテ本来ノ保險業ヲ確實ナラシムル利益
 アルモノト考ヘラル。尚本来ノ保險業トソノ取扱ガ類似セル事業例ヘバ
 生命保險ト銀行業又ハ信託業ノ如キモノヲ兼スルコトハ必ズシモ不適當
 デハナイト思フ。是等ノ点ニ關シテハ各国ノ法制区々ナルガ米國ノ如キ
 ハ可ナリ自由ヲ認メテキルモノ、ヨウデアアル。
 第三ノ問題ハ保險会社が財産利用ノ一方法トシテ金銭貸付業ヲ營ミ得
 ルマ否マ。保險業法施行規則一六條ニヨレバ保險会社ハソノ資金ヲ他人

ニ貸付ケ又ハ不動産ヲ取得スレコトヲ認メラレテキル。故ニ財産ノ利用
 方法トシテ是等ノ事業ヲ營ムコトハ保險事業ノ性質上並ビニ法令ノ規定
 上許ルサレシモノトイハナケレバナラス。Quotientノ業法ニハ会社ノ
 資産ノ利殖ヲ目的トスレ事業ノ外ハ一切他ノ事業ヲ營ミ得ザルモノト定
 メラレテキル。

第四ノ問題ハ保險会社が財産利用ノ一方法トシテ貸付業ヲ營ムニ當リ
 此レヲ一ツノ特別營業ト見テ營業稅ヲ課シ得ルマ否ヤ。嘗ツテ一稅務所
 ガ一会社ノ資産中ニ(貸借対照表)貸付金ノ項目ガアルモノヲ理由トシ
 テ同社ハ保險ノ外ニ金銭貸付業ヲ兼ネテ居ルモノト考ヘ、ソノ貸付金額
 ヲ運轉資本トシテ、ソレヲ課稅標準トシテ金銭貸付業ニ對スル營業稅ヲ
 課スベク通知シタ。コヽニ於テ同社及ビ保險協会ハ此レヲ不当ト考ヘテ
 大臣ニ陳情シタカラツイニ具通知ハ取消サレタ。其保險協会ノ抗議ノ理
 由ハ

(1) 兼業ハ保險業法第三條ノ禁止セルトコロデアアルコト。
 一五

(2) 利殖ハ保險業ノ性質上一ノ要素デアルコト。

(3) 金銭ノ貸付ハ保險業法施行規則一六條ニ於テ保險会社ノ財産利用
方法トシテ認めラレテ居ルコト

兼営ノ禁止、業法第四條

一 会社ガ生命保險ト損害保險トヲ兼営スルコトヲ禁ズ、但シ生命保險
会社ガ生命保險ノ再保險ヲ爲スコトヲ得。尚此ノ禁止ニツイテハ第三種
ノ保險ノ存在スルコトヲ注意シナケレバナラス。尚題トナルノハ如何ナ
ル種類ノ損害保險モ此レヲ兼ネルコトガ生命保險業ヲ危険ナラシムルマ
否マノ点デアアル。海上保險ヤ火災保險ノ如ク保險金額モ多ク損害ノ發生
モ不慮則テ冒險的ナルモノハ生命保險ト兼営ヲ禁止スル理由ガアル。サ
レドモ傷害保險ノ如キハ元來生命保險ト密接ナル關係アルノミナラス、
損害發生ノ程度及ビ保險金額等ヲ見テモ、殆ンド生命保險ノ利益ヲ害ス
ルコトガナイデアアル。又ガラス保險、自動車保險ノ如キモ略事情ヲ同
ジラスル。主ニ此ノ理由ノ誤ケラレド理由ハ立法當時ニ於テ損害保險ト

シテハ海上保險及ビ火災保險ガ主トシテ行ハレテ居タガ、此レニ着眼シ
テ此ノ禁止ガ定メラレタモノト思ハレル。然ルニ其後ニ於ケル保險業ノ
発達ハ此レヲ時勢ニ適シナイモノニ至ラシメタモノデナイカト思ハレル
英國ニ於テハ此ノ制限ハ全クナイガ、此レハ自由ニ過ギテ却ツテ生命保
險ノ被保險者ノ保護ニ缺ケル結果トナルデアアル。故ニ於テハ或ル種
類ノ損害保險ハ生命保險ト兼不得ルモノトセラレテキル。

g. 業務ノ監督、業法九條乃至一三條ノ三及ビ九ニ條乃至一四條

保險会社ノ業務ハ商工大臣ノ監督ニ屬スル。監督官廳ハ種々ノ命令ヲ
発シ会社ヲシテ事業ノ廣告ヲナサシメ、ソノ業務及ビ財産ノ状況ヲ検査
シ必要ノ場合ニハ營業ヲ停止シ又ハ營業免許ノ取消ヲナス

h. 財産利用方法ノ制限

保險会社ノ財産ハ其保險契約上ノ責任ニ対スル担保資金デアアルカラ其
投資ハ有利ナルコトヨリモ、寧ろ確實デアレコトヲ尚ブ、故ニ法律ハ種
々ノ制限ヲ加ヘ、先ヅ会社設立ノ免許ヲ申請スルニ当リテハ財産利用方

法ヲ記シタル書類ヲ提出スルヲ要ス (一業法第五條) 後ニ當リ此レヲ爰
更スレニハ政府ノ許可ヲ要スルノミナラズ一業法第八條) 尚保險業法施
行規則(第一六條、第一七條)ヲ以テ嚴格ニ規定ヲ有ス。其精神危險分
散主義ヲ尊重シ、投資ヲ一方向ニ偏セシメザルヲメデアル。故ニ法律ハ
國際証券ヲ除キ其他ノ投資ニツイテハ会社ノ資産ノ1/5以上ヲ一方向ノ
ミニ投資スルコトヲ禁止シテ居ル。此ノ點ニ関シテ第一ノ問題ハ財産運
用ノ一手段トシテ金錢貸付業、貸付業務ノ如キモノヲ營ミ得ルヤ否ヤ
ノ點デアル。此レハ前ニ兼業ノ禁止ニ於テ述バタ、第一ノ點ハ或ル事業
ニ投資シタル結果トシテ、其事業ノ支配權ヲ握ルニ至ラバ、ソレハ兼業
禁止ノ規定ト抵觸セザルヤ否ヤ。例ハバ法律ハ同一会社ノ株券ノ所有ハ
保險会社ノ財産ガ1/5以下ニ限ツテ居ル。然ラバ一億円ノ財産ノアル保
險会社ハ資本金ニ千萬元ノ他ノ会社ノ株券全部ヲ所有シウル道理ニナル
而モ事業ノ支配權ヲ得ルメニハ株券ノ1/5以下ヲ以テ足ルガ故ニ多數
ノ会社ノ支配權ヲ一保險会社ヲ握ルコトハ困難デナイ、此處ニ於テ兼業

一八

ノ禁止ハ其目的ヲ費キ得ナイ結果トナル、但シ實際ニハ政府ハ内規ヲ以
テ此ノ點ニ付キ制限ヲ加ヘテ居ル

(2) 外国会社ノ監督

内國人ニヨル保險業ガ未ダ起ラナイ中カラ外國保險業者ハ開港場ニ於
テ主トシテ居留外國人ヲ相手トシテ營業ヲシテキタ。ソノ件數モ次第ニ
増加シ、内國会社が盛ニナルニ及ンデ激シキ競争ヲナスニ至ツタ。明治
三十三年ニ保險業法ガ制定セララル、ヤ、其第一一五條ニモトツイテ同年
敕令三八〇号外國保險会社ニ関スル件ガ制定セラレ、其施行規則トシテ
同年農商務省令一九号外國保險会社ニ関スル件ガ制定セラレタ。後大正
元年保險業法ノ改正ニツレテ敕令五七号及ビ省令三〇号ヲ以ツテ改正
セラレ今日ニ及ブ。其監督規定ハ大体ニ於テ内國会社ニ対スルト同ジデ
アル。唯特ニ注意スベキハ供託金ノ制度デアアル。即チ外國会社ガ競争ソ
ノ他ノ事情ノタメニ突然其業ヲヤメテ本國ニ引上ゲル如キ場合ニ被保險
者ガ其權利ヲ主張スルタメニ日數ト費用ヲ要シ甚ダ不利益ヲ蒙ル。又外

一九

外国会社が本国ニ於ケル事業ノ失敗ノタメニ我被保険者ノ利益ヲ害スル
コトナキニ非ズ。従テ外国会社ニハ相当ノ供託金ヲナサシメ、被保険者
ハ其上ニ優先権ヲ有スルモノトセラレテ居ル。其金額ハ事業開始ノ初メ
ニ一定額ヲ供託セシメ、其後事業ノ発展スルニツレテ責任準備金ニ相当
スル金額ヲ供託セシメルコトヲ精神トスル。

第十六章 保險會社ノ計算

此レニツイテハ商法及ビ保險業法ノ規定ニ從ハネバナラヌ。此處ニハ
便利ノタメニ其全部ニツイテ述ベル
保險株式會社ハソノ財政上ノ基礎ヲ鞏固ナラシメル爲メニ其資本
ノノタニ達スルマデハ利益ヲ株主ニ配当スル毎ニ法定準備金トシテ其利
益ノノ^一/_五以上ヲ積立テラコトヲ要ス。一商法一九四條ニ項一尚額面以上
價格ヲ以ツテ株式ヲ発行シタルトキハ、其額面超過額ハ會社資本ノノ^一/_五

ニ達スルマデ此レヲ法定準備金ノ中ニ組入レルコトヲ要ス。一商法一九四
條第二項一ソノ法定準備金ハ損失ヲシテ補スルタメニ支出スルヲ妨ゲナ
イ、而シテ會社ハ此ノ外ニ種々ナル任意積立金ヲナシ得ベキコトハ勿論
デアル。例ヘバ利益配当平均積立金、特別危険ニ対スル積立金（例ヘバ
火災危険積立金）ノ如シ。
保險會社ハ事業開始ノ初期ニ多クノ費用ヲ要スルヲ以ツテ設立費及ビ
初メノ五年度ノ營業費ハ一〇年以内ニ毎年ソノ一部ヲ償却スルコトヲ得
但シソノ全部ヲ償却シタル後ニ非レバ株主ニ利益配当ヲナスヲ得ズ。一
業法一九條一
保險相互會社ハ損失ノ填補ニ具ヘル爲メニ、毎事業年度ノ剩餘金
ノ中カラ法定準備金ヲ積立ツルヲ要ス。但シ毎年積立ツル金額及法定準
備金ノ最低額ハ商法一九四條ノ如キ制限ナク、定款ヲ以ツテ自由ニ定
メ得ルノデアル。一業法五七一而シテ會社ハ此ノ外ニ任意積立金ヲナス
コトハ自由デアル。

設立費用及び初メ五年度ノ營業費ハ株式会社ニ於ケルト同シク十年以
 内ニ償却スルヲ得。(一業法五八)相互会社ノ基金ハ定款ニ定ムル方法ニ
 從テ償却セラレル。(一業法二六)コノ基金ハ毎事業年度ノ剩餘金ヲ以テ
 償却セラレル。(一業法五六)但シ設立費用及び初メ五年度ノ營業費ノ全
 部ヲ償却シ、且ツ法定準備金ヲ償却シタル後ニアラバ基金ヲ償却ス
 ルヲ得ズ。(一業法五九)基金ハ会社ガ其保險契約上ノ義務ヲ果スルノ担
 保資金トナルモノデアラカラ、タトヒ此レヲ償却シテモ、ソノ担保資金
 ヲ減少セシメザルガタメニ償却シタル金額ト同一ノ金額ヲ基金償却積立
 金トシテ積立ツルヲ要ス。(一業法六〇)条)

基金騰出者ハ定款ノ定ムルトコロニヨリ、或ハ一定ノ利息ヲ受ケ、或
 ハ其外ニ剩餘金ノ分配ヲウケルコトガアル。(一業法二六)条)ソノ利息毎
 事業年度ノ剩餘金ヲ以テ支拂ハレル。(一業法五六)但シ此利息ノ支拂ニ
 限リ業法五八条ニイフトコロノ設立費用及び初メ五年度ノ營業費ノ全部
 ノ未ダ償却セザル期間内ト雖モコレヲ支拂フコトヲ妨ゲナイ。(一業法五

九)条ニ與シテ毎事業年度ノ剩餘金ノ中ヨリ法定準備金ヲ積立テ(一業法五七
 条)基金騰出者ニ利息ヲ支拂ヒ(一五六五九)基金ヲ一部ツツ償却シ(一五
 六)同時ニコレニ応ジテ基金償却積立金ヲ積立テ(一六〇)設立費用及初
 五年内ノ營業費ヲ十年以内ニ償却シ(一五八、五九)而シテ尚殘金アルト
 キハ此レヲ社員即チ被保險者ニ分配スルデアアル。(一六一)

剩餘金ハ時トシテハ基金騰出者ニモ分配スルコトヲ定款ニ定メルコト
 モアル(一五六)而シテ此レヲ社員ニ分配スルニツイテモ定款ヲ以テ特別
 ノ定メヲナスコトモアル。サレド若シ定款ニ別段ノ定メナキトキハ各事
 業年度ノ終リニ於ケル社員ニ之レヲ分配スル、業法六一條、但シ長割合
 ハ保險金額契約ノ継続年数、契約ノ種類ニ応ジテ區別ヲナスヲ通例トス
 レ。

3. 責任準備金

Liability reserve.

保險会社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒテ、各事業年度ノ終リニ存在スル契
 約ニツイテ責任準備金ヲ積立テルヲ要ス。(一九五)責任準備金トハ保險

若ガ被保険者ニ対シ、ソノ保険契約上ノ責任ヲ果スルニ積立テルヲ要スル金額デアアル。保険業法ニ於テハ責任準備金ヲ未経過保険料及ビ保険料積立金ノ二種ニ分ツ。損害保険ニツイテハ前者ノミデアアルカ生命保険ニ於テハ常ニ此ノ二者ニ分テテ計算スルコト、シテ取扱ハレテアル。但シ理論上ハ死セ保険ニツイテハ此ノ二者ヲ分テ得レガ、生命保険ニアリテハ後者ノミデアアル筈デアアル。

未経過保険料トハ一事業年度ニ於テ收入シタ保険料ノ中テ、ソノ年度以後ニ跨ガリタル保険期間ニ対スル保険料ニ当ルモノヲ言フ。例ヘバ今年ノ九月一日ニ一年間ノ火災保険ヲ契約シ、一年分ノ保険料ヲ收入シタルニ若シ其会社ガ十二月末ニ決算ヲ行フトキハ、此ノ契約ニ対スル四ヶ月ノ保険期間ハ既ニ経過シタルヲ以テテ保険料ノ全額ハコレヲ会社ノ所得トナシ得レケレドモ残りノ八ヶ月分即チ、保険料ノ $\frac{8}{12}$ ハ翌年度ニ生ズル損害ノ支払ニアテルタメニ必要デアアルカラ此ヲ会社ノ債務トシテ計算スルヲ要スルノデアアル。但シ此レヲ個々ノ契約ニツキ計算スルコトハ

繁雜デアアル故ニ、此レヲ平均シテ年払ノ保険料ハ $\frac{1}{12}$ 半年払ノ保険料ハ一年間ノ総額ノ $\frac{1}{2}$ トシテ此レニ当テラテ以テテ定ル。其計算ニ関シテ純保険料ヲ標準トスベキカ、純保険料ヲ標準トスベキカニ付イテハ議論ノ餘地ガアル。尚損害保険ノ未経過保険料ノ計算ニツイテハ業法施行規則ニ七条乃至ニ九条ニ詳細ニ規定ガアツテ必ズシモ上述ノ方面ニヨルヲ必要トセス。ソノ年度ニ於ケル保険料收入ノ中カラ、ソノ年度ニ於ケル保険金支払高ヲ扣除シタル残額ヲ未経過保険料トナシ得ト定メラレテアル。

保険料積立金ハ上述ノ如ク生命保険ニ関シテ必要トセラレルモノデアアル。今日一般ニハ平準保険料 (Level P.) ノ方法ヲトツテ居レガ、此ノ場合ニ毎年支払ハレル保険料ハ三ツノ部分ニ分拆セラレル。一ハ附加保険料デアツテ、此レハ營業費ニアテルタメニ使用シ盡サレル。ニハ積立保険料デアツテ、此レハ前ニ平準保険料ニツイテ説明シタル如ク若イ同即チ危険率ノ低イ同ニ必要以上ノ保険料ヲトリテ此レヲ蓄積シ以テ後年即チ危険率ノ高キ時代ニ於ケル保険料ノ不足ニアテルコトヲ主タル目的

トスルモノデアル。此レガ保險会社ニ於テハ保險料積立金トシテ会社ノ
債務ニ計上サレル。第三ノ部分ハ危險保險料デアツテコレガ一年間ノ危
險負担ノ対価デアル。前ニ述ベタ未経過保險料ハ此ノ危險保險料ノ一部
デアルト考ヘルコトガ理論上正当デアアルガ實際ノ取扱ヒニ於テハ總保險
料即チ保險料收入ノ全体ニツイテ其ノ一スハノト計算セラレテ居ルノ
デアアル。此處ニ掲ゲタ例ハ死亡保險ニ付イテ云ツタガ、他ノ種類ノ生命
保險ニ付イテハ事情ガ稍異ルケレトモ大体ニ於テ此ノ説明カラ類推スル
コトガ出来ル

保險料積立金ノ計算ニツイテハ、純保險料式 *net premium*
system - Gilmers 式トガ我國ニ於テ許サレテキル一業法ニ大差
（其ノハ保險ノ實際ニ於テ新契約ノ費、要スル。此ノ費用ハ附加保險料
トナリテ將來多年ニ涉リテ回収セラレル計算デアアル。シカルニ普通ノ方
法デ積立金ヲ計算スレバ、此ノ新契約費ノタメニ会社ニ缺損ヲ生ズ。此
ノ不合理ヲ避ケルタメニ初年度ノ積立金ノ中カラアル程度ノモノヲ流用

シテ此レニ依リテ新契約費ヲ支弁シ、後ツテ決算ノ上ニ損失ヲ生ゼザラ
シメルコトガ新設会社等ニトリテハ必要デアアル。此ノ場合ニ其ノ積立金
ハ流用額ダケ減シスル道理デアアル。カクノ如キ計算方法ヲ *Gilmers* 式
トイフ。此ノ流用額ハ將來ノ積立金ヲ緩カ増額スルコトニヨリテ次第
ニ填補スルノデアアル。此レニ反シテ、カ、ル流用ヲナサズ全ク理論通り
ノ積立金ヲ純保險料ニ付イテハ附加保險料ノ部分ヲ考慮ニ入レズ一行フ
モノデアツテ、最モ正当ナ計算方法デアアル。

々、支払備金

保險会社ハ事業年度ノ終リニ於テ支払備金トシテ、相当ノ額ヲ積立テ
ルヲ要スヘ業法施行法規則ニ三条ノコレハ例ハ保險金ヲ支払フベキ事
政ハ既ニ生シタケレドモ、此レニ關スル請求書ガ未ダ会社ニ到着セザル
ガ故ク、又保險金ニ關シテ訴訟中ニアルモノ、如キ、要スルニ支払ノ事
由ガ生ジタルカ又ハソノ生ジタル恐レノ為保險契約上ノ債務ニ具ヘルメ
ニ積立ツルヲ要スル金額デアアル。

5. 保険契約配当準備金

保險会社ハ所謂利益配当付ノ保險契約ヲナスコトガアルカ、ル場合ニハ此レニ於ケル積立金ヲナスヲ要ス（業法施行規則三三條）

6. 被保險者ノタメニ積立ラタル金額

商法ノ四三一條ニ項及ヒ四三三條ニ項並ビニ業法九六條ニハ被保險者ノタメニ積立テタルトイフ文字ガ用ヒラレアル、此レハ何ヲ指スカ不明テアル、此レヲ広義ニ解スルヲバ責任準備金（施行規則二四條乃至三三條）支払 備金（同三三條）並ビニ契約者配当準備金（同三三條）ヲ包含スルモノト云ヒ得ルノデアル、サレド初メニ引用シタ條文ハ生命保險ノミニ關係スルモノデアラカラ損害保險契約ニ関スル問題ハ考慮スル必要ハナイ。此レヲ狹義ニ解スレバ責任準備金ノミト考ヘラレル、又ニ此レヲ最狹義ニ解スルヲバ所謂解約返戻金ヲ指スモノ、休デアル。

7. 火災保險会社ニ對スル助成金

大正十二年ノ大地震ニ際シテ火災保險会社ハ保險約款ニヨリテ保險金

支払ノ義務ナキニ拘ラズ政府ノ強要ニヨリテ任意ノ出捐ヲナスコトヲ義務ナクセラレタ、此ノ任意出捐金ニ當テルタメニ政府ハ一億円ニ近イ金額ヲ低利且ツ年賦償還ノ方法ヲ以ツテ助成金トシテ交付シタ。此ノ助成金ハ会社ノ債務トシテ貸借対照表ニ計上スルコトハ必要デナイ。サレドモ助成金ノ交付ヲ受テタル会社ハ毎年ノ利益ノ中カラ一定額ヲ五十年以内ニ政府ニ返スコトヲ要スルモノトセラレタ。大正十三年四月十四日、敕令八四号及ビ四月十九日農商務省令六号。

第二編 第一部 生命保険

第一章 生命表 (死亡表又ハ死亡生残表)

生命保険トイフ語ニハ廣義テハ第一ハ死亡保険ノミ、ヲ意味シ、第二ハ生存及ヒ死亡ノ保険ヲ併稱ス。我商法四ニ七條ハコレヲ採用ス。第三ハ人車保険ノ意味ニ之ヲ用ヒテ單ニ生存又ハ死亡ノミナラス疾病傷害徵兵其他種々ノ事故ヲ合セテ保険スルモノト考フ。實際界ノ實際ニ於テ、此第二第三義ニ用ヒラレントスル著シキ傾向カアル。

要スルニ人ノ生死ニ関スル事カ中心問題ナル故生命保険ノ研究ニハ人ノ生命ニ付テノ研究カ必要ナル人ノ生死状態ヲ研究的ニ研究シタモ、生命表 *life-table mortality table* ノ名ヲ發表サレドモ、生命表ハ保険料責任準備金ノ計算其他一般ニ生命保険業ノ經營ニ必要ナ基礎材料

テアレ、之ヲボルルーツノ方法ヲ左ニ略述セン。今一ツノ社會ノ現在ノ人口ノ年齢別ノ調査及ヒ死亡者ノ年齢別調査ヲ知ルナラハ各年齢ニツイテ死亡數ヲ現在人口數ヲ割ル事ニヨリテ死亡率カ見出サレドモ、然レトモ死亡率ノ材料ノ不備其他種々ノ偶然ノ事情ニヨリ整シテ凸凹アリ、故ニ数学者ハ之ニ補整ヲ施シ原數ニ遠サカラサレ範圍ニ於テ凸凹ヲ平ラニシ滑ラカナル曲線ヲ作レ、之ニヨリテ粗製死亡率カ整製死亡率トナル。而シテ生命表ノ出發点トスル、年齢即チ基礎ノ年齢ニ於ケル生存者數テ例ハハ十萬トイフカ如キ *starting number* 十萬トシテ其ノ年齢ノ死亡率ヲ乘スレハ各年齢ニ於ケル死亡者數カ出ル。故ニ、年齢ニ於ケル生存者數カラ死亡者數ヲ引ノトシテ生存者數即チ翌年即チ次ノ年齢ノ切ニ於ケル生存者數カ見出サレドモ、テ同シ方法ニ繰返シテ行ハハ百歳前後ニ於テ遂ニ凡テノ人口カ在ラズトナル。此ノ如クスレ、同時ニ生ニア一國體ノ人口カ如何ナル、死亡生殘スニ至ルカ *table* ヲ生シ、之即チ不ナル即チ生殘ス。

生命表ニハ色々ノ種類カアル

一 内國表ト外國表

内國表ト、自國ノ材料ニヨリテ作ラレタモノニアリ外國表トハ外國ノ材料テ作ラレタモノデアリ内國表、耳ノ國ノ事實ヲ材料トシテ作ルカラ其ノ実状ニ適スル特徴カアル外國表ハ此ノ點ニ於テ劣ルナレト内國表ノ不完全ナル時代ニハ却ツテ應務スルキ外國表ヲ採用スルコトヲ適當トスル我保險會社カソノ初期ニ於テ外國表ヲ多ク採用シ臨イテ今日ニ於テモ外國表カ盛ニ用ヒラントキレノハ此理ニヨレ此ノ場合注意スルモハソノ外國表カ自國ノ生死ノ狀況ニ似ルハク近イモノヲ送ハナケレハナラヌトイフ事デアレ故ニ例ハハ英國表ヲ我國情ニ照シテ見ルニ今ヨリ數十年前以前ニ作ラレタル英國表カ今日ノ日本ニテ度適當スルノテ最近ノ英國表ハ死亡率低クンテ我國ニ適シナイ

二 男子表ト女子表ト男女合併表

之ハ材料トナソタモノカ男子ナルカ否カノ區別テアル男女ノ内ニハ

生死ノ狀態ニ可ナリ着シイ差カアル然ツテ時トシテハ男女ニヨリテ保險料ノ基礎トスル表ヲ區別シ男子ニ對シテハ男子表女子ニ對シテハ女子表ヲ用フルコトカアル我郵便年金ハ此ノ如クナリ

三 國民表ト經驗表

一 社會ニ於ケル住民全体ヲ材料トシタモノヲ國民表トイヒ保險會社等ニ於ケル被保險者ヲ材料トシタルモノヲ經驗表トイフ經驗表カモノモ近シイ材料ニ基付イテ作ラレニ非レ然レシテ經驗ニ基テ作ラヌ所理選擇又ハ反對選擇等ニヨリテ正シイ結果ヲ得ハレテ來ヌ然レモ現分ナル材料ニテ作ラレテキルナラハ其ノ國ニ於ケル保險業ノ実情ヲ現ハスモノナル故事業經營上最モ信頼スルキモノデアリ

四 保險期間ノ經過ニヨル區別

經驗表ニ付テハ其ノ材料トナソタ被保險者ノ保險期間ヲ考慮ニハレテ

1 選擇表 (Select Table) 全綜合表 Table 4. 5 (ultimate) T

2 綜合表 Aggregate Table 1 截斷表 Truncated T (or Final) T

死亡保険ニ於テハ被保険者ハ身体検査ノ結果トシテ契約ノ初ハ志ノ健康者アリテソテ死亡率ノ低キヲ常トシ、然レニ身体検査ノ後カハ永ク有効テハナクテ四五年ヲ以テ経過シテモノテアルコトハ証明サレテキル。送葬表ハ此ノ理由ニ基キテ作ラレタモノテソツテ契約締結後ニ経過シタ年ノ数ニ應ジテ死亡率ヲ一々計算シタモノテアレ、之ニ反シテ斯カル區別ヲナサシテ被保険者ヲ全体トシテ計算シタルモノヲ綜合表トイフ。送葬表ハ多クハ五年間大計算サレテキル。其ノ年数ヲ経過シタ後ノ被保険者ニ付キテ作ラレタル綜合表ヲ截断表又ハ終局表トイヒ、ソノ期間ニ從ヒテ五年截断又ハ十年截断表等ト称セラル。而シテ全綜合表トイフノハ斯カル年数ノ制限ナク最初カラ被保険者全体ニツキテ作ラレタモノテアル。

生命表ノ記載事項

生命表ノ記載事項ノ中デ最モ重要ナモノハ死亡率デ其以外ノモノハ此カラ導キ出スコトガ出来ル。但シ生命表ニ通テ記載サレテキルモノハ左ノ如シ

1. 年齢、乙

国民表ハ〇オカラ始マルヲ第トスルガ經驗表ハ十歳又ハ二十歳ヲ基準トスルコトガ多い。

2. 生残表、乙

例バ二十歳ノ生残数ハ 10000 ヲ以テ表ハシ一般ニハ l_x トシテ表ハサレテキル、生残数ハ其生命表ノ最初ノ年齢ノモノヲ一定ノ n *annuities* テ表ハス、例ハ内閣統計局第ニ表ハ零歳ノ生残数ヲ十万人トナシ日本三会社表ハ十歳ノモノヲ十万人トシテキル、而シテ毎年ノ死亡数ヲ取リシモノヲ翌年ノ生残数トシテ次第ニ進行シテユク

3. 死亡数、d

ハ各年齢ニ於ケル一年間ノ死亡数テアル故ニ l_{20} ト言ハバ満二十歳ノ時ノ生存数何程ノ中デ滿二十一歳ニ達スル迄ニ死亡スル人数ヲ示シテキル、從テ二十一歳迄生存スル人数ハ $l_{20} - d_{20} = l_{21}$ 一般のニ言ハハ $l_x - d_x = l_{x+1}$

4. 生存率、 p

此ハx歳ノ人カ其後一年ノ間生存スル *probability* 「アツテ p_{20}

$\frac{l_{21}}{l_{20}}$ 即チ一般ニハ $p_x = \frac{l_{x+1}}{l_x}$

5. 死亡率、 q

此ハx歳ノ人カ今後一年間ニ死亡スル *probability* 「アツテ q_x

$\frac{d_x}{l_x}$ テアル而シテ人ハ死亡スルカ生存スルカノ何レカヨリ無イカラ

$p_x + q_x = 1$ テアル

6. 逆生存率

此ハ年末ニ於テ一人ノ生存者カアルタメニ八年始ニ於テ幾人ノ生存者ヲ必要トスルカラ示シタモノデアル $\frac{l_x}{l_{x+1}}$ 即チ生存率ノ逆数 $\frac{1}{p_x}$ テアル

例八局ニ表身八頁ニ於テ

x	p_x	$\frac{1}{p_x}$
30	0.97213	1.01
60	0.96494	1.04
90	0.67228	1.49

(男子)

7. 逆死亡率

此八年ノ始メニ於ケル幾人ノ生存者ノ中カラ一年間ニ一人ノ死亡者ヲ出スヘキカラ表ハスモノテ $\frac{l_x}{d_x}$ 即チ $\frac{1}{q_x}$ 即チ死亡率ノ逆数テアル、例八局ニ表ノ身ニ頁ヲ見ルト

x	q_x	$\frac{1}{q_x}$
30	0.00787	127.1
60	0.05506	18.5
90	0.3272	3.1

8、死力

上述ノ死亡率トハ一年間ノ死亡数ヲ年始ニ於ケル生存数ヲ以テ除シテ
 商テ得ニ表サスニヨレハ二十歳ナラバ 0.00830、二十一歳ハ 0.00860
 ニ十二歳 0.00870トナツテキル、サレトモ人ノ死亡率ノ一年ヲ通ジテ
 同一ノ吾ハナイ、換言セバ年ノ新マルト共ニ突然変化スルモノデハ無イ
 即チ二十歳ノ最後ノ日ノ死亡率ガ 0.00830デアツテ其翌日ニナレバ突
 然 0.00860ニ増加スルノデハナク、死亡率ハ斯ノ一年ヲ一ツノ期間ト
 シテ階段ヲナスベキモノニ非スシテ絶ヘズ変化シテ之ヲ圖ニ表セバ一ツ
 ノ階段ヲナスベキ善デアル、故ニ微分限ニヨリテ各々ノ期間ノ死亡率即
 死亡ノ傾向ヲ計算スルコトカアル而シテ各満何歳トイフ期間ニ於ケル死
 亡率ヲ求ハシタ数字ヲソノ年齢ニ於ケル死カトイフ *force of mortal-*
ity, intensity of mortality instantaneous rate
of mortality トイフ、要スルニ一年ヲ單位トスル死亡率ヲ單ニ死亡
 率トイヒ、各 間持ニ年始ニ於ケル期間ノ死亡年ヲ死カト称ス。

9、平均命数、又ハ平均寿命 *e* (*expectation of life*)

何列の観察ニヨリテハ人ノ寿命が今後何歳アルカトイフコトハ知ルコ
 トが出来ナイカ大故観察ニ依リテ其平均ノ命数ヲ知ルコトが出来ル、即
 チ同ジ年齢ノ多数ノ人ノ一団體カアリトスレバ其團體ノ全員ガ平均シテ
 今後尚何年生存シ得ベシト豫測セラレ得ルカラ計算シ得ラレル、其方法
 ハ此処ニ之歳ノ人 l_x 人ノ中デ一年間生存スル人数ハ l_{x+1} 人デア
 ラルハ全体トシテ l_{x+1} 年々ケ生存シメ適理デアアル、同様ニ其
 後ノ年数ヲ合計シテ最後ノ年齢迄ニ至ル時ハ此一団體ノ人ガ全体トシテ
 生存シメ年数ハ $l_x + l_{x+1} + l_{x+2} + l_{x+3} + \dots$ デアル、故ニ此合
 計ヲ最初ノ生存数 l_x ヲ割ルトル歳ノ人ノ一人ヨリノ平均ノ命数ガ計
 算サレ、故ニ $e_x = \frac{l_x + l_{x+1} + l_{x+2} + l_{x+3} + \dots}{l_x}$ トナル、而ル
 ニ此計算ニヨレバ毎年末ノ生存者ノミガ計算サレテ其年ノ中間デ死ヒシ
 タ者ハ悉ク取除カレテキル、換言スレバ凡テノ死亡者ハ其年ノ始メニ於
 テ悉ク同時ニ死亡シタモノトミナサレテキル、而シ人ノ死亡ハ一年ヲ通

ジラ生ズルノデアアルカラ平均シテ年ノ半ニ死ビシタモノト見ルコトガ出
 来ル、故上ノ計算ニノスヲ加ヘテ(20+25)此ヨバ22.5トスルコトガ
 更ニ適當デアアル、斯如ク22.5ヲ不完全命数ト言フ *Complete expectation*
of life ト言フ、*Life* 不完全平均命数 *Concrete expectation of*
life ト言フ、單ニ平均命数トイハバ後者ヲ指ス、而シテ22.5ノ代ニ22
 ガケガ用ヒラレルコトガ屢々アル。

年齢	男	女
20	40.35	41.06
25	37.62	38.02
30	33.44	34.84
35	29.73	31.54

現ニ我国ノ保險会社ガ使用セル生命表ノ種類ヲ挙ゲルト(十二年度ノ
 保險年鑑ニヨリ)
 内国会社四十四社

甲、内国表

1. 同ニ表 十二社 一九一一年ニ発行サル
2. 日本三会社表(1) 十一社 一九一〇年
3. 森村表 三社
4. 藤澤第一表 一社
5. 同 第二表 一社
6. 楠表 一社

乙、外国表

1. 英国十七会社表 二十四社 一八四三年
 2. 英国 *Forn* 表 十社 一八六四年
 3. 米国經驗表 三社 一八六八(明治元年)
 4. 英国二十会社表(H) 二社 一八六九年
 5. 佛国經驗表 一社 一八九五年
- 外国会社 四社

未ガ発表アレタ、此ニハ多少ノ誤ガアツタノデ同年十二月発行ノ三十七年統計年鑑ニ於テ訂正ヲ加ヘラレタ、其後毎年ノ統計年鑑ニ之ガ掲ゲラレテキル、但シ未ダ実用ニ供セラレテエナイ、

外国表

初メ我國ニハ内国表ガ無カリシ故ニ外国表ニヨリテ營業ヲ始メタ、後ニ至リ藤澤表其他ノ内国表ガ作ラレメケレドモ孰レモ一ニノ会社デ用ヒラレタデアアル、斯ニ表及日本三会社表ノ出ルニ及ビテ營業ヲ初メタ会社ハ特ニ之ヲ改メル必要ヲ認メズ、又計算表其他ノ利用ノ上ニ外国表ノ方ヲ却ツテ便利ナコトサヘアアル故ニ今尚多数ノ会社ハ外国表ヲ用ヒラキル

ノ、英国十七會社表 (英国デハ *seventeen offices' Table*) ハ一八四三年ニ製人カノ *actuary* 数埋士ヨリナル委員會ニヨリテ作ラレタモノデアツテ一八七二年ノ英国生命保險会社及ビ七三年ノ *Nugentland* ノ保險法ニ依リテ法律上公認セラレタ、然レニ英国デハ當時

Mortality Table (一七八三) 及ビ *Carlisle Table* (一八一五) ガ一般ニ用ヒラレテキタカラ此生命表ハ殆ンド使用セラレズ唯必要アルモノ、同ニ島本ノマ、デ用ヒラレテキタ、及之米国デハ一八七一年マサチニセツツ州ノ法律ニ依リテ標準的ノモノトシテ公認サレタ、同時ニ出版セラレタカラ其他ノ諸州ニ於テモ一時ハ之ガ標準的ナモノトシテ用ヒラレタ其影響ヲ受ケテ我國ニ於テモ初メテ保險業ヲ行フタ諸会社がコレヲ採用シタ、此表ハ米国デハ *actuarial's Table* 又 *combined experience Table* ト名付ケラレテキル、

又、我國デ *French* 表ト称セラル、モノハ實ハ英国ノ國民表第三表 *English life Table No. 3* デアツテ英国登録局ニ於テ一八六四年ニ作ラレタモノデアツテ共局長 *French* 氏ノ名ニ於テカクノ如ク名付アラレタキル、英國ニ於ケル此種ノモノハ一八四三年ノ第一表ヲ初イトツテ最近ニ至ルマデ凡ソ十種出被セラレテキルガ第三ニ限リ種々ノ計算表ガ作ラレタカラ莫ク採用セシレ特ニ簡易保險及ビ生存保險ニ用ヒラレテキル

3. 米國經驗表ハ一八六八年 *Mortality* 州ノ保險法ニソノテ発表サ
レタモノデ *Mortality* *Life Insurance Company of New York* ノ
經驗ニ依リテ作ラレメ、此ヨリ後此表ハ次第ニ他ノ諸州ニ於テ法律上公
認セラレ今日デハ米國ニ於ケレ標準的表トシテ法律上及ビ實際上ニ於テ
廣ク用ヒラレテキル、

4. 我國ニ於テ英國ニ十会社表ト林ヒラル、モ、ハ英ハ *Institute*
of Actuaries' table デアツテ一八六九年ニ発表セラレ之ニトキモ
配手ガ手ハラレテキル、殊ニ其中デ *H.M. table* ハ最も普通ニ用ヒラレテ
キル *America* デハ之ヲ *continent offices' experience table*
ト名付ケテキル、

5. *Juvenile offices' experience table* トハ一八九五年ニ四会社
ノ經驗ガ発表セラレメモノデアツテ其中死亡保險ノ男女合帳表ヲ *J.F.*
table ト林セラレテ之ガ我國デ用ヒラレテキル、尙同時ニ佛國デ *H.R.F.*
表即チ年金契約ノ經驗ガ発表セラレテキル、

6. 我國デ英國大ノ会社表ト林スレモノハ英ハ *British offices'*
table デアツテ一八九〇三年ニ発表セラレ〇ノ記号ヲ以テ表ハサレテキ
ル特 *O.M. table* ガ英國ニ於テハ次第ニ多数ノ会社ニ於テ用ヒラレツノア
ル

7. *Carlisle table* 之ハ一八一五年英國ノ *Carlisle* 地方ノ統計
ニ依リテ作ラレタモノデアツテ一時ハ英國デ盛ニ用ヒラレタガ今デハ衆
ヘテキル、

8. 英國政府年金表 *Government Annuity Table* ハ數回
発表サレテキルガ一九一〇年ニ発表サレシモノガ英國デ年金契約ニ付イ
テ多ク用ヒラレテキル、

9. *Anti-Tropical table* トハ英國十七会社表ト *tropical table*
トヲ拆表シテ假ニ作リ上ゲラレタモノデア *Caribbean* ノ該会社ガ日本人
及ビ支那人ニ對シテ契約ニツキ之ノ用ヒテキル、
歐米諸國ニハ此外種々ノ生命表ガアレガ諸明ハ略ス、

第二章 保険料ノ計算

純保険料ヲ計算スルニ当リ其基礎トナルモノハ一年ヲ期限トスル

一年満期ノ定期保険即チ一年内ニ死亡シタ時ニ限り保険金ノ支拂ハ
レルモノニアリテハ左ノ計算ニ依ル

被保険者ノ年齢三十歳、保険金四円、三十歳ノ死亡率 0.008427 ト
スレバ、 $1000 \times 0.008427 = 8.427$ 即チ $1000 \times 0.008427 = 8.427$
ト計算サレルモノナレバ若シ全ク同ジ被保険者ガ一人アリトセバ其
保険料収入ハ八四ニセの円デアレ、而シテ一年内ニ死亡スルデアラハ
豫想セラレレ人数ハ八四人 ($1000 \times 0.008427 = 8.427$) アツテ
一人ニ付キ四円共ヘルタメニ八四の円程ヲ必要トシ、丁度保険収入
ヲ以テ此ヲ支拂ヒ得ル、但シ此場合ニハ利子ノ計算ヲ無視シタガ若シ保
険料ハ悉ク年始ニ収入シ保険金ハ悉ク年末ニ支拂フモノト假定セバ実ハ

保険料ハ一定ノ年利例バ四分ヲ以テ割引セラレメ金額ヲ以テ足レガ故ニ
 $8.427 \times (1 + 0.04) = 8.763$

8.427
0.33798
0.4947
0.11921
8.763

長期間ニ亘ル死亡保険即チ長期ノ定期保険ニアリテハ右ノ計算ヲ其保
険期間ダケ続行シテ毎年ノ保険料ヲ定メ次ニ此等ノ保険料ヲ夫マ一定ノ
利率及ビ期間限ニ從ツテ割引スルトキハ夫マノ現在ノ価ヲ求メルコトガ
出来ル、其合計ハ即チ此ノ契約ニ対スル一時掛ノ保険料デアレ、此ヲ音
通ノ契約ニ見レガ如ク毎年一回掛トナスガダニハ年金算ニ依リテ此ヲ
計算スルコトが出来ル、終身保険ニアリテハ右ノ方法ヲ生命表ニ於ケル
最後ノ年迄続行スルコトニ依リテ一時掛ノ保険料ヲ求メ更ニ此ヲ年金算
ハナシクツシ算)ニ依リテ毎年掛ノ保険料ニ積算シ得ルノデアレ、
而シ此方法ニ依リテマ計算スルコトハ面倒デアレカラ其計算ヲ簡單ニ
スレタメニ生命表ニハ普通ノ原表 *Elementary table* ノ外ニ基
表 *Commulative table* ト称スルモノガ付ケ加ハラレテキル、而
シテ保険数学者ハ保険料ノ計算ヲ上述ノ如キ代数式ノ外ニ基数式デアラ

期ニ限定スルカ如キ種々アル、サレド保険料ノ計算ノ原理ハ上述ノ簡單ナルモノヲ組合セタルニ適ギナイ、
 以上ハ純保険料ニ付テ述ベタノデアル、其他ニ事業費ニ當テルタメニ附加保険料ヲ付ケ加ハルコトヲ要ス、通例ハ純保険ノ何割トシテ取扱ハレルガ、ヨノ科学的ニ分テシテ最モ公平ナル附加カトサントスル努力カ行ハレテキル、即チ其事業ヲ分テスルトキハ新契約ヲ得ルタメニ一時必要ナル費用將來久シキニ互リテ継続的ニ要スル費用トアル又例ハバ診察料ノ如ク保険料又ハ保険金ニ関ラズ一定額ヲ要スルモノモアリ、又代理店ノ手数料ノ如ク収入保険料ノ一定割合タルモノモアル、是等ヲ考慮シテ可成公平ナ負担ヲ各被保険者ニサントスルコトニ努メルノハ必要デアル、利益配当付ノ契約ハ幾分カ保険料ガ重クナル此重イ部分ダケガ拂戻サレルナラバ契約者ニハ損得無キワケデアル、實際ニ於テ会社ガナス利益配当カ其以上ニ上レルヤ否ヤハ事實問題デアル、

第三章 保険積立金

監督官廳ガ各社ニ対シテ要求スルトコロノ計算方法ハ別向題トシテ、コ、ニハ理論上ノ説明ヲスル、

生存保険ハ或ル意味ニ於テ貯金ナル故アル一団体ノ人ニ付イテ毎年收入スル純保険料ハ其利千ト夫ニ悉ク之ヲ積立テ之ニ依リテ漸期ノ際ニ於ケル支払ニ當テルノデアル、死亡保険ニ於テ若シ自然保険料ノ方法ヲトルナラバ積立金ハ生セズ、但シ實際ニ於テハカ、ル契約ガ行ハレズシテ平準保険料ノ方法ヲトルカシ毎年拂込マル、純保険料ノ中カラ其一年間ノ危険ヲ担保スルタメニ必要ナル費用、危険保険料ヲ除イタモノガ積立テラレテ行ク(積立保険料)

第一年度ノ積立金ニハ利息カ加ハツテ第二年度ハ繰越サレル、而シテ第二年度ノ積立金ガ之ニ加ハリ更ニ利息カ加ハツテ第三年度ハ繰越サレ

ル、カクノ如ク次第ニ増加シテ行キ而シテ契約後若干ノ年故ヲ過ギレト
 危険保険料ハ純保険料全体ヨリ大キクナルカラ此不足額ハ従来ノ積立金
 ヲ以テ補ハレル、然レトモ此場合ニハスデニ積立金ノ大キクアルカラ利
 息ハ可ナリ大キクテ積立金ハ益ニ増加シテ行ク、而モ危険保険料ハ積立
 金ノ大キクナルニツレテ次第ニ小サクナラントスル傾向ガアル、ナゼナ
 ラ会社ガ負担スル責任ハ最早保険金全額ニ非ズシテ此中ヨリ積立金ヲ引
 イテ残額デアアル、之ヲ会社ノ責任額又ハ危険ニ曝レタル金額 *amount*
of risks トイフ、故ニ危険保険料ハ此ノ責
 任額ニ対シテ死亡率ヲ乘ジタルモノデアアルカラ、積立金ヲ増加スレバス
 ル程責任額ガ減少シ、是テ保険費用モ少クナル道理デアアル、但シ一歳ニ
 死亡率ガ次第ニ高マルカラ保険費用ハ次第ニ増加スル
 ソノ状態ヲ左ニ示ス、
 保険料、積立金ノ計算ヲ法則ノ形デ言ヒ添ハスナラバ過去ニ領收シタ
 ル純保険料カラ過去ニ支拂ヒタル保険金ヲ減ジタル差額ナリト言フコト

ガ出来ル、カ、ル計算方法ヲ後観法 *retrospective method* トイフ、
 上ニ示シタル例ハ即チ之デアアル、此場合ニ於テハ収入支出ニ付イテ實際
 ノ計算ヲイフノデハナイ、一定ノ生命表ニ示サレタル死亡年ト一定ノ豫
 定利率トニ基付キテ計算シタル計算上数字ニツイテイフノデアアル、實際
 ノ死亡者ノ数字ガ豫定死亡数ヨリモ多カリシマ否マ、又会社ノ投資カ何
 程ノ利廻ニアタルカラ同フニ非ズ、右ノ後観法ハ初年者ニ対スル説明ト
 シテ明瞭デアアルカ、實際ノ計算ニハ此方法ニ依ラズシテ常ニ未来ノ方ヲ
 眺メテ計算スル、之ヲ前観法 *prospective method* トイフ、之
 ハ計算ノ時期ニ於テ会社カ被保険者ニ対シテ有スル義務ノ分量ト之ニ対
 スル権利ノ分量トシテ比較シテ其差額ヲ会社ノ債務トシテ積立金ヲ計算
 スルノデアアル、会社カ被保険者ニ対シテ有スル義務トハ被保険者ノ死亡
 又ハ契約ノ満期ニ当リテ会社カ支拂フベキ保険金ノ減価デアアル、其レ
 ハ其時ノ一時性ノ純保険料ト等シイモノデアアル、次ニ会社カ被保険者ニ
 対シテ有スル権利トハ將來会社へ受取ル可キ純保険料ノ現価ト之ハ其純

保費料ヲ年金ト考ヘテ、其現価ヲ計算スレバ之ヲ得ラレレノデアレ、而
 シテ保費契約締結ノ齡同ニハ西者ノ分量カ等シクシテ権利義務ハ平衡ノ
 状態ニ在ルカ一度保費料ガ拂込マレタ以上ハ保費者ノ権利ハ其又ケ減ク
 ス、之ニ及シテ義務ノ分量ハ次第ニ増加シテ行ク、故ニコハニ其差額カ
 次第ニ大キノナレ、之ガ即チ保費料積立金トシテ会社ノ債務ニ計算サレ
 レノデアレ、此ノ如キ見方ヲスレ方ガ保費数字ノ計算上便宜デアレカ
 ラ實際ニハ前掲法ガ專ラ用ヒラレル、然シニソノ方法夫ニ理論ニ於テモ
 亦計算ノ結果ニ於テモ相異ルコトナシ、

保費料積立金ノ計算ハ上ノ説明ニ於テハ純保費料ノミヲ採用シタノデ
 アレ、附加保費料ハ事業費ニアレルモノト考ヘ全ク計算ニ入レテナイ、
 故ニ之ヲ純保費料式積立金計算方法トイフ、之ガ理論上正由テ方法デア
 ルカ新設会社ニ於テハ此方法ニ依リ難イ事情アリ、故ニ我輩法施行規則
 ニ六條ニ依レバ、純保費料式ヲ原則トスレケレドモ之ニ異ル計算方法ヲ
 トレコトヲ許シテキル、然モ最モ普通ニ用ヒラレテキルモノガ *Pillman*

式ノ計算ノ計算法デアレ、其方法ハ一各初年定額保費料式トイヒ、第一
 年目ハ積立金ヲ全ク成サズシテ之ヲ新契約ノ費用ニ流用シ第二年目以後
 ノ積立金ヲ幾分カ増加シテ次第ニ其流用額ヲ彌補スル方法ナリ、其第一
 年目ニ於テ積立金ヲナサズトイフコトヲハ即チ第一年目ヲ一年定期保費
 ト見タモノデアレ、カノ上述ノ如キ名前ガ付イラ居ル式デアレ、其流用

Pillman ト云フキル。

保費契約ニハ積立金カ生シルカラ、保費証券ハ保費契約ノ証明証書ヲ
 アルト同時ニソノ積立金即チ一定ノ金銭價值ヲ表ハシテキルモノデアレ、
 コレヲ保費証券ノ價額 *policy value* トイフ、コレハ被保費者
 カ保費者ニ対シテ有スル債権ヲアルカラ、コレヲ担保トシテ後者ハ前者
 ニ貸付金ヲナスコトカアル、コレヲ保費証券担保貸付 *policy loan*
 トイフ、通例ハ此ニ連ヘル解約價額ヲ標準トシソノ一定割合迄ヲ貸付ケ
 ルモノデアレ、
 契約ノ解除、失効又ハソノ他ノ理由ニヨリテ保費者カ保費金支払ノ責

ニ任セサルトキハ保險者ハ被保險者ノタメニ積立テタル金額ヲ返還シナ
 ケレハナラヌ、此ノ金額ヲ解約價額 *surrender value* トイフ、
 此ノ價額ハソノ契約ニ対スル責任準備金全部テアル筈テアルカ保險約款
 ニハ一定額ヲ控除シタルモノヲ解約價額トナスコトト定メテキル、コレ
 ハ未タ回收サレナイ、新契約ノ費用及ヒ將來ノ利益ヲ考ヘタモノテアル、
 契約ノ失効又ハ解除 *laps or termination* ニ當リ解約返
 戻金ヲ支払フ代リニコレヲ以テ一時私ノ保險料ニ當テ旧契約ト同一ノ條
 件テアツテ只保險金額タケテ減少シタル私済証券(又ハ私済証券) *paid-up policy*
 ヲ発行スルコトカアル、例ヘハ或ル契約カ十年経続シタ
 ル後解約返戻金カ一九〇円支払レル代リニコレヲ一時私ノ保險料ヲ考ヘ
 ルナラハ三一八円ノ私済証券カ得ラレルカ如シ(四円ノ代リノ)同様ノ
 場合ニ延長保險 *extended insurance* 又ハ経続保險ト称スル
 方法カ取ラレルコトカアル、コレハイハバ保險証券担保償付ケノ一変形
 テアツテ或ハコレヲ保險料ノ自動的払込ト称スルコトカアル、コレハ解

約返戻金ノ一部ヲ以テ翌年度ノ保險料ニ振返ヘ解約返戻金ヲ以テ保險料
 ニアテラレ得ル限リソノ契約ヲ自動的ニ存続セシメル(將來保險料ヲ私
 込マナイ) 解約價額ノ盡ルニ至ツテ初メテ保險契約ヲ消滅セシメルノテ
 アル即チ將來ニ向ツテハ此ノ契約ハ料済ノ定期保險トナルノテアル、(保
 險金額ハ旧ニ同シ)

第四章 其他ノ問題

死亡保險ニハ反対撰択ヲサケルタメニ医的審査ヲ行フ、シカルニ此ノ
 方法ハ費用ヲ要シ、又契約申込人ニ不快ヲ與ヘル故ニ無審査保險ヲ行ハ
 ントスル傾向カアル簡易保險ニアリテハ各国共ニ無審査テアルカ普通保
 險ニ於テモ此ノ方法カ取ラレントスル傾向カアル、此ノ場合ニ保險者ハ
 如何ニシテ撰択ヲ行ヒ購保者ヲ選ケントスルノテアルカ、ソノ方法ハ
 一、医的審査ニ代ヘテ普通人ノ常識ニ基ク望診即チ應接ニヨリテソノ健

康ヲ判断スルノテアル、

二、申込人ヨシテ過去及ヒ現在ノ健康状態血統ノ状態等ヲ詳細ニ記入セシメテコレヲ宣誓セシメ此ノ告知義務違反ニ対シテハ契約ヲ無効トスル、

三、一定ノ待期又ハ不担保期間ヲ設ケテ反対撰択ヲ防ク、

弱者ニ対シテハ或ハ契約ヲ拒絶スルコトカアル或ハ保険料ヲ増額シテ(例ヘハ三〇歳ノ人ニ四〇歳トシテノ保険料ヲ払ハシメルカ如シ)契約ヲナスコトモアル、其ノ増額方法又ハ契約条件ノ変更ニ就テハ病氣ノ種類其ノ他ノ事情ヲ考慮シテ適當ニ決定セラレル、危険ナル職業、熱帯地方ノ住居等ニ対シテ之ヲ特別危険ト名付ケル、一定ノ割増保険料ヲ取ルコトカ普通テアル、古クハ之等ノ条件カ甚タ嚴重テアツタカ近年ニ至リ同業者間ノ競争ノ激シイタメニ次第ニ之等ノ条件カ緩和サレタ、現在ニ於テハ戦争危険飛行機乗り、潜水艦ノ乗組ノ如キ極メテ稀ナル場合ノミ割増ヲ要求スルニスギナイヤウニナツテ来タ、

普通ノ生命保険ニ付テ団体契約カ外国テハ次第ニ盛シニ行ハレテキルコレハ多クハ諸会社ニ於テ使用人優遇ノタメニソノ会社カ保険料ヲ負担シテ契約スルノテアル此ノ場合ニハ身体検査ヲ必要トセス又契約ノ募集費ヲ要セス保険料ノ徴集モ亦簡單テアル、此ノ場合ニハ多クハ一年定期ノ保険トナシ、毎年コレヲ更新スルノテアヤカ多数人ヨ一団体トシテキルカラ此ノ保険料略一定セラレ得ルノテアル、

生命保険契約ノ中ニ痼疾又ハ傷害ノ条件ヲ付ケ加ヘルコトカ外国テハ次第ニ盛シニナリ、我ク固ニ於テモ選信者カコレヲ採用シタ即チ例ヘハ痼疾者ニ対シテハ將來ノ保険料ヲ免除シ或ハ痼疾者ニ年金ヲ與ヘソノ死亡ノ際ニ或ル金額ヲ與ヘ或ハ既ニ支払タル年金ヲ控除シタル額ヲ與ヘル等種々ノ条件カ行ハレテキル、傷害ニ付テモ被害者カ重大ナル負傷ヲナシタルトキハ時ニ一定額ヲ與ヘルコトモアリ、傷害ニヨル死亡ニ対シテハ倍額ノ保険金ヲ支払フ、

第二部 火災保險

第一章 序言

火災ノタメニ家屋其ノ他ノ財産カ破壊セラレルコトハ国民ノ幸福ニ大ナル關係ヲ有スルカ故ニ極メテ古イ時代カラ共同基金ヲ設定シテ之ニ具ヘルカ如キ方法カ諸國ニソノ例カ乏シクナイ、同様ノ思想ニ基テ一七八世紀ニ及ンテハ獨乙各地方ニ公立ノ火災保險所カ設ケラレ、或ハ建物或ハ動産ヲモ合セテ保險ヲナシ又或ハ之ヲ任意保險トナシ、或ハ之レヲ強制保險トスルモノカ施ケラレ今日尚存在スル、コレト相並ンテ海上保險ノ刺戟ヲウケテ私官事業トシテ火災保險ヲナスモノカ十七世紀以來英國ヲ初メ他ノ歐洲諸國ニ起ツタノテアル、我國ニ於テハ開國以來外國保險業者カ居留地ノ外人相手ニ早クカラ之ヲ営ンテキタカ我國民ニ對シテハ

殆ント行ハレナカツタ、コヽニ於テ明治十二年ニ大藏省ニ火災保險取締條例ヲ設ケ全國ノ家屋ニ對シテ強制火災保險ヲ行ハント欲シテ獨乙諸國ノ事例ヲ調査シソノ法律案モ作ラレタカ遂ニ實現スルニ至ラナカツタ、ソノ事情ハ森氏日本家屋保險國營論ニアリ、下ツテ明治二十年頃ニ及ンテ企業熱カ勃興シ、コヽニ始メテ小規模ノ火災保險会社カ設ケラレタ、明治二十六年以後ニ於テ再ヒ好景氣ニ乘シテ多數ノ火災保險会社カ設ケラレタ、カクテ次第ニ發達シテキテ最近ニハ歐州戰爭ニヨル好景氣ニ乘シテ新設会社又ハ既存ノ海上保險会社ニシテ火災保險ヲ兼ネルモノヲ生シ最近ノ統計ニヨレハ内國会社カ五十二及ヒソノ内三社ハ小口ノ動産保險ヲ営ム特殊ノモノテアル、残リノ四十七ノ中テ一社ヲ除イタモノカ相合シテ大日本火災保險協會トイフ一ツノハ有テるヲ組織シテキル、又外國火災保險会社ハ二十八アルカソノ中二十八英國会社六ハ英領殖民地会社一香港会社三、*New Zealand* 会社ニ、上海ニ本店ヲ有スル会社一ニカ米國ノ会社テアル、要スルニ凡テ英國系統ノ会社ノミテアル、ソレ

等ハ相合シテ外国火災保險協會トイフかるマ但續シテキル、而シテ
内外ニツノ協會カ更ニ聯合シテ大日本聯合火災保險協會 *Joint Fire*
insurance association of Japan ヲ組織シソノ本部ヲ凡
ノ内ニ置イテキレ、而シテ内国会社ノ元受保險ハ可成大ナル部分カ再保
險トシテ我國ニ營業所ヲ有スル外国会社又ハ直接外國ニ向ツテ流レ出ル
ノテアル、

第二章 危險ノ測定

火災保險ニ就テハ *physical risk* 物的危險、*moral risk* 人的危險、
人意的危險トヲ測定スルヲ要ス、*physical risk* ノ研究ハ
火災保險工学 *fire risk engineering* ノ研究ニ属スルモノテ
アル、*fire risk engineering* 式ハ之ヲ火災危險測定術 *fire risk damage* 名付ケテ
キル、即チ建物ノ構造ソノ内容タル動産ソノ中ニ行ハレル職業又動産ニ

付テハソレヲ入レテキル構成、周圍ノ狀況、防火消火ノ設備、物品ノ化
学的性質等ニ考ヘネハ十ラ又ハテアル、而シテソノ調査ノ結果カ料率表
トシテ定メラレテアルカラ具体的ノ場合ニハ此ノ表ニ照シテ料率カ決定
セラレル、火災統計ハ内務省ト商工省ノ双方ニヨリテトラレテキルカ不
完全テアツチ火災保險ノ資料トシテハ只一應ノ参考トナルニスギナイ、
我國ノ如ク建物ノ構造、市邑ノ整理等ニツイテ標準的ノモノノナイ所テ
ハ物的危險ノ研究カ誠ニ困難テアル、政州ニ於テハ之等ノ点カ非常ニ統
一セラレ標準化セラレテキルカラ料率ハ甚タ単純テアル、米國ニ於テハ
木造家屋ノ多キコト火災危險ノ多イコト等ノ事情ニ刺戟サレタメカ危
險測定術カ甚タ発達シテキテ *New York* 方面テハ *Morris's me-*
thod カ採用セラレ *Chicago* 地方ニ於テハ *Dean's method*
カ採用セラレテキル、二者共ニ標準的建物ヲ基礎トナシ、
具体的ノ場合ニハ此ノ標準ニ照シテ一定率ヲ増減スル、
保險制度ニハ *Moral risk* カ件フコトハ免レナイカ特ニ火災保

險ニ於テハシノ結果カ公安ニ反スルコトカ大テアル。政ニ保險者ノ營業
 上ヨリ見テモ又公安ノヒカラ見テモ注意スル必要カアル。從ツテ被保險
 者ノ信用財產被保險物ノ種類等ニツキテ注意スルコトヲ要スルカ、特ニ
 重大ナル点ハ超過保險 *Over insurance* ヲ慎シムニアリ。商三ハ六條ハ超
 過保險ニ付イテ超過部分ハ無効ト定メ、普通保險契約ニモ又之ヲ明記シ
 テキルカ動モスレハ不謹慎ナ保險者ハ保險料收入ノ大テアルコトヲ欲シ
 テ好シテ超過保險ヲ欲スル、而シテ若シ被保險者カ惡意又ハ不注意ニヨ
 リテ事故ノ発生ヲ慎重ニ考慮シナイナラハ之ヨリ生スル結果ハ知ルヘキ
 事ニ、但シ時トシテハ物價ノ変動等ニヨリテ或ル契約カ果シテ超過保險
 トナレリヤ否ヤ、又然ラサル場合ニ於テモ其ノ被保險物ノ價(保險價額)
 カ何程ニアルカラ決定スル必要カアルカラ損害填補額ハ事故發生ノ際ニ
 於ケル價ニヨルモノト定メラレテキル。商三九三條我火災保險会社ハ予
 ×被保險物ノ價ヲ定メ損害填補ニアタリテハ此ノ價ヲ爭ハナイトイフ契
 約即チ定價保險契約 *Valued policy* ハコレヲ行ハサルコト、定メ

テキル故ニ商法三九四^條ハ實際ニハ適用ハナイ。此ノ商法ノ精神ハ蓋シ損
 害填補額ヲ一々事故發生ノ際ニ於ケル時價ニヨルモノトシテハ爭ノ生スル
 虞ノアルコトヲ考ヘテ定價保險契約ヲナスコトヲ認メコレニ對シテハ保
 險者カソノ價額カ着シク^過當テアルコトヲ証明シタル際ニハソノ填補額
 ヲ減少シ得ルモノト定メテキル。此ノ問題ハ諸外國ノ法制ニ於テモソノ
 利害カ論セラレテキルノアアルガ宛ニ角我保險業者ハ定價保險^契約ヲ全
 ク拒絕シテキル *Moral risk* ヲ防ク一ツノ方法ハ一部保險 *Under*
insurance, or under cover、^{テアル} 即チ保險價額(被
 保險物ノ実價)ヨリモ保險金額ヲ少ナクスル方法テアル。例ヘハ保險價
 額ノ八〇%ヲ保險金トスルカ如シ。コノ場合ニハソノ不足額ハ被保險者
 自ラ共同シテ保險シテキルモノト考ヘルコトカ出來ルカラ一部保險ノ代
 リニ共同保險 *Co-insurance*、^{稱セラレ}ルコトカアル。殊ニ *American*
 ニ於テハ此ノ場合ノ共同保險ト云フ言葉ハ一部保險ノ意テアルコトヲ注
 意スルコトヲ要ス。此ノ方法ニヨリテ被保險者自身モ損害發生ニ就イテ

共同ノ利害ヲ感スルカラ *Moral risk* ヲ防キ得ルノテアル。一部保
 險ノ契約ニ付キ損害カ生スレハ保險者ハ保險金額ノ保險償額ニ対スル割
 合ヲ以テソノ損害ヲ填補スルノヲ常トス。コレヲ比例填補ノ *pro rata*
 ノ方法トイヒ我商ニ凡一條及ヒ普通保險約 數ニ於テ採用サンテキル。例
 へハ保險償額一万円保險金額八十 円ソノ損害五千円ナル時ハ

$$\begin{array}{l} \text{保費額} \times \frac{\text{損害額}}{\text{保金額}} \\ 5,000 \times \frac{8,000}{10,000} = 4,000 \end{array}$$

トナル。但シ外國ニ於テハ時トシテ特別契約 *specific policy* ニ
 ヨリテ保險金額ヲ限度トシテ絶對的ニ損害ヲ填補スルコトヲ約束シテキ
 ルコトカアル。コノ方法ニヨレハ上ノ場合ニ五千円カ悉ク填補サレルノ
 テアル。但シ我國ニテハ此ノ契約ヲ行ハナイ。一部保險ハ一ツノ又点カ
 アル。即チ保險ニヨリテ損害填補ヲ計リ被保險者ノ經濟生活ヲ安定ナラ
 シメントスルニアタリ、ソノ一部ヲケシカ填補カ得ラレナイノカ又点テ
 アル。故ニ保險ノ作用ヲ完全ニ發揮サセルタメニハ全部保險 *full*

insurance, full cover カ必要テアル。而シテ近年ニ至リ
 テハ事故ノタメニ間接ニ生スル損害ヲモ填補セント欲シテ事後損害保

Consequential loss insurance 又ハ營業損害ノ火災保

險 *insurance against loss of profit by fire*

トイフモノカ行ハレテキタ。即チ火災ノタメニ新築 休業等ヲ余
 議ナクセシメラレルヨリ損害ハ當然予期セラレルコトヲアル。故ニ其ノ
 帳簿ヲ調ヘテ火災ノ前ト後トニ於ケル營業利益ノ差ヲ調ヘテコレニ対シ
 全部又ハ一部ヲ填補スルノテアル。但シ我國ニ於テハ未ダ許サレテナ
 イ。

第三章 危險ノ分散

各個ノ被保險物ニ付テソノ危險ヲ測定シタル上テ保險者ハソノ事業ノ
 安全ノ上ニ事業全体ノ上ニ於ケル危險ノ分散ヲ注意シナケレハナラヌ。

即ち事業全体ノ上ニ於テ損害ノ発生ヲ平均シ、損害ノ程度ヲ緩和セシメ
 ルタメニ可成、保険金額ノ差ノ少ナイ被保険物ヲナルヘク多少ニ可成、諸方
 ニ散在シテ持ツコトカ必要ナルコトニヨリテ平均ノ法則カヨク働キ危
 險分散主義ニ叫ブコトカ出来ルノテアル、ソノ方法トシテ
 一、一ツノ危険ニ対スル責任ノ最大額ヲ制限スルコト、コレハ一時ニ多
 額ノ損害ノ発生ヲ防クタメテアル、其ノ限度ハ資本金積立金平均保険金
 額ノ程度等ヲ斟酌シテ定メルコトヲ要シ、但シ一危険ニ対スル責任
 額トイフノハ一契約ニ対スルモノトハ異ナルコトカアルコトヲ注意スヘ
 シ、例ハハ分離危険 *separate risk* トイフ防火壁其ノ他ノ方法
 ニヨリテ嚴重ニ隔テラレテキル教個ノ建物ヲ一契約ヲ保険スルトキハ各
 危険毎ニ一各建物毎ニ一其ノ責任額ヲ定メ従ツテ全体トシテハ相當多額
 ニ上ルコトヲ妨グナイ、此ニ反シテ集合危険 *collective risk* ト
 イフ教個ノ建物カ嚴重ニ隔テカナイ時ニハコレヲ合セテ *one risk* ト
 見ルヘキモノテアルカラタトヒ之等ノ建物ニツイテ教個ノ契約カ締結セ

ラレキルニモセヨ、コレヲ合セテ *one risk* ト考ヘ、ソノ責任額ノ最

大限ヲ考ヘルコトヲ要ス、

二、危険ノ密集ヲ避ケルコト、

一ノ事故ノ発生ニヨリテ多額ノ損害ヲ受ケルコトカアルカラ前述ノ如
 ク一危険ニ対スル以外ニ一地域ニ対スル契約高ヲ制限スル必要カアル、
 故ニ例ハハ火災ノ危険ヲ遮断シ延焼ヲ防クニ足ルヘキモ、ヲ地勢防火建
 築物等ノ上ニ求メ一ツノ町ヲハ若干ノ危険区域ニ分チ一区域内ノ契約高
 ヲ制限スル必要カアルカラ保険業ハ主ナル都會ニツイテハ火災保険自ラ
 依ツテオル、

三、再保険

保険者カーツノ危険ニツキテ多額ノ契約ヲナシ、又危険ト一区域ニ密
 集シタル如キ場合ニハ相當ノ部分ヲ自分ノ保有額トシテ留メ之ヲ超過ス
 ル金額ニ付テハ、コレヲ他人保険者ニ再保険ニ付シ以テ自己ノ責任ヲ輕
 減スル必要カアル、コレニヨリテ危険分散カ行ハレル、再保険ノ條件ハ

元受契約ノ通りトスルハカ普通テアル、而シテ再保険者ハ元受保険者ニ
 ニ対シテ保険料ノ一定割合ヲ再保険手数料トシテ與ヘル、然ツテ再トシ
 テハ元受保険者ハソノ契約ノ金額ヲ再保険ニ付シテ其ノ手数料タケテ利
 得シ責任ヲ全ク免カレルコトサヘモアリ得ル、再保険ハ元受保険者ト再
 保険者トノ間ニ行ハレル特別ノ契約テ元受保険契約トハ全ク無関係テア
 ルカラ再保険者ノ支払能力ノ有無ハ最初ノ被保険者ニトリテハ無関係テ
 アル、而シテ再保険者ハ又其ノ引受ケテ責任ノ一部ヲ同業者ノ再保険ニ
 付スルコトカアル、コレヲ再々保険トイフ、之又一種ノ再保険契約テア
 ル、元受ケ保険者ト再保険者トノ間ニハ個々ノ契約ニ付キ交渉カ行ハレ
 ルコトモアルカ姉妹会社ノ間ニ於テハ予定再保険ノ特約ニヨリテ元受契
 約ノ一定割合又ハ一定額ニ超過セル金額ヲハ當然再保険セラレタルモ
 トナスコトモアル、

四、共同保険 *Co-insurance*
 共同保険又ハ分担 契約 トイフノハ、保険價額ノ過大ナルモノニ対シテ單

独ニコレヲ引受シナイ時ニ多数ノ保険者ハ各々ソノ一部ダケノ保険ヲ分
 担シテ引受ケルコレニヨリテ危険分担カ行ハレ此ノ場合ニ於テ多数ノ保
 險者ノ間ニ意思ノ連絡ノアル場合モアリ、又各保険業者カ孤立ニ一部分
 ノ契約ヲナシ、其ノ間ニ何等ノ意思ノ連絡ノナイコトモアル、但シ法律
 關係ニハ兩者ノ間ニ差異ハナイ、要スルニ各保険者ハ一部保険ノ契約ヲ
 ナシタニスヤナイ、其ノ數個ノ保険契約ノ總額カ保険價額ヲ超過セサル
 時ハ單ニ一部保険トシテ取扱ハレルカ若シソノ合計カ超過保險トナリタ
 タル場合ニハ、何レノ保険契約ヲ無効トスヘキカ、或ハ各保険者ノ責任
 額カ比例的ニ無効トセラレルカノ問題ヲ生ス、カクノ如キ契約（共同保
 險ニシテ且超過保險）ヲ法律學者重複保險ト名付ケテアル、此ノ場合ニ
 我ク商法ハ同時ノ共同保險タルト異時ノ共同保險タルトニヨリテ保險者
 ノ負担ヲ區別シテアル、同時ノ重複保險ニアリテハ各保險者ハ各保險金
 額ニ比例シテ損害ヲ分担スルノテアル、（商法三八七）換言セハ超過部分
 ハ各ノ契約ニ付イテ比例的ニ無効トセラレルノテアル、即チ左表ノ如シ

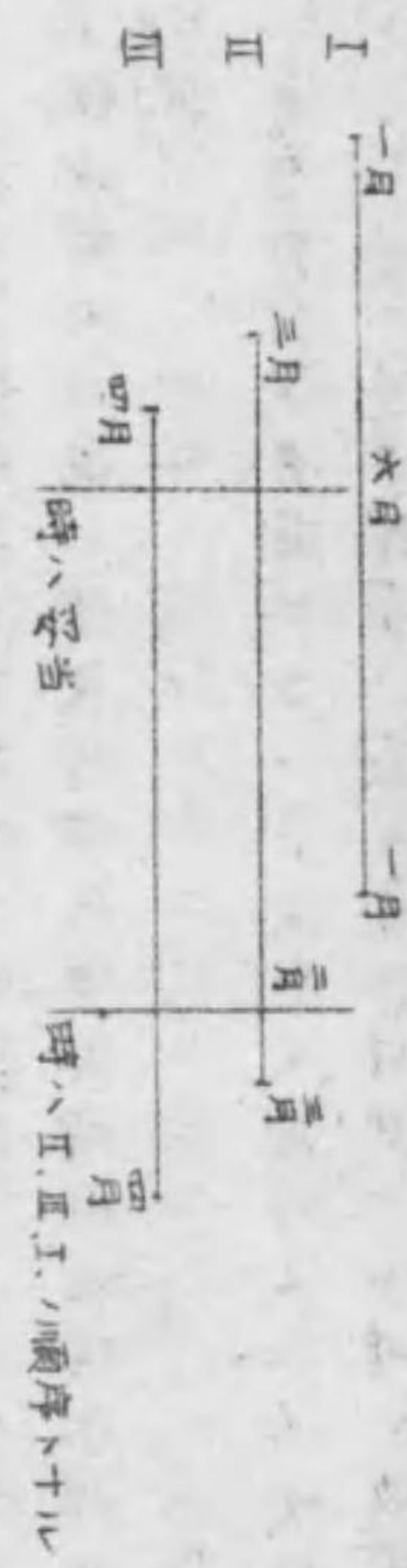
保險者	保險金額	全損害(甲)	損害額(甲)	分損害(乙)	負担額(乙)
I	8	10	5.7		2.3
II	4	10	2.7	4	1.1
III	2	10	1.4		0.6
			8		3.2
			2		0.8
			0		0

$$4 \times \frac{8}{8+2+0} = 3.2$$

$$4 \times \frac{2}{8+2+0} = 0.8$$

而ルニ異時重複保險ニアリテハ(相次 逐次順次) 商法三八八條ハ
 順次填補主義ヲトリ、第一順位ノ保險者ハ先ツ損害ヲ填補シ若シソノ保
 險金額ク損害ノ全部ヲ填補スルニ足ラサルトキハ次第ニ第二順位者第三
 順位者カ其ノ残額ヲ填補スルモノトシテキル、此ノ主義ノ下ニ於テ分
 ノ場合ニ於ケル各保險者ノ填補額ニ付テハ法律ノ規定カ不明瞭ナルケ
 レトモ全損ノ場合ニ於ケル各保險者ノ責任額ヲ基礎トシテ填補額ヲ分担

スルモノト解釈スルカ合理的ナル、(例ハ左表)



ナレトモ我國ノ保險会社ハニツノ場合ヲ同一ニ取扱ヒ凡テ同時ニ比例
 的ニ分担シ順序填補ノ主義ヲ排斥シテキル、コレ實際上ノ理由ニ出スル
 モノテアル、即チ商法異時重複保險ニ關スル規定カ一般ノ場合ニ於テ誤
 マレル思想ニ基ケルカ故ニコレヲ排斥シタ、

第四章 火災保險約款

商法ノ保險契約ニ關スル規定ハ概シテ任意規定ナルカ故ニ當事者ハコ
 レニ異ル契約ヲナスコトヲ得、故ニ保險会社ハ普通保險約款ヲ設ケ保險

業法ノ規定ニヨリ大臣ノ認可ヲ受ケ之レニ基ツイテ契約ヲシテキル、改
 二商法ハ約款ノ不備ヲ補ヒ、又ハソノ疑義ヲ決スルニ役立ツニ止マル、
 而シテ我國ニ於テハ内国会社ハ殆ント同一ノ内容ヲ生スル共通ノ約款ヲ
 採用シ、外国会社ハ又之レト多少差異ノアル共通ノ約款ヲ採用シテキル
 改ニ火災保険ノ法律關係ハ約款ヲ第一トシ、コレヲ補フニ判例及ニ商法
 ヲ以テスヘキテアル、尚時トシテハ普通保險約款、外ニ特別ノ條項ヲ付
 ケ加ヘラレルコトモアル、今左ニ内国会社ノ約款ノ中テ注意スヘキ條項
 ヲ掲ケル、

一、左ノ四ツノ場合ハ保險契約ハ無効、

a. 保險契約ニ関シテ保險契約者又ハ被保險者ニ詐偽ノ行為アリタル
 トキ、

b. 保險申込ノ當時ニ同一ノ保險ノ目的ニツキ保險契約者又ハ其ノ他
 ノ人ト他ノ保險者トノ間ニ締結シタル保險契約ノ存在スル場合ニソ
 ノ旨ヲ保險申込書ニ記入シテ申出テサルトキハ他ノ会社トノ分担契

約ニ付テハ火災保險協會ニ加ハラサル会社トノ分担契約ハ之レヲ行ハス

c. 他人ノ為ニ保險契約ヲ締結スルモノカソノ旨ヲ保險申込書ニ明記
 シテ申出テサルトキ、

d. 保險契約者又ハ被保險者カ知レト否トヲ問ハス、保險契約ノ當時
 保險ノ目的カ既ニ火災ニ罹リタルトキ、又ハ火災ニカ、ルヘキ原因
 カ既ニ発生シタルトキ、

二、保險契約ノ當事契約者カ告知義務ニ違反シタルトキハ、会社ハ契約
 ヲ解除スルコトヲ得、但シ此ノ解除權ハ保險契約ノ時ヨリ五年(第一
 回ノ時ヨリ)又ハ会社カ解除ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一月ヲ経過シタ
 ル時ハ消滅ス一此ノ條項ヲ不可抗爭條項トイフ

三、一会社ノ保險シタル目的ニツキ重ネテ他ノ保險者ト保險契約ヲ結ハ
 ントスルトキハ、予メソノ会社ニ申出テ保險証券ニ承認ノ裏書ヲ得ヘ
 シ、此ノ手續ヲ怠レハ保險契約ハ失効ス、

四、契約者又ハ被保險者ハ其ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニヨリ時ニ於テ

モ着シフ火災危険ノ増加又ハ変更シタルトキハ会社ニ申入レテ保険証
 券ニ承認ノ裏書ヲ受クヘク、保険ノ目的又ハコレヲ入レタル建物ヲ改
 築又ハ修繕セントスルトキニモ同一ノ手続ヲナスヘシ、此ノ手続ヲ怠
 レハ契約ハ失効ス、又会社カ危険ノ増加又ハ変更アリト認メタルトキ
 ハ解約又ハ保険料ノ増額ヲナスコトアルヘシ、
 五、損害ハ通債ヲ以テ填補ス、但シ現品ノ交付又ハ修繕再築等ノ方法ヲ
 以テコレニ代フルコトアルヘシ、

六、左ノ場合ニハ特約ナキ限り填補ノ責ニ任セス、

a. 被保険者ノ悪意又ハ重過失ニヨリ生シタル損害、

水、火災ノ時ニ保険ノ目的ヲ窃取セラレ又ハ紛失シタルヨリ生シタル

損害

c. 戦争其ノ他争変ノタメニ生シタル火災及ヒソノ延焼、

d. 原因ノ直接ト間接トヲ同ハス地震又ハ噴火ノタメニ生シタル火災
 及ヒ延焼

七、動産保険ノ場合ハ被保険者カ帳簿其ノ他正確ナル方法ヲ損害額ヲ証
 明シ得ナイ時ハソノ不明ノ部分ニツイテハ損害ヲ填補セスヘ之ハ工場
 倉庫等ニ付テ適當ナルカ小商店又ハ住宅ノ如キニアリテハ困難ヲ生ス
 ルテアラウ)

八、保険ノ目的カ火災ニカ、リタル時ニ於テ其ノ目的ノ價ヲ保険價額
 トスル、而シテ一部保険ノ場合ニ於テハ左ノ割合ニヨリテ損害ヲ填補
 スル 此ノ條項ヲ英國ニテハ *average clause* (英) *Co-*

insurance clause

保険金額 = 損補額

一契約ノ中ニ保険ノ目的カニツ以上アルトキハ各個單獨ニ在リ割合ニ
 ヨリテ保険ノ目的ノ價額カ保険金額ヨリ少ナイ時即チ超過保険ノ時ニ
 ハソノ價額ヲ限度トシテ損害ヲ填補スル、即チ超過部分ヲ無効トスル
 同時又ハ異時ニ締結セラレタル他ノ保険契約カ同一目的ニ付キ存スル

時ハ各保険者ハ保険金額ノ割合ニヨリソノ損害ヲ填補スル一即チ異時
 重複保険ヲ同時ノ重複保険トテ同一視シテキル、又此ノ條項ハ重複保
 險ニ非サル共同保険ヲモ指シテキル、此ノ條項ヲ分担條項 *Contri-*
butions clause 各保険者ノ保険セル金額ヲ a, b, c トスル
 而シテ $a + b + c$ カ保険價額又ハ $a + b + c \times \frac{1}{n}$ 保險價額トスル、然
 ラハ

$$\frac{\text{損害額} \times \frac{a+b+c}{a+b+c}}{\text{保險價額}} = \frac{\text{損害額} \times \frac{a}{a+b+c}}{\text{保險價額} \times \frac{a}{a+b+c}}$$

若シ $a + b + c \checkmark$ 保險價額ノ時ハ超過保險ノ規定ニヨリ、上式ト同
 一二取扱ハレルコトニナル、

分損ヲ生シタルトキハノ損害ヲ填補シタルトキハコレヲ保險金額ヨ
 リ控除シソノ残額ヲ以テ残余ノ保險期間ノ保險金額トスル、但シソノ
 残額カ保險金額ノ $\frac{1}{5}$ 未満ナルトキハ之ヲ全損ト見做シ保險契約ハ直
 チニ終スル、以上ハ今日内国会社ニヨリ一般ニ用ヒラレル普通

以上ハ今日内国会社ニヨリ一般ニ用ヒラレル普通保險 數ノ中ノ主ナ
 ル点チアル、尚約款ニ記載ナイモノニ付キハ商法カ補充スルカラ例ハハ
 商法ノ三九二、三九三、一項、三九四、三九九ノ三ノ第三項、四〇二、
 四〇五乃至四〇九、四一一、二項、四一五乃至四一七、四二一、等ノ條
 文カコレヲ補充スル、

火災保險ノ經營ニ付キ注意スヘキ二点

- 一、大火危険ニ対スル積立金ノ必要 *conflagration reserve*
- (此ノ *reserve* 火保所得税トノ関係)
- 二、投資ノ方法、普通ノ商業銀行、ト同シク(二)確實 *secure*
- (三)有利 *profitability* (三)換價ノ容易ナルコト *market ability*
- (*negotiability*)

第三部 海上保險

第一章 沿革

海上保險ハ航海ニ関スル事故ニヨル損害ヲ填補スルモノテ海運業及ヒ商業ト深イ關係ヲ有スルカ故ニ紀元前三〇〇年ノ頃ニ既ニゴリシヤニ於テ冒險貸借 *Bottoming* ノ形ニ於テ行ハレテキタ、ガリシヤ人ハ昔盛ニ通商ヲ行ヒタルカ一方ニハ商業資金ノ調達ヲ必要トシ、他方ニハ造船術、航海術ノ幼稚テアツタコト、海賊ノ危険カ大テアツタコト等ノタメニ其ノ貿易ハ冒險的テアツタ 故ニ船主又ハ荷主カ貿易ニ出発セントスルニアタリ資本家ヨリ金を借入レ奉ニシテ無事ニ目的地ニ達シ又ハ帰航シタトキニハソノ借入金ニハ高イ利子ヲツケテ返却シ若シ不幸ニシテ損害ヲ蒙リタルトキハ一風波又ハ海賊ノタメニソノ損害ノ程度ニ應シ

テ全部又ハ一部ノ債務ヲ免ケレルコトトシタ、コレハ普通ノ貸借ト異ナルコトハ辨濟カーツノ條件ニカ、レルコト及利子ノ高カツタコトテアルコレカ今日ノ海上保險ト同シ經濟上ノ作用ヲナシタ、

此ノ方法ハ古代 *Rome* ニ傳ハツタ一三世紀ニ至ツテ法王カ利子禁止法ヲ作ツタカラ冒險貸借モ自ラ禁止サレタ、然シソノ方法ハ實際必要テアツタカラ條件付賣買ノ形式ヲトツテ引續キ行ハレタ、即チ表面上ハ賣買ノ形式ヲトリ債主ハ債主カラソノ目的物ヲ買入レテ代金ヲ支払ヒタルモノト見做シテ之カ無事ニ目的地ニ達シタル時ハ契約ハ成立セサルモノトシ従ツテ債主ハ借金ヲ返スヘキモノトナル、之ニ返シテ海難ニカ、ル時ハ賣買ハ成立シ債主ハソノ代價ヲ支払フヘキカ故ニ之ヲ彼ノ債權ト相殺スルモノトシ、而シテ借金ハソノ証書ノ作成ニ當リ若干ノ手数料(利子及ヒ保險料ニ当ル)ヲ支払フタノテアル、之モ亦今日ノ海上保險ト同一ノ經濟上ノ作用ヲナシタルノミナラス冒險貸借ヨリ更ニ一歩ヲ進メテ今日ノ海上保險ニ近ツイダノテアル、即チ債主ハ被保險者ハ保險料ヲ

先ツ支払ヒ、債主(保險者)ハソノ保險金ヲ事故發生後ニ支払フトイフ
思想ニ移ツタ之ヨリ次第ニ海上保險カ保險ノ名稱ヲ以テ行ハレルコト
ニナリ、地中海沿岸諸國殊ニ伊國ニ於テ之カ發達シ現ニ一四世紀ニ用ヒ
ラレタ保險証書ハソノ実物カ保存サレテオル、而シテ伊國ニ發達シタ海
上保險ハ世界的通信ノ發達ニ伴ツテ *Standards, Portugal, Spain*
等ニ傳ハリ更ニ英國等ニモ傳ハツタ。

英國ニ於テハ *Italy* 人殊ニ *Romants* 人ニヨリテ傳ヘラレタト
稱セラレテキルカソノ年代ノ如キハ明カテハナイカ一六〇一年ニハ既ニ
海上保險法カ制定セラレテキル、一七世紀ノ後半以後ハ *Lloyds* ニ於
テ盛シニ取引セラルルニ至ツタ、有名ナル *Lloyds* ノ起源ハ一ツノ
Coffee 店テアル、此ノ店ニハ海軍ニ関係アル人々カ多ク集マツタカラ
ソノ店ノ中テ海軍ニ関スル種々ノ取引カ行ハレタルノミナラス海軍ニ関
スル新聞欲ヲ発行スルコトニナツタカラ海軍関係者カ益々此ノ店ニ集ツ
タ此ノ主人カ死シタ後ハ一變シテ一ツノ *Club* トナリ、後ニハ法人組

織トナリ、海上保險、火災保險其他各種ノ保險ヲソノ海軍カ取引スル一
ツノ場所トナツタ、尚此ノ所カラ *Lloyds* ノ船名簿 *Lloyds's register*

of
海上保險海運ニ貢獻スル所カ多イ *Lloyds* ニ於ケル保險ノ取引ノ狀
況ハ取引所ニ於ケル取引ニ類シテキル、即チ正會員 *under writer*

ハ *Lloyds* ニ於テ保險營業ヲナス權利ヲ有ス、準會員 *non-under*
member ハ只此ノ場所ニ出入スル權利ヲ有スルニ過キナイノテ保險

契約締結ノ仲立ヲナス *broker* テアル、保險契約ハ各々ノ *Under*
writer カ自己ノ責任ヲ行フノテアツテ *Co*

ノ、*Under writer* ノ支払能力ニ付テ責任ヲ負ハナイ、又各 *Non-*
under writer ハ各自ノ計算ヲ以テ保險ヲ引受ケルノテアツテ、共同保

險ノ場合ニモンノ同ニ連帶責任ヲ持タヌ、各 *Underwriter* ノ引受
ケル金額ハ比較的少額テアルカラ、一ツノ保險証券ニ共同契約者トナレ

ルモノカ數十人ニ及ブコトハ稀テナイ、故ニ資力ノ比較的乏シイ個人企
一八五

業テアルニモ拘ラス、危険ノ負担ハ多数ノ同業者ノ間ニ自ラ巧ミニ分担セラレル。又各会員ハ毎日數十ノ保険ノ申込ヲ受ケルカラ此ノ方面カライフテモ *make* / 分配及ヒ平均カ得ラレルノアル。是個人企業者タル *Stogad's Underwriters* カ合本組織ノ大企業ニ対抗シテ世界的ノ名声ヲ博シテキル所以テアル。此ノ如ク一 *Underwriter* ノ担保スル金額ハ比較的小額テアル一申込ニ対シテ数十人ノ *Underwriters* ノ引受ヲ必要トスルカラ保険者ト被保険者トノ間ニ立ッ事同ノ仲立人ヲ必要トスル。英国ニ於テハ此ノ如ク *Stogad's* トイフ個人企業者ノ団体ニヨリテ海上保険(其他各種ノ保険)カ発達シテ并タカーセニ〇年ニ於テ所謂南洋熱 *South Sea Marina* ニ乗ンテ作ラレタル無数ノ会社ノ中ニ *Loyal exchange assurance Company* 及ヒ *London assurance Corporation* ノニ会社カ現ハレテ独乙以外ニ於テ海上保険業ヲ営ミ得ル独占權ヲ得タ。ソノ特種ハ約一〇〇年続イタカ遂ニ營業自由ノ思想カ高マルニ及ヒ一八二四年ニ此ノ特種カ

廃止カレタ。コレヨリ次第ニ多数ノ会社カ設ケラレ今日テハ此等会社ノ全体ノカハ *Stogad's* ニ優ツテキル。此ノ他英國ニハ船主ノ間ニ相互保険ノ組合ヲ設ケテ保険会社カ担保セテルカ如キ特殊ノ事故ニ対シテ相互扶助ノ制度ヲ設ケテキルモノカ多数アリ。例ハ、普通保険者ク損補セテル少額ノ單独海損第三者ニ対スル損害賠償。船舶抑留ニヨル損害等ノ如シ。

我國ニ於テハ古クカラ外國会社カ居留外國人ノタメニ海上保険ヲ営ンタコトハ明ラカテアルカソノ筆牒ハ明カテナイ。又我國民カ次第ニコレヲ利用スルニ至ツタ实例モ明カテアル。而シ我國民ニヨリテ此ノ事業ヲ営マレタ最初ハ明治六年開拓使カエソ地ヲ開拓スルタメニ保任社トイフ特許会社ヲ設ケタノカ最初テアル。シカシ之ハホトナク解散ヲ命セラレタ。次ニ明治十年第一銀行カ其ノ銀行ヲ取扱ツタ荷為替ノ物品ニ限リ海上保険ヲ引受ケタ此ハ主トシテ東北地方ノ米ヲ東京ニ廻送スル便宜ヲ計ルタメテアツタ。此ノ場合ニ銀行カ其價付ノ担保物ニ対スル危険ヲ引受

ケダノチアルカラソノ実債ニ於テハ冒險債借ト略同シモノトナリ、終ツタ
 其後明治十二年東京海上保險会社カ設ケラレルニ及ンテ第一銀行ハソノ
 保險業ヲ止メタ其ノ後ニ十六年ニ至リ好景氣ニ乘シテ教團ノ海上保險カ
 設ケラレルマテ同社ハコノ事業ヲ独占シテ平タ、此ノ後次第ニ此ノ事業
 カ発達シテ千ダカ政州戰爭ノ影響ヲウケ大正六年以來多クノ新設会社カ
 設ケラレ又既存ノ保險会社ニシテ兼業スルモノカ多敷出来タ、大正十三
 年度ノ保險年鑑ニヨレハ内国会社四ニ、一但シ他ノ損害保險ヲ兼ネテキル
 ソノ中大正十三年ニ此ノ事業ヲ現ニ營ンテキルモノカ三六社、外国会社
 ハ大正十年度ノ保險年鑑ニヨレハ二〇社アル、十年度ニ現ニ營業シテ平
 タノハ一四社、ソノ国籍ハ英國七、英領殖民地会社六、一香港三、上海一、
New Zealand 一、*Norway* 一、政州戰爭ノ起ルヤ戰爭危險ニ對
 スル保險料ハ非常ニ高ク、殆ンド船舶ノ航行カ社絶カレテウトシタ、ヨ
 ッテ我政府ハ海運及ヒ貿易保護ノタメニ海上保險ニカヨソ、キ、大正三
 年戰時海上保險保障法ヲナシ、六年七月ニ至リ之ヲ止メテ戰時海上再保

險法ヲ制定シテ国营保險ヲ行ツタ、補償法ハ保險業カ政府ノ指定セル戰
 時海上保險料率以下ニ於テ戰時保險ノ引受ケヲナシ事故カ生シタ時ニ政
 府カ無償ニ此ノ損害填補額ノ〇、八ヲ保險会社ニ補償スルモノトシタ、此
 レハ全ク外國貿易及内國産業ノ保護ノタメニシタ政策テアル、之カタメ
 ニ政府ノ支出金ハ約三千万円ニ上ツタカラ遂ニ國家財政ノ見地カラ再保
 險法ニ移リ、一定ノ保險業者カ本法ノ規定ニ從ヒ締結シタル元受保險契
 約ニ對シテ政府ハ一定ノ保險料ヲトリテソノ再保險ヲ引受ケタ、此ノ事
 業ハ我政府ノタメニ有利ニ終ツタ、而シテ戰爭ノ終了ト共ニソノ事業ヲ
 止メタ、